

キャンパスマスタープランについて	
1 一 1.目的	-
1 - 2 基本方針	
1 - 3. 位置づけ	
1 - 4. キャンパスの全体像	
1-5. 各キャンパス共通事項	4
A. 松本キャンパス	
2. 現状分析	
2-1. 配置図・現状写真・問題点	A - 1
2 – 2.ディベロップメントプラン	A-1
3. 松本キャンパスマスタープラン	
	A 0
3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針	
3-2.整備方針と戦略	A-3
3-3.カテゴリー別計画	
3 - 3 - 1. 全体骨格・フレームワーク	A-4
3-3-2. 施設配置・計画	A-5
3-3-3. パブリックスペースの計画	A-7
3-3-4. 交通・動線の計画	A - 9
3-3-5. 設備・インフラストラクチャーの計画	A-11
3-3-6. コミュニティ(地域・学生・教職員の交流)の計画	A-12
B. 長野(教育) キャンパス	
2. 現状分析	
2-1. 配置図・現状写真・問題点	
2 – 2 . ディベロップメントプラン ····································	B-1
3. 長野(教育) キャンパスマスタープラン	
3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針	B-2
3-2. 整備方針と戦略	B-3
3-3. カテゴリー別計画	
3-3-1. 全体骨格・フレームワーク	B-4
3-3-2. 施設配置・計画	
3-3-3. パブリックスペースの計画	
3-3-4. 交通・動線の計画	
3-3-5. 設備・インフラストラクチャーの計画	
3-3-6.コミュニティ(地域・学生・教職員の交流)の計画	D-12
B-at. 長野附属キャンパス	
2. 現状分析	D -± 4
2-1. 配置図・現状写真・問題点	
2 – 2 . ディベロップメントプラン	B−at−1
3. 長野附属キャンパスマスタープラン	
3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針	
3-2.整備方針と戦略	B-at-3
3-3.カテゴリー別計画	
3-3-1. 全体骨格・フレームワーク	B-at-4
3-3-2. 施設配置・計画	
3-3-3. パブリックスペースの計画 ·······	
3-3-4. 交通・動線の計画	
3-3-5. 設備・インフラストラクチャーの計画	

3-3-6. コミュニティ (地域・学生・教職員の交流) の計画 ………… B-at-11

C.	長野(工学)キャンパス	
	2. 現状分析	
	2-1. 配置図・現状写真・問題点	C-1
	2-2. ディベロップメントプラン	C-1
	3. 長野(工学) キャンパスマスタープラン	
	3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針	C-2
	3-2. 整備方針と戦略	C-3
	3-3、カテゴリー別計画	
	3-3-1、全体骨格・フレームワーク	C-4
	3-3-2. 施設配置・計画	
	3-3-3. パブリックスペースの計画	
	3-3-4. 交通・動線の計画	
	3-3-5. 設備・インフラストラクチャーの計画	
	3-3-6. コミュニティ (地域・学生・教職員の交流) の計画	
_	/TI TIT →	
υ.	伊那キャンパス	
	2. 現状分析	
	2-1. 配置図・現状写真・問題点	
	2-2. ディベロップメントプラン ····································	ו — ע
	3. 伊那キャンパスマスタープラン	
	3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針	
	3-2. 整備方針と戦略	D-3
	3-3.カテゴリー別計画	
	3-3-1. 全体骨格・フレームワーク	
	3-3-2. 施設配置・計画	
	3-3-3. パブリックスペースの計画	
	3-3-4. 交通・動線の計画	
	3-3-5. 設備・インフラストラクチャーの計画	
	3-3-6. コミュニティ(地域・学生・教職員の交流)の計画	D-12
	3 – 4. 附属施設の計画	D - 13
_	Lm+ > 2 ¬	
⊏.	上田キャンパス	
	2. 現状分析	
	2 - 1. 配置図・現状写真・問題点 ····································	
	2-2. ディベロップメントプラン	E-1
	3. 上田キャンパスマスタープラン	
	3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針	
	3-2. 整備方針と戦略	E-3
	3-3.カテゴリー別計画	
	3-3-1. 全体骨格・フレームワーク	
	3-3-2. 施設配置・計画	
	3-3-3. パブリックスペースの計画	
	3-3-4. 交通・動線の計画	
	3-3-5. 設備・インフラストラクチャーの計画	
	3-3-6. コミュニティ(地域・学生・教職員の交流)の計画	
	3 - 4. 附属施設の計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	E-13

#### はじめに

信州大学キャンパスマスタープランは、信州大学の全ての学生、教職員、様々なかたちで関わる地域の人々に 寄与する健全で持続的なキャンパスづくりのために企画・立案・実施されることを目的としている。キャンパス 整備は信州大学の理念・目標のもと常に最新の将来構想と歩調を合わせ、日々変わりゆく世界情勢や地域課題の なかで、教育・研究の場の確保という重責を担っており、その歩みを止めることは決してない。

なかでも、2019年に端を発する新型コロナウイルスの猛威は大学だけでなくあらゆる学びの場に大きな打撃を与え、キャンパスの風景を大きく変えた。これからのキャンパスは実空間だけには留まらないインターネットを介したあらゆる情報とテクノロジーとの協同の上に成り立つと言え、信州大学の全キャンパス・全領域の刷新が求められている。また、この数十年の間に発生した自然災害は大学キャンパスにも損壊を与え、開学以来およそ初めてと言える本格的な防災機能の強化が必須となっている。さらに、環境への配慮、カーボンニュートラルに向けた取組みは大学キャンパスが率先して実行しなくてはならない課題である。

このように、大学キャンパスは大きな変革の時期を迎えており、大幅な更新が必要であるとともに、独創性に満ちた経営戦略が求められる。だがそうであるならばなおのこと、『信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にする』という本学の理念をキャンパス整備において具現化する必要があるだろう。新たな時代に向けて本マスタープランが有効に活用され本学の進歩と躍進に繋がれば幸いである。

#### 1-1. 目的

信州大学は、松本、長野(教育)、長野附属学校、長野(工学)、伊那、上田、それぞれに沿革と特性の異なる6つの主要キャンパスを持つ地域分散型総合大学であり、各キャンパスを構成する施設やライフラインは大学の教育研究活動を支える重要な基盤である。

学生や教職員に対し安全で快適な教育・研究環境を提供し、それを未来に継承してゆくことは大学としての 責務であり、その実現のためには各キャンパスの特徴を生かし、長期的な視点に立って秩序ある施設整備を計 画的に進める必要がある。

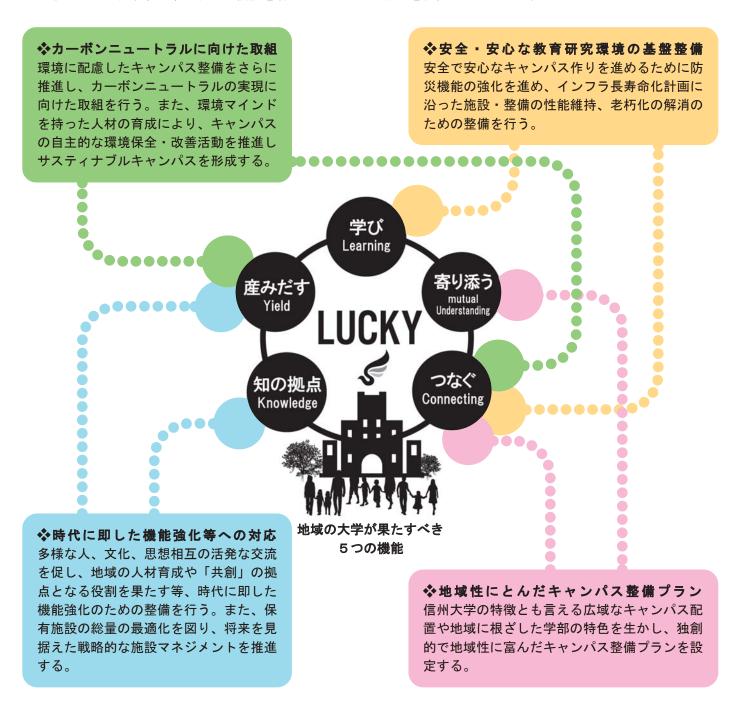
キャンパスマスタープランは、魅力あるキャンパスを実現するためキャンパス環境全体の基本的な計画として作成するものであり、本学の理念・目標や中期目標・中期計画を踏まえ、信州大学にふさわしいキャンパスづくりを目指し今後の将来像を描くものである。

# 1-2. 基本方針

キャンパスマスタープランを策定するにあたり、地域連携や安全対策、機能強化対応、地球環境への配慮など、信州大学のキャンパスづくりの基本となる考え方を取りまとめ、将来に向けたキャンパス計画の方向性を示すため、環境施設マネジメント委員会(令和3年12月)において「信州大学キャンパスマスタープラン2023基本方針」を策定した。

# ◆信州大学キャンパスマスタープラン2023基本方針

信州大学の特色及び取り巻く現状を認識し、信州大学長期ビジョン "VISION2030" 及び改革実行プラン「inGEAR」の理念に基づき、本学が果たすべき機能を有したキャンパス作りを目指すものとする。



1

#### 1-3. 位置づけ

信州大学では、法人化以前よりキャンパスごとに施設整備の長期計画書を策定していたが、法人化後の長 期的な視点に立った新たな施設整備計画を策定するため、平成20年3月に「キャンパスマスタープラン20 O7」が策定され、その後、信州大学を取り巻く環境の変化などに対応するため、概ね5年ごと(2013年、 2018年)に計画の見直しを行ってきた。

令和4年度より、国立大学法人は第4期中期目標・中期計画期間に入り、中村宗一郎学長の新体制のもと 「信州大学改革実行プランinGEAR 2022-2024」が、信州大学の価値創造と社会的責任を果たすための具体的 な行動計画として策定され、新たな大学経営への取り組みが始まった。

また、令和3年度より文部科学省の「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画」がスタートしているこ とから、これらを踏まえ、策定から5年が経過した「キャンパスマスタープラン2018」を再検証し、新 たな実行プラン実現に向けた目指すべきキャンパスの方向性を示す「キャンパスマスタープラン2023」 を策定することとした。

「信州大学中期目標・中期計画」

URL: https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/policy/plan/mediumterm/

「信州大学長期ビジョン"VISION2030"」

URL: https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/policy/plan/next/vision2030/

「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画(令和3~7年度)」(令和3年3月 文部科学大臣決定)

URL: https://www.mext.go.jp/a menu/shisetu/kokuritu/1318409 00001.htm

「信州大学改革実行プランinGEAR 2022-2024」

URL: https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/policy/plan/ingear/

令和

16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

ビジョン等 大学基本方針

文部科学省

年度

第1期

第2期

第3期

第4期

第5期

アクションプラン PLAN

信州大学ビジョン2015

平成

PLAN the N·E·X·T VISON2030"

信州大学長期ビジョン

改革実行プラン in GEAR

キャンパス マスタープラン 2007

キャンパス マスタープラン 2013

キャンパス マスタープラン 2018

キャンパス マスタープラン 2023

キャンパス マスタープラン 2028

第2次 施設緊急整備 5か年計画

第3次 施設緊急整備 5か年計画

"the FIRST"

第4次 施設緊急整備 5か年計画

第5次 施設緊急整備 5か年計画

第6次 施設緊急整備 5か年計画

- 信州大学第4期中期目標・中期計画 (令和4年~令和9年) キャンパスマスタープランの策定
- ・老朽施設の機能改善
- 共創スペースの確保

信州大学

キャンパスマスタープラン2018

(平成30年3月)



改革実行プランin GEAR

- (令和4年4月)
- キャンパスマスタープランに基づく 計画的な施設整備
- ・安全・安心な教育・研究環境の充実・環境に配慮したキャンパス整備
- ・地域の共創拠点に活用できる施設の整備・施設の防災機能強化を推進
- 長寿命化に向けた維持保全や老朽化対策



信州大学 キャンパスマスタープラン 2023

(令和5年3月策定)



信州大学長期ビジョン"VISION2030" (令和元年6月)

・持続可能なキャンパス環境を整備



第5次国立大学法人等施設緊急整備5か年計画 (令和3年3月)

### 1-4. キャンパスの全体像

信州大学の概要(令和4年5月1日現在)

・ 創 立:昭和24年5月31日(松本高等学校ほか、6校の師範学校及び専門学校が母体)

・学 部:8学部【人文・教育(附属小、中、特別支援学校)・経法・理・医(附属病院)・エ・農・繊維】

・大学院: 5 研究科【総合人文社会科学・教育学・総合理工学・医学系・総合医理工学】

·構成員:学部生 8,804人 大学院生 1,994人 教員等 1,146人 事務職員等 1,528人

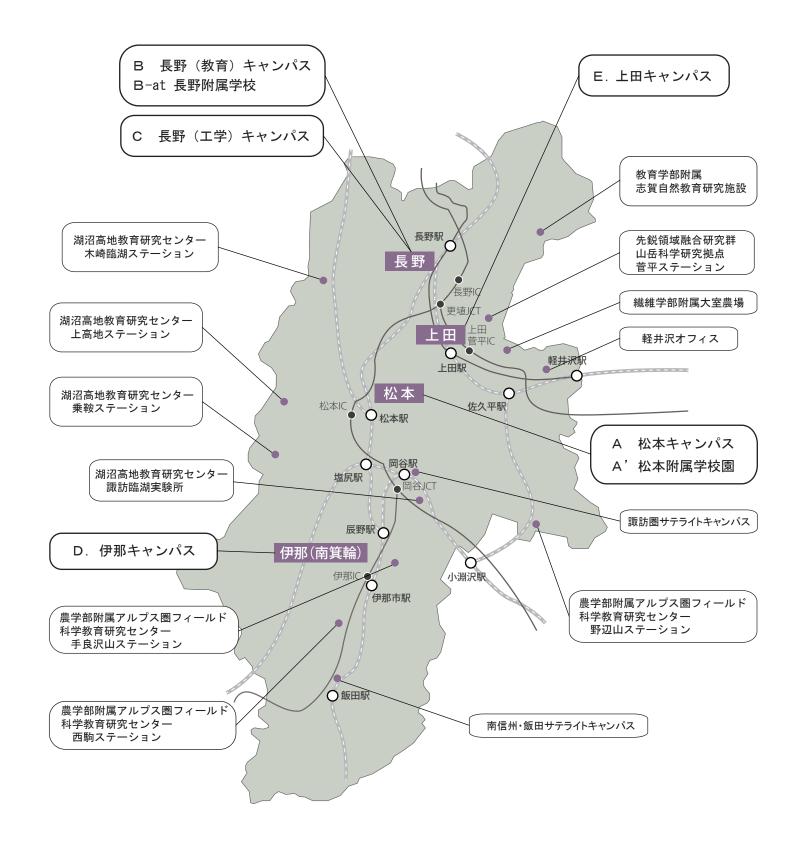
・規 模: 敷地面積 6.532.549㎡ 建物延べ面積 461.835㎡ 主要団地 6キャンパス

・その他:図書蔵書数 1,221,256冊 病院病床数 717床 外国人留学生 335人

信州大学は、6つの主要キャンパスとその他キャンパスから構成される(下表及び右図参照)。

本キャンパスマスタープランにおいては、この6キャンパスそれぞれについて検討を行い、下表の通り分類記号を付すものとする。

地区	分類記号	キャンパス名	各施設名(延床面積)	敷地面積
A 松本キャンパス		内部部局 (16, 764㎡) 附属図書館 (6, 478㎡) 人文学部 (4, 674㎡) 経法学部 (8, 964㎡) 理学部 (17, 581㎡) 医学部 (48, 340㎡) 医学部附属病院 (94, 131㎡) 全学教育機構 (13, 003㎡)	257, 892m²	
	Α'	松本附属学校園	附属松本小学校(4, 233㎡) 附属松本中学校(5, 706㎡) 附属幼稚園(1, 110㎡)	55, 785 <b>m</b> ²
	В	長野(教育)キャンパス	教育学部 (24, 905㎡)	71, 047 <b>m</b> ²
長野市	B-at	長野附属学校キャンパス	附属長野小学校(8,379㎡) 長野附属学校キャンパス 附属長野中学校(7,810㎡) 附属特別支援学校(4,677㎡)	
	С	長野(工学)キャンパス	工学部(57, 966㎡)	68, 161 m²
南箕輪村	D	伊那キャンパス	農学部(29,991㎡)	525, 441 m²
上田市	E	上田キャンパス	繊維学部 (50,676㎡)	125, 305 m²
	附属志賀自然	然教育研究施設(山ノ内町)(1,097㎡)		69, 885 m²
	宇宙線地下額	規測所(長野市、安曇野市)(200㎡)		3, 266 m <sup>2</sup>
	附属アルプス	ス圏フィールド科学教育研究センター 西	駒ステーション(伊那市)(193㎡)	2, 518, 359m²
	附属アルプス	ス圏フィールド科学教育研究センター 手	良沢山ステーション(伊那市)(744㎡)	2, 288, 356m²
	附属アルプス	ス圏フィールド科学教育研究センター 野	辺山ステーション(南牧村)(2, 372㎡)	287, 846 m²
	繊維学部附属	属大室農場(東御市)(1,065㎡)		98, 093 <b>m</b> ²
その他	湖沼高地教育	育研究センター 諏訪臨湖実験所(諏訪市	) (1, 547m²)	1, 002m²
( 0)	湖沼高地教育	育研究センター 上高地ステーション(松	本市)(139㎡)	1, 530 <b>m</b> ²
	湖沼高地教育	育研究センター 乗鞍ステーション(松本)	市)(490㎡)	2, 591 m²
	湖沼高地教育	大町市)(41㎡)	428 m <sup>2</sup>	
	先鋭領域融領	2, 630 <b>m</b> ²		
	職員宿舎(柞	公本市ほか) (27,814㎡)		43, 554m²
		本市ほか) (16,874㎡)		22, 073 m²
	+	馆(松本市、長野市) (3,174㎡)		2, 943 m <sup>2</sup>
	学生課外活動	動施設等(松本市ほか)(416㎡)		770m²



### 1-5. 各キャンパス共通事項

## 1| 設備・インフラ (インフラ長寿命化計画)

#### Oはじめに

政府全体の取組として、国民生活や社会経済活動を支えるインフラに関する維持管理等の方向性を示す基本的な計画である「インフラ長寿命化基本計画」が、平成25年11月に策定された。

このため、文部科学省は、この基本計画を踏まえ、所管又は管理する施設の維持管理等を着実に推進するための中期的な取組の方向性を明らかにするため、「文部科学省インフラ長寿命化計画(行動計画)」を策定し、これにより、各施設の長寿命化に向けた取組を一層推進することとしている。本学のインフラ老朽化の状況については築25年を超える建物が全体の約6割を占めていることを踏まえると、今後、これらのインフラの老朽化が急速に進行し、維持管理等にかかる費用が増大していくことが予想される。そこで本学においても、施設の維持管理を着実に推進するため、目指すべき姿を踏まえ、「国立大学法人信州大学インフラ長寿命化計画(行動計画)」を平成29年3月に、「国立大学法人信州大学インフラ長寿命化計画(個別施設計画)」を平成31年3月に策定し、それぞれ令和3年3月に改定した。これに基づき、インフラ長寿命化に向けた取組を一層推進するものとする。

#### ○計画の範囲(対象施設)

本学が保有しているキャンパス内のインフラについて、安全性、経済性及び重要性の観点から、計画 的な点検や修繕等の取組を実施する必要性が認められるすべての施設(宿舎、取壊し予定建物、プレハ ブ等小規模施設を除く)を対象とする。具体的な対象施設は次のとおりである。

#### □対象施設 (施設項目)

建築 外壁・屋上防水・外構・屋外手摺り

電気 高圧変圧器・高圧受電盤・火災受信機・中央監視設備

屋外電力線(高圧・低圧)

屋外通信線(情報・電話・防災)

機械 受水槽設備(給水ポンプ等を含む)・冷暖房設備・エレベーター

屋外給水管(上水・中水)

屋外排水管(雨水・汚水・雑排水・実験排水)

屋外ガス管

#### 主な対象施設

分野		主な施設	施設数	単位
		大学教育・研究施設	127	棟
		図書館	7	棟
		体育施設	13	棟
	建	支援施設	33	棟
建	築	宿泊施設	19	棟
築 物	物	附属学校	27	棟
等		附属病院	13	棟
		大学管理施設	13	棟
	大学設備室等		16	棟
	道 路 等	1		

分野		主な施設	施設数	単位
		特別高圧受変電設備	1	箇所
		自家発電設備	23	基
		受変電設備(変圧器・配電盤)	64	箇所
		電話交換機	6	箇所
	基	中央監視設備	1	箇所
	幹設	受水槽設備	101	基
	備	冷凍機設備	11	基
基 幹		ボイラー	4	基
設		エレベーター	101	台
備等		屋外電力線	68, 946	m
	ラ 基 イ	屋外通信線	86, 370	m
	幹フ設ラ	屋外給水管	18, 012	m
	備 イ ン )	屋外排水管	35, 225	m
		屋外ガス管	10, 418	m

#### 2| 環境・サステナビリティ

#### 〇信州大学環境方針

#### 基本理念

かけがえのない地球環境を守るため、信州大学は、教育、研究、診療を含む社会貢献、国際交流など、 あらゆる活動を通して、人と自然が調和した、持続可能な社会の実現(SDGs)に貢献する。

#### 基本方針

信州大学のすべての構成員及び信州大学を取り巻くすべてのステークホルダーと協力し、また国内外の関係する機関、団体等と緊密に連携して、以下の取組みを推進する。

- (1) 豊かな自然に恵まれた信州に立地する大学としての特色を生かしつつ、環境に関する教育・研究活動を積極的に進めるとともに、その成果を国内外に発信する。
- (2) 教育研究にとどまらず、診療を含む社会貢献、国際交流など、あらゆる活動を通して、環境マインドを持った人材を育成する。
- (3) 環境にかかわる法令を遵守するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善を図り、環境負荷の低減と環境汚染の予防に努める。

#### 〇カーボンニュートラルの推進

信州大学地球温暖化防止実行計画(以下、「実行計画」という。)を平成22年から策定しており、第3期実行計画(令和3年度から令和5年度)では、第2期実行計画において設定した目標(※1)を継続し、平成25年度を基準として、温室効果ガスの原単位排出量(※2)を、令和5年度までに10.0%(毎年平均1.0%)以上削減することを目標とする。また、2050年度までにカーボンニュートラル達成を目指す。

- ※1 第2期実行計画(平成26年度から令和2年度)では、平成25年度を基準として、温室効果ガスの原単位排出量を、令和2年度までに合計で7.0%削減する目標を掲げ、達成した。
- ※2 温室効果ガスの総排出量(地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算定) ÷ 建物延べ床面積

#### 実行計画に基づく取組例

#### (1) ZEB 化の推進

新築や改修の際は、ZEB 化の可否を検討し、社会の先導モデルとなる徹底した省エネルギー対策等を図った施設整備を具現化・実践し、社会へ展開する。

#### (2) 空調の効率化

改修工事の際は、単なるリプレイスではなく、ライフサイクルを含めて比較検討し、総合的にエネルギー消費量の少ない機器の導入を図る。また、タスク・アンビエント空調等を導入し効率的な空調システムを構築する。

#### (3) 照明の LED 化

省エネルギー性の高い LED 照明の導入、明るさセンサーや人感センサー、タスク・アンビエント 照明等を導入し適切な制御を行う他、節電のためソフト面での取組を行う。

#### (4) 再生可能エネルギー設備の導入

太陽光発電等の自然エネルギーの活用や排熱等の未利用エネルギーの活用を設計段階で可能な限り検討する。

### 3 エネルギー管理(管理標準)

#### ○エネルギー管理標準

#### (1) 管理標準制定の目的

本管理標準は信州大学の省エネルギー活動を効果的に推進することを目的として、「エネルギーの 使用の合理化に関する法律」(以下「省エネルギー法」という。) に適合したエネルギー管理標準をキャンパスごとに文書化したものである。

#### (2) 適用範囲

各キャンパスにおいて、消費される電力、化石燃料、ガス燃料、水道等すべてのエネルギーに適用 する。

本管理標準は、各キャンパスの施設運営業務に適用する。

#### (3) 運用方法

本管理標準の制定・改定および周知については、以下のとおりとする。

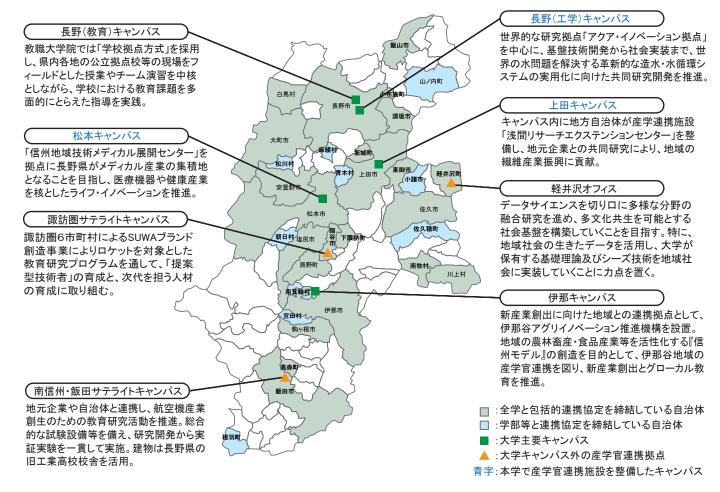
- ・各キャンパスの管理標準は、それぞれのエネルギー管理員等が立案し、キャンパスごとに定められた手続きを経る。
- ・職員は、本管理標準について改定の必要があるときは、改定の要求を行うことができる。
- ・制定および改定された事項は記録に残す。
- ・改定の内容は職員全員に周知する。

### 4 産学官連携・地域貢献への取組

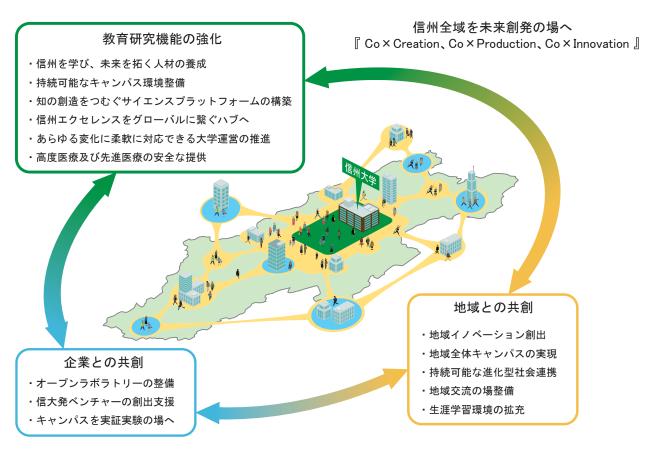
本学は、広大な県土に複数のキャンパスを持つ分散型キャンパスの特徴を生かし、大学の高度な教育研究活動を通じて、産業活性化や人材育成、自然環境保全など、国公私立大学、地域企業や行政と密接に連携しながら多方面で地域に貢献しており、この実績を更に発展させていくことが重要である(右図参照)。また、第4期中期目標・中期計画において、人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業(農林水産業、製造業、サービス産業等)の生産性向上や雇用の創出、文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードすることを目標としている。

このことから、各キャンパスの特徴を生かしながら地元自治体と企業と大学が密接に連携し、あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレーヤーが共創できる拠点「イノベーション・コモンズ(共創拠点)(※)」の実現を目指す。施設面においては、今後も各キャンパスの戦略的リノベーションによる老朽改善整備や新たなニーズに対応した機能強化を図るなど、長野県全域の産業活性化、地方創生に貢献できる良好な環境を整備し、「イノベーション・コモンズ(共創拠点)」の実現に寄与する。

※イノベーション・コモンズ(共創拠点)とは、「社会に開かれた知と人材の集積拠点」である国立大学の特性を最大限発揮し、様々なステークホルダーと共創活動を展開するものである。施設整備においては、建物や空間単体だけでなく、キャンパス全体をイノベーション・コモンズ(共創拠点)へと転換することが求められている。



自治体や地元企業との産学官連携状況(2022年4月1日現在)



信州大学が目指すイノベーション・コモンズのイメージ

#### 5 災害・安全衛生

#### 〇災害

自然災害や火災等に対して、学生や教職員の安全確保・教育、研究や病院の継続と早期の復旧・地域への貢献を行う対策を推進していく。

- ・建物や非構造部材の耐震化の実施やインフラの整備をする。
- ・事業継続計画 (BCP) による施設面の取組への計画を推進する。
- 大規模災害時に地域住民も利用可能な広場や避難所機能等の整備をする。

#### 〇安全衛生

施設面における教育・研究を行う上で必要な安全衛生に配慮したキャンパス環境を整備していく。

- ・下水道法や水質汚濁防止法に基づき実験排水の管理を引き続き行い、老朽施設の解消を図る。
- ・労働安全衛生法や学校保健安全法等に基づき、必要な施設整備と対策を行う。
- ・安全な歩行空間を確保するために、歩車分離や駐車場の計画を進める。

#### 5 土地活用・ゾーニング(キャンパス資源の有効活用・施設総量の適正化)

#### ○キャンパス資源の有効活用

国立大学法人等の資産の有効活用を図るための措置として、所有する資産の有効活用を図り、その対価を教育研究水準の一層の向上に充てるため、教育研究活動に支障のない範囲に限り、文部科学大臣の認可を受け、土地等を第三者に貸し付けることができる制度(国立大学法人法第三十四条の二)がある。この制度を利用し、2022 年に本学では初となる未利用地の一般定期借地権設定契約を締結した。今後もこの制度の活用を視野に入れ、保有資産の積極的な活用等を通じ、多元的で安定的な土地利用を図っていく。

#### 〇施設総量の最適化(トリアージ)

施設整備や維持管理には多額の費用が必要であることから、施設の用途や規模等を踏まえ、全学的な 施設マネジメントの推進を通じて、長期的に必要となる施設と将来的に不要となる施設を峻別する等、 保有施設の総量の最適化(トリアージ)を図りながら施設整備や維持管理を行う必要がある。

減築や取壊しの他、施設ニーズの把握・分析による最適な施設用途の検討、スペース創出や学部の枠を越えた講義室や事務機能の共有・集約化等の検討が必要である。

# ' トャンパスガイドライン(キャンパスデザイン計画)

#### ○キャンパスデザイン計画の位置付け

「信州大学キャンパスマスタープラン」を実現していくための長期にわたる整備のなかで、統一された 魅力的な空間を創出するために「キャンパスデザイン計画」を平成30年に策定した。

#### 〇キャンパスデザイン計画の基本方針

- ・学問の府にふさわしい調和のとれたキャンパスとする。また、信州大学・地域の歴史や伝統を継承し キャンパスアイデンティティの確立を図り、大学の顔・地域のシンボルとしてふさわしい景観を創る。
- ・キャンパスごとに異なる立地の特色を生かし、かつ周辺の風景や自然環境と調和のとれたキャンパス とする。
- ・教育研究・地域貢献・国際交流等の多様な知的創造活動が感じられるキャンパスとする。
- ・キャンパスを構成する広場、施設、緑などを一体として計画する。

#### ○キャンパスデザインガイドライン

キャンパスデザインの重要な考え方を示した上記の「基本方針」に沿った整備を推進するために、下 記の視点による「デザインガイドライン」を定め、整備方針を示した。

(1) 通り(2) 見通し(3) 緑・植栽(4) 敷地境界(5) 色・素材(6) 屋外照明(7) サイン(8) ユニバーサルデザイン

特に(8) ユニバーサルデザインについて、大学キャンパスは学生、教職員及び患者など様々な人が集まる場所であり、更に災害時は避難場所の役割を持つことから、キャンパスデザイン計画の基本方針及び整備方針に沿って、ダイバーシティやバリアフリーに配慮した多目的トイレ、スロープ、エレベーター等の施設整備を推進する。

#### 8| 防犯・セキュリティ

キャンパス全体や建物の防犯・セキュリティはハード面とソフト面の対策が一体となり安全性や資産の 保護を行っていくことが必要となる。各キャンパス入口にはゲートを設け、車の出入りをチェックしてい る。建物入口にはICカードによる学生証・職員証を利用した施錠システムによるセキュリティ対策を行っている。また防犯カメラを各所に設置し外部警備会社での監視体制を構築している。

今後建物の改修や新増築等には防犯カメラ・センサーや施錠管理、また、窓や扉の構造、屋外照明や外構の整備等を行っていく。建物改修時期等に関わりなく防犯・セキュリティ対策をさらに進めていき危険 箇所の改善を図る必要がある。



# 信州大学キャンパスマスタープラン Shinshu University Campus Master Plan 2023

A. 松本キャンパス ~ 学生・情報・自然が創る 多文化共生の場 ~





# キャンパスマスタープランについて

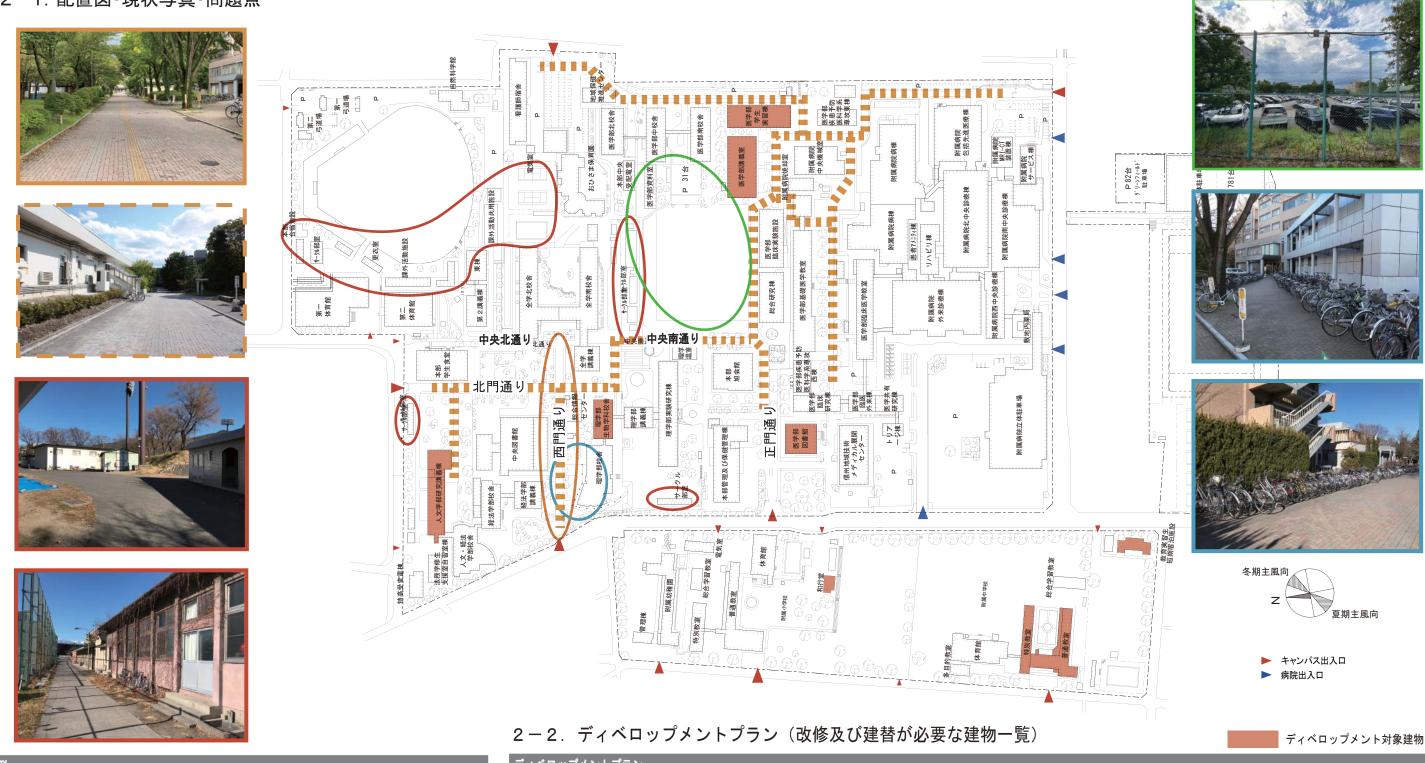
	1 - 2 基本方針	
	1-3. 位置づけ	
	1-4. キャンパスの全体像	
	1-5. 各キャンパス共通事項 4	
Α.	松本キャンパス	
	2. 現状分析	
	2-1. 配置図・現状写真・問題点 A-1	
	2 2.ディベロップメントプラン ····································	
	3. 松本キャンパスマスタープラン	
	3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針 A-2	2
	3 - 2. 整備方針と戦略 ······ A-3	3
	3-3.カテゴリー別計画	
	3 - 3 - 1. 全体骨格・フレームワーク	1
	3-3-2. 施設配置・計画A-5	5
	(1) 施設環境マネジメント (2) キャンパス資源の整備 (3) デザインガイドライン	
	(4) 環境・サステイナビリティ	
	3 - 3 - 3 . パブリックスペースの計画 ····································	7
	(1) 中央広場整備 (2) 緑地・緑化整備 (3) サイン・アート・照明計画	
	(4) ユニバーサルデザイン	
	3-3-4. 交通・動線の計画A-9	)
	(1)駐車場整備 (2)駐輪場修繕・車止め設置	

3-3-5. 設備・インフラストラクチャーの計画 ····································	-11
(1)インフラ整備 (2)廃棄物処理	
3-3-6. コミュニティ (地域・学生・教職員の交流) の計画	<b>—12</b>
(1)交流施設の計画・運営 (2)施設の地域開放促進	

# ※補足事項

全学教育機構は、2023年4月1日に改組を予定しております。 本文中の"全学教育機構"を"全学教育センター"に読み替えてご覧ください。 2. 現状分析 A. 松本キャンパス

# 2-1. 配置図・現状写真・問題点



#### 問題点凡例

課外活動施設は経年による老朽化が進んでいる。

西門からの道路は安心を高めるため、自転車と歩行者を分離するのが望ましい。

理学部校舎周囲は自転車が未整理で飽和状態である。

構内動線計画について、救急動線が不明確かつ複雑で改善が必要である。

中央広場について避難所としても活用できる広場の検討が必要である。

ノイベログングンドンブン			
医学部学生実習棟	1968 (昭43)	R1	936m²
附中特別教室	1970(昭45)	R3	1, 344m²
附中普通教室	1970(昭45)	R4	2, 782 m <sup>2</sup>
医学部講義室	1974(昭49)	R2	2, 039 m²
理学部生物学科校舎	1977 (昭52)	R6	2, 938 m²
医学部図書館	1977 (昭52)	R2	1, 375 m <sup>2</sup>
人文学部研究講義棟	1973 (昭48)	R5	4, 246 m²

1937(昭12) W1 103㎡

1982(昭57) R2 514㎡

和行堂

教育実習生短期宿泊施設

3. 松本キャンパスマスタープラン

#### 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学松本キャンパスは、大学の理念及び人文学部、経法学部、理学部、医学部、医学部附属病院、全学教育機構、教育学部附属松本学校園の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたってはそれらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず整備方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、環境・インフラ、コミュニティというカテゴリーに分類整理し、全体骨格を除くカテゴリーについては、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

#### ■人文学部の理念

- ・信州の大自然の織りなす四季のもと、都会の喧噪とほどよく距離をたもちつつ、時代や人間をみる確かな目と、他者や自然と共生できる豊かな感性を育くむ教育を行います。
- ・複雑多様化し混迷する現代社会のあらゆる局面で、不断に根源的な思索を試み、それらに批判的・創造的にかかわってゆくことのできる「実践知」を身につけた新しい時代の人文人(ネオ・フマニスト)を育成します。

#### ■経法学部の理念

- ・よりよい社会を作るという社会科学の基本に基づいて、経済学および法学の領域で、制度設計の 視点から政策の提案や運営に、教育・研究の両面で貢献することを基本理念としています。
- ・この基本理念のもとで、信州大学経法学部は、経済学または法学を体系的に修得した上で、身に付けた専門性を現代社会のさまざまな課題の現場で発揮し、課題解決のために能動的に貢献できる人材を養成するために教育・研究を実践しています。

#### ■理学部の理念

- ・信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。
- ・知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成に役立てます。
- ・世界の多様な自然、文化、思想を理解し、受け入れ、共に生きる若者を育てます。
- ・個性を大切にすると共に、専門分野を越えた広い視野と、柔軟な適応性を養います。
- ・研究成果を人々の幸福に役立て自然の尊厳を傷つけるために使うことのないよう責任を持ちます。

#### ■医学部の理念

・豊かな人間性、広い学問的視野と課題探求能力を身につけた臨床医、医療技術者や医学研究者などを 育成するとともに、高度で個性的な医科学研究を行います。また医科学の教育・研究と医療活動を発 展させることによって地域貢献を果たし、国際交流に寄与します。

#### ■医学部附属病院の理念

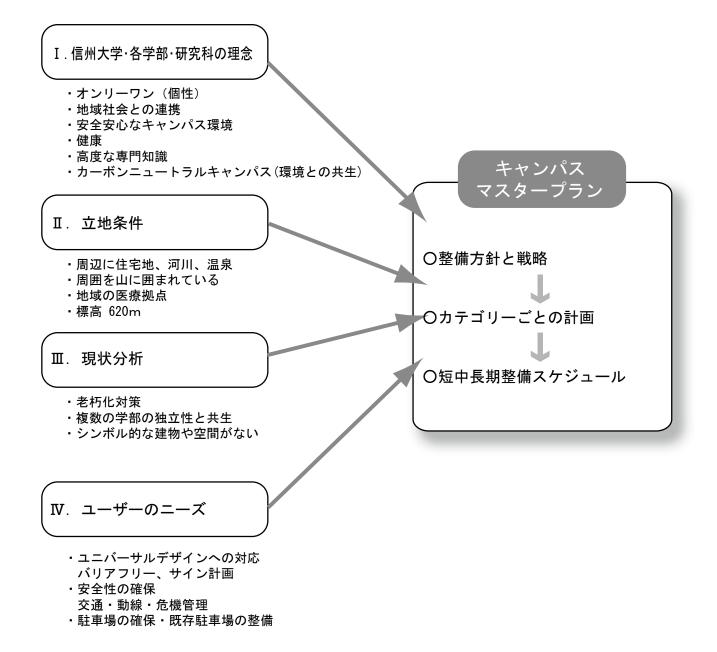
・本院は診療・教育・研究を遂行する大学病院としての使命を有し、また患者さんの人権を尊重した先 進的医療を行うとともに、次代を担う国際的な医療人を育成する。

#### ■全学教育機構の理念

・かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人を育成する。専門教育の基礎となる教育を行いつつ、専門教育と連携して、自ら具体的な課題を見出し、その解決に果敢に挑戦する精神とユニークな個性を育成する。

#### ■教育学部附属松本学校園の理念

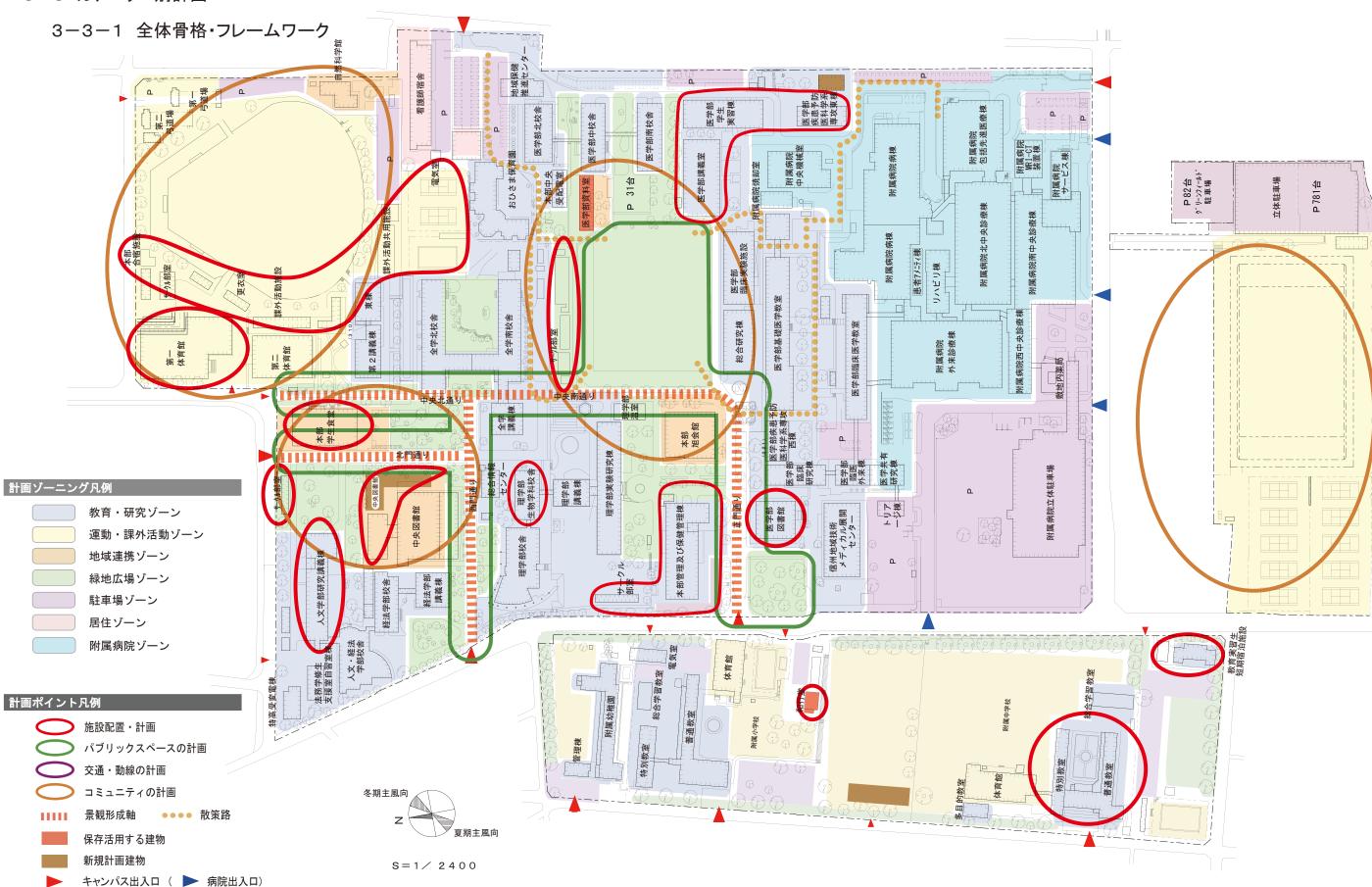
- ~附属学校の三つの使命~
- ・教育学部生の教育実習を指導し、次代をになう教育者の育成につとめる。
- ・幼・小・中の諸般の教育活動について、その実践や理論について研究する。
- ・授業や活動を通して研究を公開し、県内外の各学校や地域の教育の向上発展に寄与する。



# 3-2. 整備方針と戦略 ~学生・情報・自然が創る 多文化共生の場~

キャンパスの整備方針とその戦略を下表にまとめる。

	整 備 方 針	<b> </b>	カテゴリー
<b>1</b> キャンパス アイデンティティー	【地域の核】 ・医療サービス、教育サービス ・地域コミュニティー 【複数学部の共生、信州大学の核】 ・多種多様な研究、専門知識の発信、交流	・地域の人も利用できる広場・施設の整備・地域文化、大学文化の発信・交流・知識の核としての図書館の充実	施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備 施設配置・計画(3)デザインガイドライン パブリックスペース(1)中央広場整備 コミュニティ(1)交流施設の計画・運営 コミュニティ(2)施設の地域解放促進
2 アメニティを高める 現状資産の活用	【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 ・学生研究施設と地域開放エリア ・キャンパスの軸とオープンスペースの充実 【ニーズに対応した施設利用】 ・学生、教職員の交流スペース ・教育研究環境の充実 ・駐車場、駐輪場動線の見直し 【老朽化対策】 ・建物の安全性の確保	・並木の整備 ・駐車場の増設 ・施設整備 ・機能改善、老朽改善 ・インフラストラクチャーの見直し	施設配置・計画(1)施設環境マネジメント
3 地域社会との連携	【「知財・人財・資財」の共有、発展】 ・生涯学習、地域交流施設 ・産学官連携 【地域住民との共生】 ・自然資源、施設の地域開放	・企業と連携した研究、地域サービス ・地域文化、大学文化の発信・交流 ・図書館、福利施設等の地域開放 ・防災拠点としての機能向上 ・イノベーションコモンズ(共創拠点)の整備	施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備  パブリックスペース(4)ユニバーサルデザイン  コミュニティ(1)交流施設の計画・運営  コミュニティ(2)施設の地域解放促進
4 参加型キャンパス	【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 ・学生、教職員が参加した点検評価 ・ソフト事業への学生参加	・定期的な点検評価のシステム、組織づくり ――――・学生の企画参加	コミュニティ (1) 交流施設の計画・運営
<b>5</b> サスティナビリティ	【地域の風土の反映】 ・地場産材の使用や地域産業との連携 【カーボンニュートラルキャンパス】 ・省エネ、CO2削減 【循環型社会への取り組み】 ・ゴミ削減、リサイクル、リユース	・県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)の使用 ・維持管理計画の策定 ・景観に配慮したゴミ置き場の整備	施設配置・計画(4)環境・サスティナビリティ
6 ユニバーサルデザイン	【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 ・誰もが使いやすい 【わかりやすいキャンパス】 ・迷わない案内	・バリアフリー化計画 ・ユニバーサルデザイン(デザインガイドラインの策定 ・サイン計画	施設配置・計画(3) デザインガイドライン パブリックスペース(3) サイン・アート・照明計画 パブリックスペース(4) ユニバーサルデザイン
7 安全・安心なキャンパス	【安全な歩行空間】 ・人と車と自転車の動線の分離 【防犯、危機管理】 ・夜間の安全性	・交通計画(歩車分離)、駐車場計画、駐輪場計画 ・照明計画 ・廃棄物処理計画	→ パブリックスペース(3) サイン・アート・照明計画 → 交通・動線(1) 駐車場整備 → 交通・動線(2) 駐車場修繕・車止め整備 → 設備・インフラ(2) 廃棄物処理



### 3-3-2 施設配置・計画

#### ■現状と課題

老朽化により教育研究活動に支障をきたしてい る建物があり、順次機能改修や安全対策を行って いく必要がある。景観や実用面を考慮しながら施 設の有効活用を図り改修計画を進めていく。

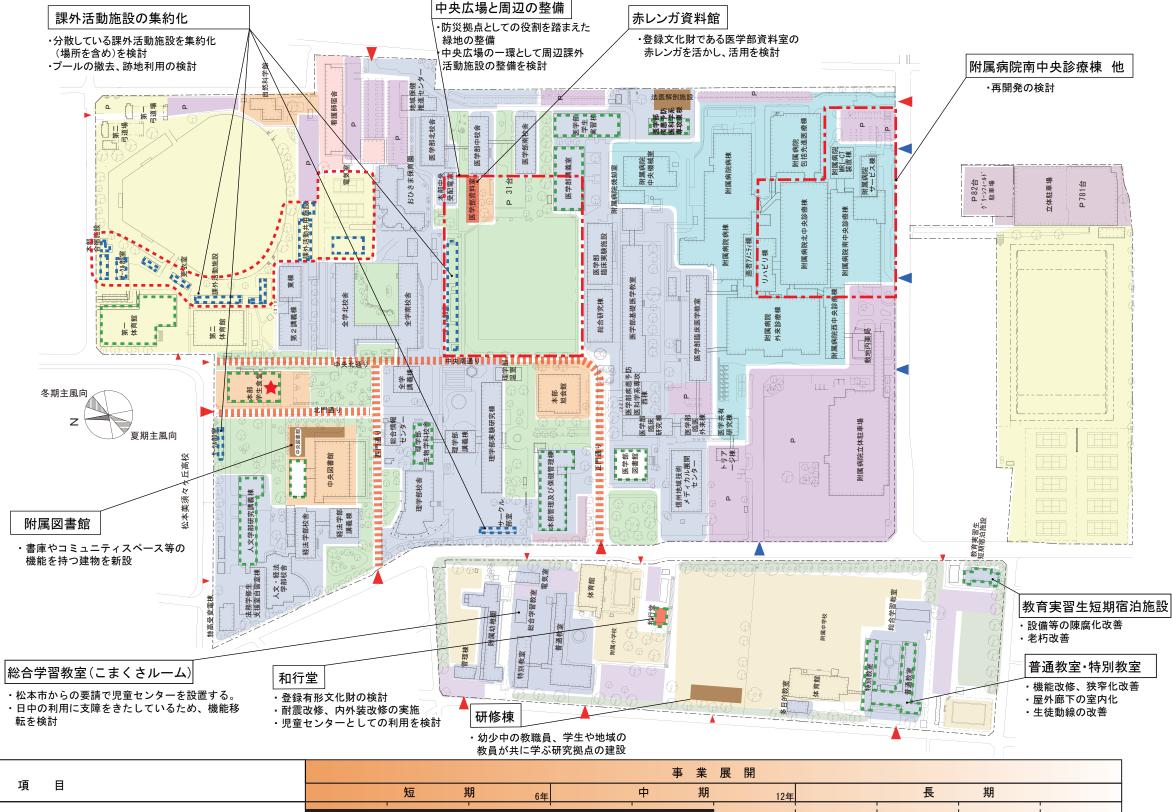
#### ■方針

景観に配慮しながら整備計画を検討し、美しい キャンパスづくりを目指す。

今後、新築建物の整備については、信州大学松 本キャンパス地区の地区計画において定められた 整備方針・整備計画を確認しながら検討する必要 がある。

登録文化財の指定を受けた医学部赤レンガ資料 室については、保存活用を検討する。







施設環境マネジメント

-施設配置・計画ディテール-

#### ■方針

老朽化により支障をきたしている建物について、機能改修や安全対策などの改修を行っていく。また、単純な改修に終わらせることなくデザイン性を兼ね備えた整備を行う。

#### ●課外活動施設

松本キャンパス内に点在する老朽化した課外活動施設について、稼働率の低いプールの撤去及び跡地の活用も含め、集約や改修を検討する。

中央広場に面した課外活動施設については、中央広場と一体的な整備を検討する。



現状



現状



現状



現状

#### キャンパス資源の整備

-施設配置・計画ディテール-

A. 松本キャンパス

#### ■方針

豊かなキャンパスライフをおくれるようニーズにあった福祉施設、地域の人も利用できる交流施設など、 既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

附属学校については、学習環境の充実、地域の人も利用できる交流施設など、既存ストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

#### ●和行堂

和行堂は、教育学部の前身である旧松本女子師範学校時代に建設された信州大学の歴史を語るうえで重要な施設の一つであり、文化財への登録が望まれる。

近年は、教育実習生の宿泊施設などに利用されていたが、耐震性能不足や老朽化が著しく現在は利用を停止している状態である。

改修に際しては、老朽改善・保存改修はもとより、児童センターとしての利活用を視野に、歴史が感じられ、児童の健全な育成を図る施設に整備を行う。



現状



和行堂の整備イメージ

緑の散策路

# 3-3-3 パブリックスペースの計画

3. 松本キャンパスマスタープラン

#### ■現状と課題

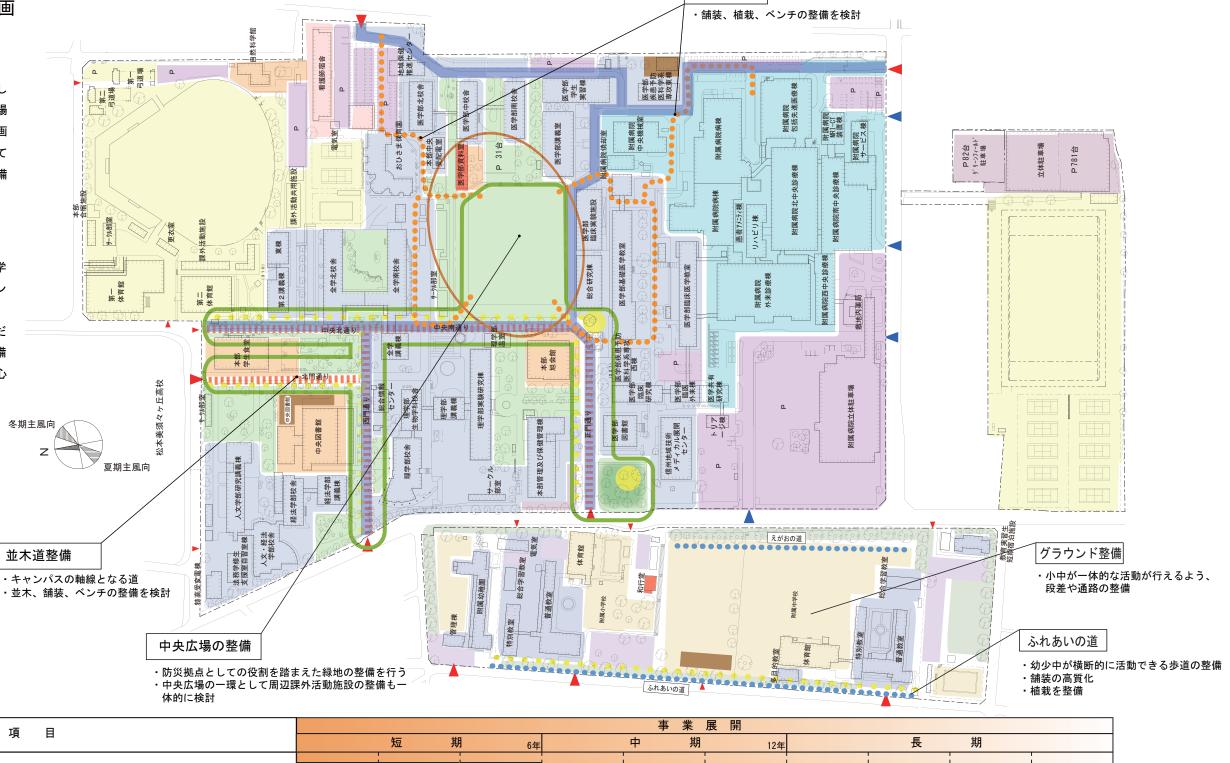
キャンパス中央にあるグラウンドを駐車場とし て利用していたが、立体駐車場の建設後は駐車場 としての利用が終了する。この場所は、地区計画 において災害時の避難所としての利用が謳われて いるため、これを踏まえた中央広場としての整備 が必要である。

#### ■方針

緑化、歩道改修など、散策路等の整備により学 生、患者及び職員が憩える緑豊かな美しいキャン パス環境整備を検討する。

中央広場については、全学部の学生・教職員だ けでなく、地域住民も集い交流できる広場の整備 を検討する。また、広域防災の対応等、安全・安心 の確保の場として活用を検討していく。





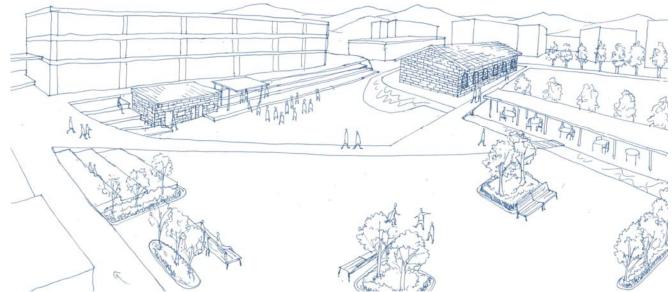
事業項目		事業展開											
	事業項目		短	期	6年		中	期	12年		長	期	
1. 中央広場整備	学生、教職員、地域住民の集いの場として広場の整備を行う。また、広域防災 の対応等、安全・安心の確保の場(中央広場)として活用を検討する。	●中央広場の整備	備.										
2. 緑地・緑化整備	並木道、散策路の整備や正門脇の広場の整備を行う。	●正門脇広場整 ●構内樹木の管			●並木、散策路	<b>S整備</b>							
3.サイン・アート・照明計画	<ul><li>わかりやすい案内サイン、夜間の安全を確保できるベースライトを整備する。</li></ul>	♣サイン	→ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■		●随時整備			1					
4. ユニバーサルデザイン	誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内、敷地内の段差解消などのガイ ドラインをつくり、空間設計に反映させる。	●デザインガイ	片作成 :					- - - - - - - - - - - - - - -					

### 中央広場整備

-パブリックスペースの計画ディテール-

#### ■方針

大学にふさわしいアメニティーの高い緑地を整備する。その際に、芝生やベンチを配置し、学生や教職員 のみならず、地域住民も集い交流できる憩いの場とする。中央広場の一環として周辺の課外活動施設の整備 も一体的に計画し、重点的に整備する場所を検討し整備を進めていく。キャンパスの中央に位置するこの場 所を整備することは、防災面でも重要な意味を持つ。



中央広場の一体的なイメージ

#### 緑地 • 緑化整備

-パブリックスペースの計画ディテール-

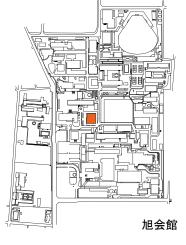
#### ■方針

キャンパスの軸となるような並木道を整備する。また、地域の人達も通り抜けられる気持ちの良い散策路 として景観に適した舗装を整備する。

#### ●中央南通り

旭会館の東側前面道路は、インターロッキング舗装に改修し、両側を車止めで車両進入禁止にしてはいる ものの、駐輪場の不足から自転車が道路側に溢れ、休憩するスペースもなく、単なる「通路」としての機能 しか果たしていない。中央広場整備の一環として、旭会館までの空間を学生・教職員・地域住民のためのア メニティ空間として環境整備する。







# 3-3-4 交通・動線の計画

3. 松本キャンパスマスタープラン

#### ■現状と課題

車での来訪が多くキャンパス内道路端への駐車 も多い。立体駐車場の建設により、約450台分の 入構は減少するが、既存構内駐車場や構内道路の 整備は引き続きの課題である。また、キャンパス 内の各所に設置されている自転車置き場は飽和状 態であり、建物周辺に放置する自転車も多く、景 観悪化の原因となっている。

#### ■方針

計画ゾーニング凡例

教育・研究ゾーン

地域連携ゾーン

駐車場ゾーン

緑地広場ゾーン

■ 地区計画における構内通路

運動・課外活動ゾーン

自転車については、交通動線が複雑で進入禁止 領域の設定は難しいため、現状の駐輪状況を勘案 し、駐輪場整備を検討する。バイクは門の近くの 駐輪場を利用し、構内の走行を禁止する。駐車場 に関しては、今後のニーズに合わせて整備を行い 必要な駐車台数を確保する。

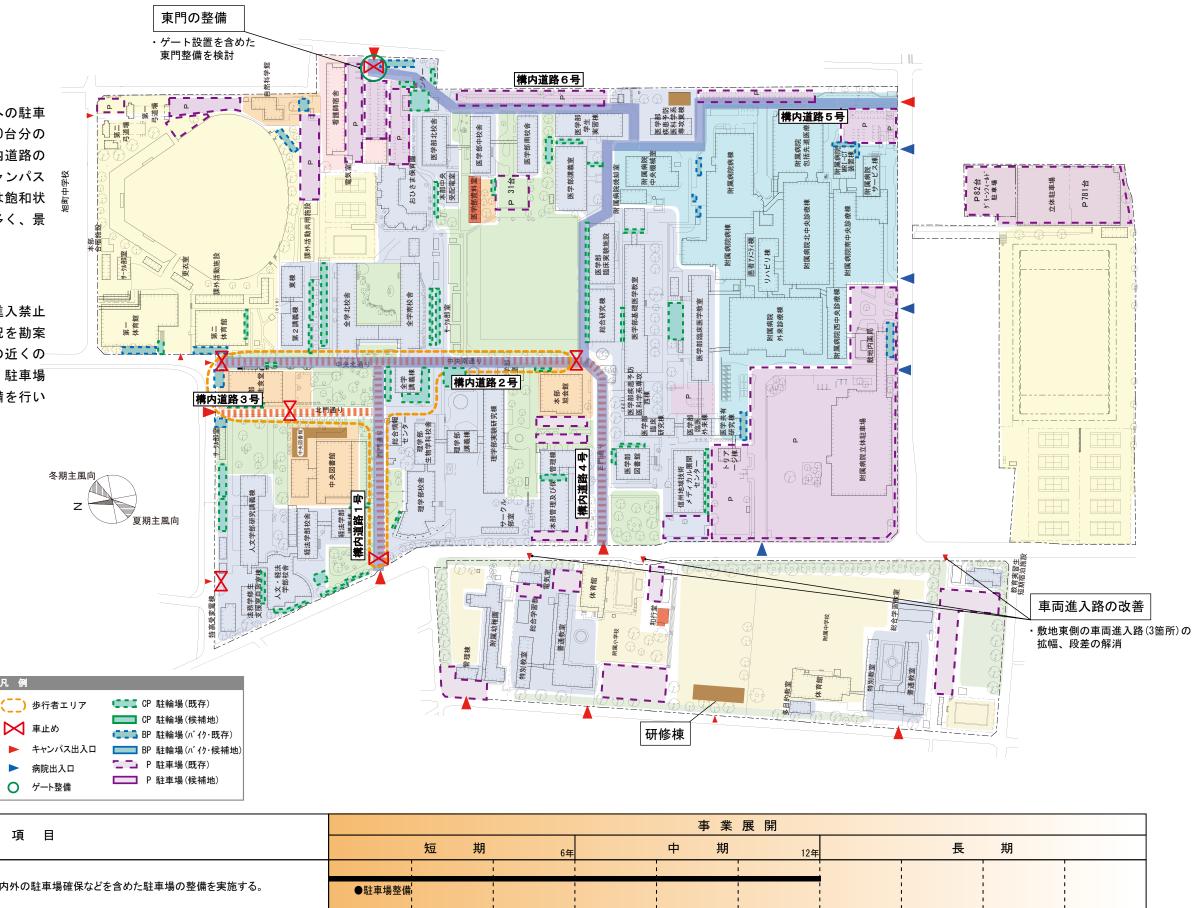
居住ゾーン

保存活用する建物

新規計画建物

▮▮▮ 景観形成軸

附属病院ゾーン





駐車場整備

一交通・動線の計画ディテールー

#### ■職員駐車整備における今後の検討の方向性

#### ●整備に伴う問題点

松本キャンパスの長年の課題であった駐車台数不足対策として、職員駐車場の駐車台数確保のために空いた スペースを駐車場として整備してきた。このため、松本キャンパス内には複数の小さな駐車場が各所に点在し ており、通勤の教職員が構内を車で通行している。

立体駐車場の運用開始後は、交通渋滞や車両動線の変化による影響について動向を注視し、対応する必要が ある。





本部旭会館西側

保健学科西側

#### ●今後の検討

立体駐車場の建設により駐車台数が確保されたため、今後は入構車両の動向を注視しつつ、構内駐車場や東 門ゲート設置等の整備について検討していく。



東門の整備イメージ

## 2 駐輪場整備

一交通・動線の計画ディテールー

A. 松本キャンパス

#### ■方針

景観形成軸上の放置自転車を減らすため、所定の場所への駐輪を徹底し、各駐輪場の改修やサイクルラッ クを設置するなど、現在ある駐輪スペースにより多くの自転車を止められる工夫をする。旭会館の利用者の ための駐輪場を整備する必要もある。



旭会館周り



医学部講義室周り



全学教育機構~図書館周り

現状



サイクルラックなどで収容台数を増やす工 夫をする。

工夫

居住ゾーン

▶ キャンパス出入口

計画ゾーニング凡例

教育・研究ゾーン

地域連携ゾーン

運動・課外活動ゾーン 附属病院ゾーン

# 3-3-5 設備・インフラストラクチャーの計画

#### ■現状と課題

3. 松本キャンパスマスタープラン

[受配電設備] 電力供給会社より、70kV特別高圧2回線で受電し、特高変圧器 2台により、6kVに降圧し、各学部、附属病院、附属松本学校 園等へ配電している。

附属病院中央機械室に1,000kW、800kW、1200kWの3台、臨床実 [自家発電設備] 験施設棟に160kWが1台、旭総合研究棟に80kWが1台、総合情報 センターに25kW2台が設置されている。また災害時に対応する ために、災害本部が設置される本部管理棟及び避難所となる体 育館に非常用発電機が設置が済みである。

市水本管より供給を受け、高架水槽方式等により各建物に給 [給水設備] 水。また、深井戸2本により中央機械室受水槽から、医学部及 び附属病院で便所洗浄等に使用。尚、一部の建物では、雨水を 中水として利用している。

[ガス設備] 雨水系・生活系・実験系の3系統分流式である。雨水系は、地 下浸透及び公共側溝へ放流される。生活系・実験系は公共下水 道へ放流される。尚、実験排水は実験系建物単位でHl濃度をモ ニタリングしている。

都市ガス(13A)を2箇所より引込み、土中埋設配管にて各建物 [ガス設備] に供給。また中圧配管を設置し中央機械室に供給している。

[給水設備] 新営建物及び改修整備済建物については個別空調が主体であ る。一部は蒸気による暖房となっており、熱源は中央機械室よ り供給しているが各建物一括供給であるため、個別暖房ができ ずエネルギーロスが多い。各施設に適したシステムが必要であ る。

[廃 棄 物] 資源の有効活用のため分別の徹底によるリサイクル化の推進。 それ以外の一般廃棄物・実験系廃棄物及び医療系廃棄物は業者 に委託して処理している。

#### ■方針

#### 1. 省エネルギー化

設備機器(ボイラー)の耐用年数を鑑みGHP(ガスヒートポンプ)、EHP(電気ヒートポンプ)の比較検討の 上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。また、カ ーボンニュートラルに向けた取り組みとして、新築・大規模改修に関わらず、原則ZEB Oriented相当以上の省エネ ルギー消費性能の実現可能性を検討する。

#### 2. 地球環境への配慮

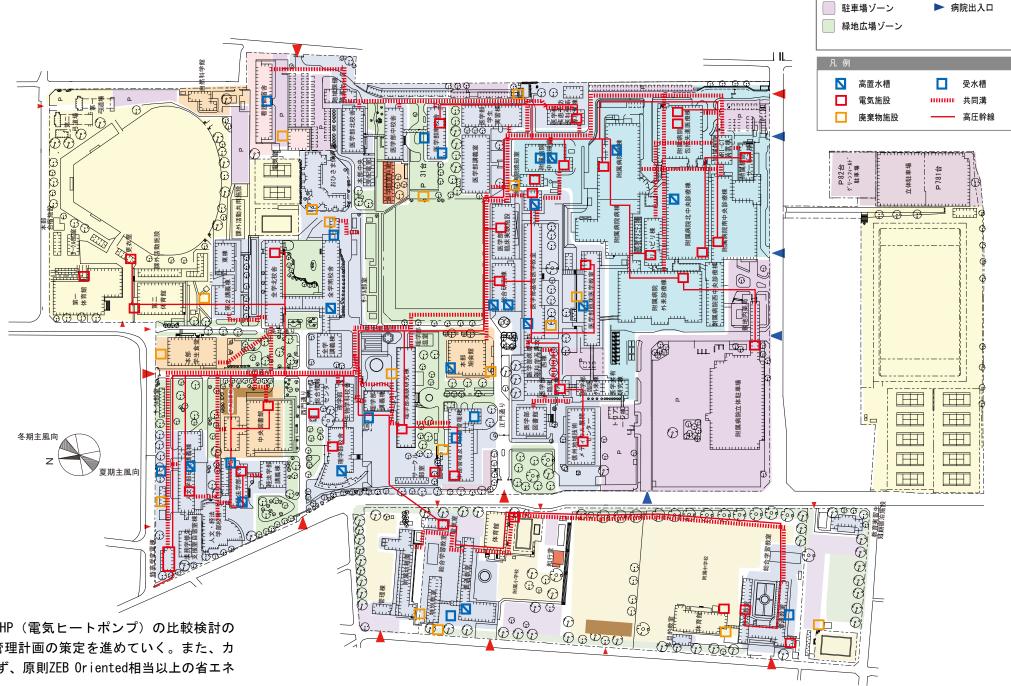
CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作成する。省エネだけでなく 低公害の太陽光発電などの創エネ(新エネルギーの供給)も組み合わせて目標達成に努める。

#### 3. 循環型社会への取り組み

ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物(水、空気、物質)処理におけるエネルギー利用化を図るなど 各キャンパスの課題としてキャンパス毎に研究し取り組んでいく。

#### 4. 衛生管理上の問題への配慮

高置水槽による低層建物への給水からポンプ圧送方式への移行を検討する。



n	事業展開
項目	<del>短期 6年</del> 中期 <sub>12年</sub> 長期
1. インフラ整備	●維持管理計画策定  ●給排水・ガス配管の改修および更新 ●空調熱源の検討 ●加圧ポンプ式給水の検討
2. 廃棄物処理	● <u>処理方法の検討</u> ● ゴミ置き場の整備 ● その他廃棄物施設の整備

# 3-3-6 コミュニティ(地域・学生・教職員の交流)の計画

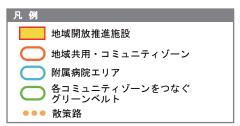
#### ■現状と課題

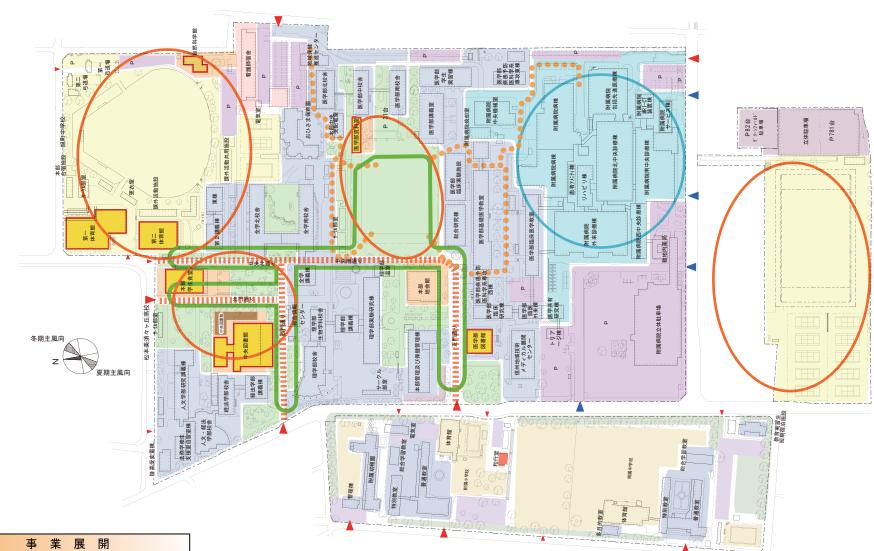
松本キャンパスは複数学部があり、建物が密集しオープンスペースも点在 しているため、全学部生が交流できる核となる場所は学食周辺など一部に限 られている。また、図書館や学食周辺においては個々のエリアが独立し他と の連続性に欠けている。

#### ■方針

イベント開催や諸施設の積極的な地域開放により、市民も気軽に来れる、 より地域に開かれたキャンパス運営とする。







		事業展開	
	<del>事</del>	短期 <sub>6年</sub> 中期 <sub>12年</sub> 長期	
	1. 交流施設の計画・運営への イベント企画など広く市民にも呼びかけ、学生や市民の参加 生や教職員はじめ市民の交流の場として活用する。		
			●企画・実施
2.	施設の地域開放促進	諸施設の地域開放を促進する。	●検討・実施

#### 施設の地域開放促進

-コミュニティの計画ディテール-

#### ■方針

キャンパス内の施設を地域に開放し、多くの人が利用できるようにする。

#### ●既存施設(運動施設·図書館·福利施設)

教職学協働の推進や民間企業への委託により、トータル的な施設運営管理や柔軟なソフト展開を検討し、 土日や祝日の運営等で利用者の利便性向上を図る。





中央図書館



# 信州大学キャンパスマスタープラン Shinshu University Campus Master Plan 2023

B. 長野(教育)キャンパス ~ 地域と共に歩み・育む学びの場 ~



**目 次** B. 長野(教育)キャンパス

# キャンパスマスタープランについて

	1一1. 目的	
	1-2. 基本方針	1
	1-3. 位置づけ	2
	1-4. キャンパスの全体像	3
	1-5. 各キャンパスの共通事項	4
В.	. 長野(教育)キャンパス	
	2. 現状分析	
	2-1.配置図・現状写真・問題点	B—1
	2-2. ディベロップメントプラン	B-1
	3. 長野(教育) キャンパスマスタープラ	ラン
	3-1. キャンパスマスタープランの目	標と作成方針 ····· B-2
	3-2. 整備方針と戦略	B-3
	3-3. カテゴリー別計画	
	3-1-1. 全体骨格・フレーム	ワークB-4
	3-3-2.施設配置・計画	B-5
	(1)施設環境マネジメント (2)	キャンパス資源の整備 (3)デザインガイドライン
	(4) 環境・サステイナビリティ	
	3-3-3. パブリックスペース	の計画B-7
	(1) 緑地・緑化整備 (2) ランド	 スケープ整備 (3)市民参加
	(4)サイン・アート計画 (5)照	明計画 (6)ユニバーサルデザイン

3-3-4. 交通・動線の計画		B-9
(1)駐車場整備 (2)ゲートの整備	(3) 駐輪場整備	
3-3-5. 設備・インフラストラク	クチャーの計画	B-11
(1)インフラ整備 (2)廃棄物処理		
3-3-6. コミュニティ(地域・特	学生・教職員の交流)の計画	B-12

(1)駐車場の有料化と地域開放 (2)施設の地域開放推進

2.現状分析

# 2-1. 配置図・現状写真・問題点









# 問題点凡例

自転車が歩道を占領している。

正門から上がる道路は、スロープがきついため冬季にスリップする。

登録文化財の同窓会赤煉瓦館東側の外構や建物に通ずる歩道が整備されていない。

食堂の席数不足と緑地帯との一体性が課題である。

**<-** ■ ■ 学生や教職員はもちろん、通勤等で地域住民が通る道となっているが整備されていない。

雨水が排出されず雨天時の歩行に支障をきたしている。

段差、スロープの老朽化など建物へのアクセスはもとより、建物内においてもエレベーター未設置の建物があり、 人文美術校舎や東校舎においては講義室に入るのに段差が多く、多様な人々の利用に支障をきたしている。

# 2-2. ディベロップメントプラン(改修及び建替が必要な建物一覧)

Z-Z. ナイベロップメント	トノフノ		修及い理	皆か必安は建物一見 <i>)</i>	ティベロッフ:	メント	对家建物
ディベロップメントプラン							
北西校舎改修	1966(昭41)	R2	1, 056m²	e-Learning センター再整備	1979 (昭54)	<b>S</b> 1	39 <b>m</b> ²
福利厚生施設改修	1981 (昭56)	R2	811 <b>m</b> ²	音楽練習室再整備	1974 (昭49)	B2	203 m <sup>2</sup>
次世代型学び研究開発センター再整備	1976(昭51)	R2	532 <b>m</b> ²				
ボイラ室再整備	1978 (昭53)	R1	139 <b>m</b> ²				
営繕室再整備	1966(昭41)	R1	66 <b>m</b> ²				

3. 長野(教育)キャンパスマスタープラン

#### 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学長野(教育)キャンパスは、大学の理念及び教育学部の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず整備方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、環境・インフラ、コミュニティというカテゴリーに分類整理し、全体骨格を除くカテゴリーについては、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

#### ■教育学部の理念・目標

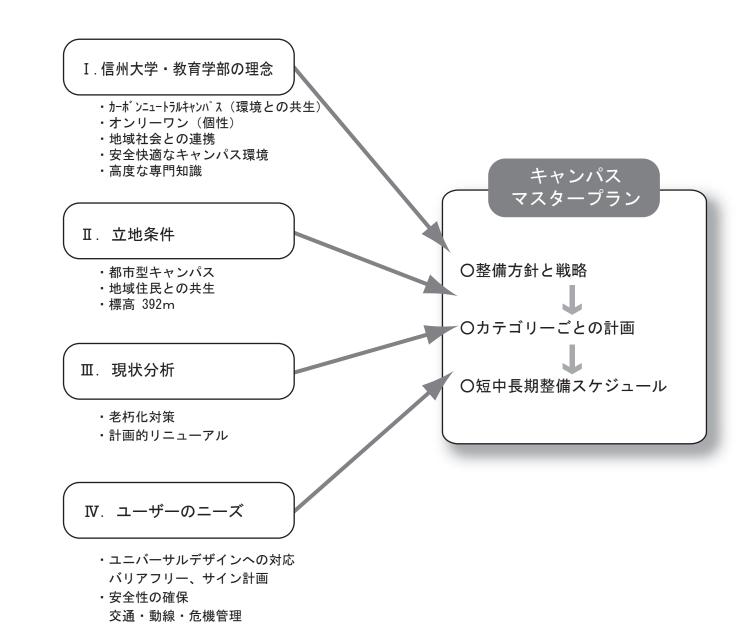
#### (理 念)

教育学部は、信州の恵まれた自然環境と教育を尊重する県民の気風・風土の中で、豊かな人間性と専門的知識及び実践に培う基礎的能力を身につけた、明日の教育を担う人材を育成する。教育学部では、子どもたちの学びを支援する場ではたらく総合的な「知=力」を「臨床の知」と呼び、附属学校園との一体化はもとより、教育委員会や諸学校との連携を深め、地域や家庭との協力のもと、実践的な知の体系としての 「臨床の知」を核とした教育を推進する。

#### (目 標)

「臨床の知」の理念のもと、次の目標を掲げて教育研究を推進する。

- 1. 高度な専門知識と実践的な教育技術を身につけ、創造性に溢れた教育者の育成
- 2. 附属学校園の積極的な活用等により、教え方の工夫や新たな教材開発など教育現場に役立つ研究の 推進
- 3. 教育委員会や地域の諸学校等と連携し、不登校、学力問題、カリキュラム開発等の多様な教育課題を解決するための専門的な支援
- 4. 生涯教育・リフレッシュ教育等の地域社会の要請に対応する開かれた教育・研究体制の構築



3. 長野 (教育) キャンパスマスタープラン

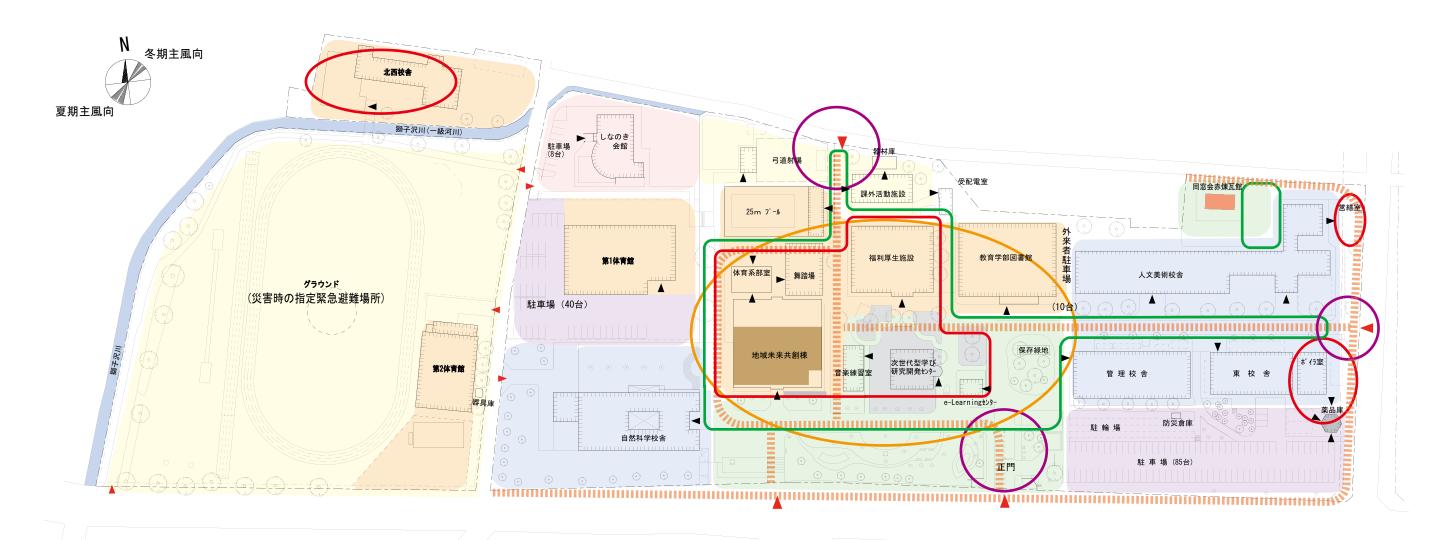
# 3-2.整備方針と戦略 ~地域と共に歩み・育む学びの場~

キャンパスの整備方針とその戦略を下表にまとめる。

	- 整 備 方 針		戦 略 ————	カテゴリー
1 キャンパス アイデンティティー	【学部の特徴を生かす】 ・学校教員の養成を使命とした教育学部の多様な教育課程 ・信州教育の資質、教員の多様な専門性を活かした取組み 【都市立地を生かす「都市型キャンパス」】 ・学外施設の共有利用 ・周辺景観への配慮 ・現代的な教育課題に対応する教育機関としてのキャンパス	H	・音、アートなど五感で感じる空間づくり ・教育環境の充実・発展のための先進的な施設の整備 (地域未来共創棟)	<ul><li>・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li><li>・パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</li><li>・パブリックスペース(4)サイン・アート計画</li></ul>
アメニティを高める 現状資産の活用	【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 ・大学の顔、象徴的建物[シンボル] ・地域に開かれた広場や通り抜けの道 ・エッジの景観とアクセスのしやすさ ・豊かな自然と眺望、石碑・歌碑などの文化遺産 【二一ズに対応した施設利用】 ・学生、教職員の交流スペース ・教育研究環境の充実 ・駐輪場動線の見直し 【老朽化対策】 ・建物の安全性の確保	-	/	・施設配置・計画(1)環境施設マネジメント ・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備 ・パブリックスペース(1)緑地・緑化整備 ・パブリックスペース(2)ランドスケープ整備 ・パブリックスペース(6)ユニバーサルデザイン ・交通・動線(1)駐車場整備 ・交通・動線(2)ゲートの整備 ・交通・動線(3)駐輪場整備 ・設備インフラ(1)インフラ整備
3 地域社会との連携	【「知財・人財・資財」の共有、発展】 ・教育学部の人的資源を活かした地域社会へのアウトリーチ活動 ・産学官協働 ・施設開放(体育館、図書館、グラウンド等) 【地域住民との共生】 ・パブリックスペースの整備 ・地域の中へ溶け込む教育及び研究の充実、広がっていくキャンパス	H	・地域における生涯スポーツ拠点、教育文化交流の拠点整備 ・教育現場との連携、家庭との連携 ・駐車場の有料化と地域開放 ・図書館、福利施設等の地域開放 ・イノベーションコモンズ(共創拠点)の整備 ・防災拠点としての機能向上	<ul><li>✓・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li><li>✓・交通・動線(1)駐車場整備</li><li>✓・コミュニティ(1)駐車場の有料化と一般開放</li><li>✓・コミュニティ(2)施設の地域開放推進</li></ul>
4 参加型キャンパス	【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 ・学生、教職員が参加した点検評価 ・意識向上	H	<ul><li>・定期的な点検評価のシステム、組織づくり</li><li>・キャンパスづくりへの参加活動</li></ul>	<ul><li>・施設配置・計画(3) デザインガイドライン</li><li>・パブリックスペース(3) 市民参加</li><li>・コミュニティ(2) 施設の地域開放推進</li></ul>
5 サスティナビリティ	【地域の風土の反映】	H	・県産材(信州から松・土・わらすさ・和紙など)の使用 ・維持管理計画の策定 ・機器や建材のトップランナー製品への更新	<ul><li>一・施設配置・計画(4)環境・サステイナビリティ</li><li>一・パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</li><li>一・設備インフラ(1)インフラ整備</li></ul>
6 ユニバーサルデザイン	【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 ・誰もが使いやすい 【わかりやすいキャンパス】 ・迷わない案内	H	・バリアフリー化計画 ・ユニバーサルデザイン(デザインガイドラインの策定) ・サイン計画	<ul><li>・施設配置・計画(3) デザインガイドライン</li><li>・パブリックスペース(4) サイン・アート計画</li><li>・パブリックスペース(6) ユニバーサルデザイン</li></ul>
<b>7</b> 安全・安心なキャンパス	【安全な歩行空間】 ・人と車と自転車の動線の分離 【防犯、危機管理】 ・夜間の安全性	H	<ul><li>・交通計画、駐輪場計画、ゲート整備</li><li>・照明計画(夜間照明の充実)</li></ul>	<ul> <li>・パブリックスペース(5)照明計画</li> <li>・交通・動線(1)駐車場整備</li> <li>・交通・動線(2)ゲートの整備</li> <li>・交通・動線(3)駐輪場整備</li> </ul>

# 3-3 カテゴリー別計画 3-3-1 全体骨格・フレームワーク

3. 長野(教育) キャンパスマスタープラン



# 計画ゾーニング凡例 教育・研究ゾーン 運動・課外活動ゾーン 地域連携ゾーン 国際連携ゾーン 緑地広場ゾーン 駐車場ゾーン



# 3-3-2 施設配置・計画

3. 長野(教育)キャンパスマスタープラン

#### ■現状と課題

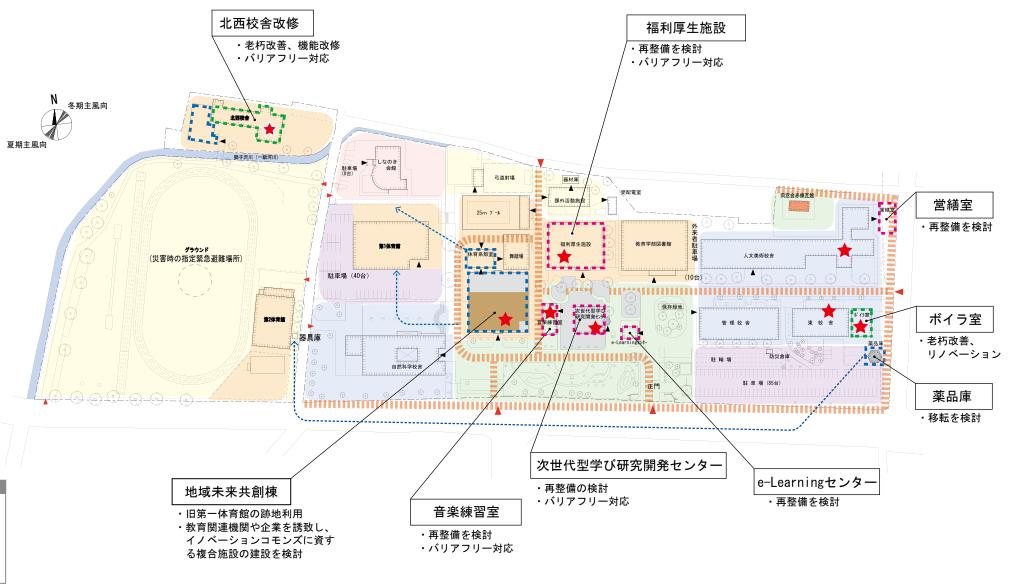
現在ある建物は建設時期の古いものから比較的最近建てられたものま で、構造、規模、デザイン等統一されていない。また、内外装の老朽化 は改善されてきているが、各施設のバリアフリー対策が不十分であり、 車いす等によるアクセスが困難である。現状の施設を最大限に活かしつ つ、構造的な安全性の確保とニーズに対応した空間の整備が必要である。

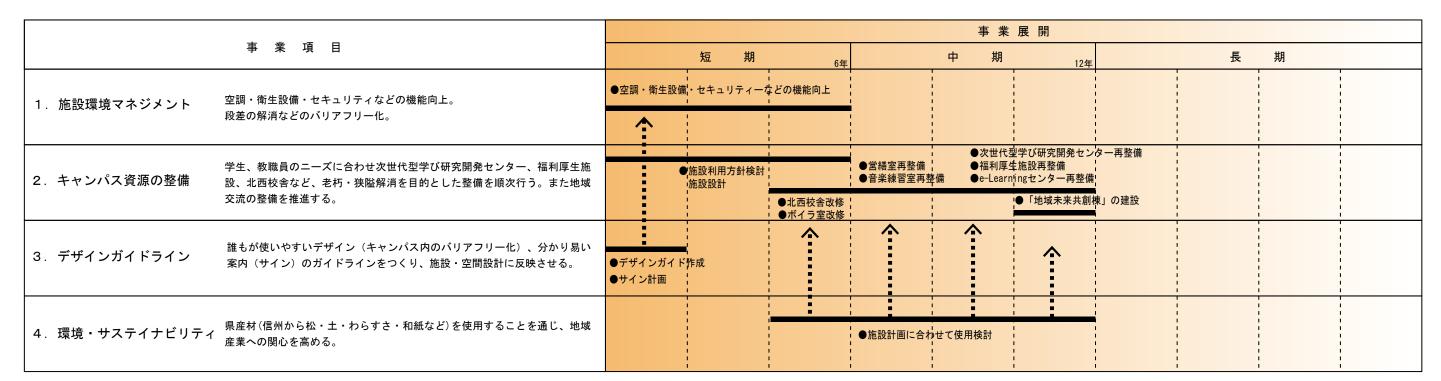
また、ICT教育をはじめとする新しい学びに対応した施設や、地域との 連携を想定した施設等、時代の流れに則した整備が求められている。

#### ■方針

学生が安全かつ快適にキャンパスライフを送れるように、既存建物の 老朽対策・機能向上や統合を進め、ニーズに対応した再整備を行う。内 外装は地元の材料等の使用を積極的に検討する。また、地域連携施設の 整備に際しては、学内のみならず、学外の意見も積極的に反映させ、双 方に長期的なメリットがある活用方法を確立させる。







#### キャンパス資源の整備

一施設配置・計画ディテールー

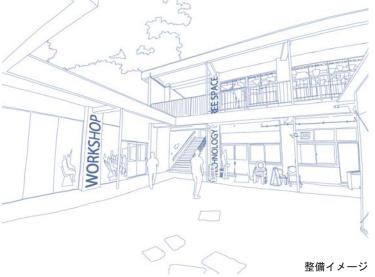
#### ■方針

豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設、地域の人も利用できる交流施設など、既 存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

#### ●北西校舎

キャンパス中心部から離れ静穏な環境であること、グラウンドに近いという立地の特性を生かし、心理教育の実習の場、野外教育の拠点としての機能を中心に強化していく。





### ●食堂

学生や教職員以外にも市民が幅広く活用できるよう、前面緑地と一体整備した屋根付き屋内デッキや展示スペースを設置する。

現状





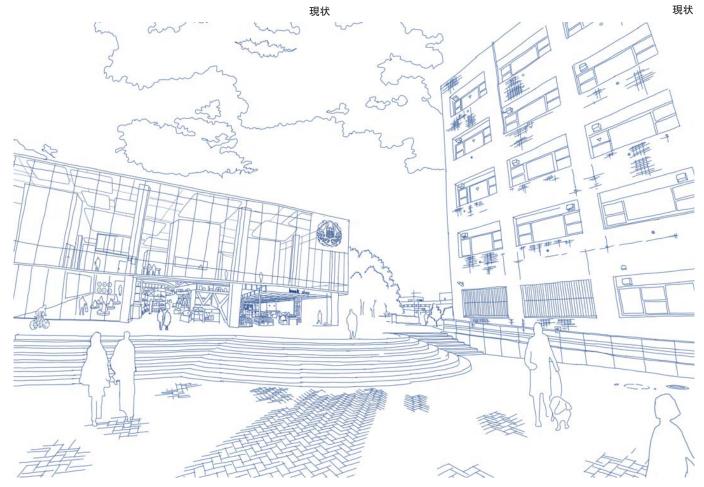
#### 整備イメージ

#### ●地域未来共創棟

旧第一体育館を取り壊した跡地に、教育関連機関や企業を誘致し、先導的な研究や学びを地域と共に学び、開発する複合施設を建設する。







#### ■現状と課題

現在のキャンパス内の広場としては、福利厚生施設前の緑地、国道406号線沿いの広場が学生たちの主な交流場所となっている。敷地周辺には住宅が立ち並び構内を通り抜けする人も多く、構内の緑地やグラウンドは、地区公園としての利用ニーズもある。敷地の高低差に配慮しながら市民が入りやすいゲートや道、広場の整備を行う必要がある。

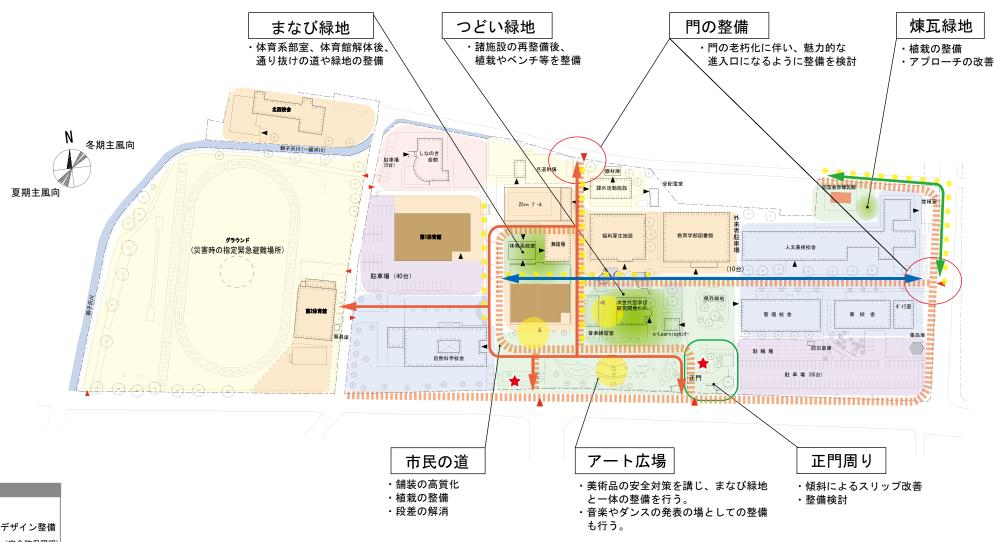
一方、学生の安心安全という観点から、部外者がキャンパス内を自由に出入りすることに対する懸念もある。

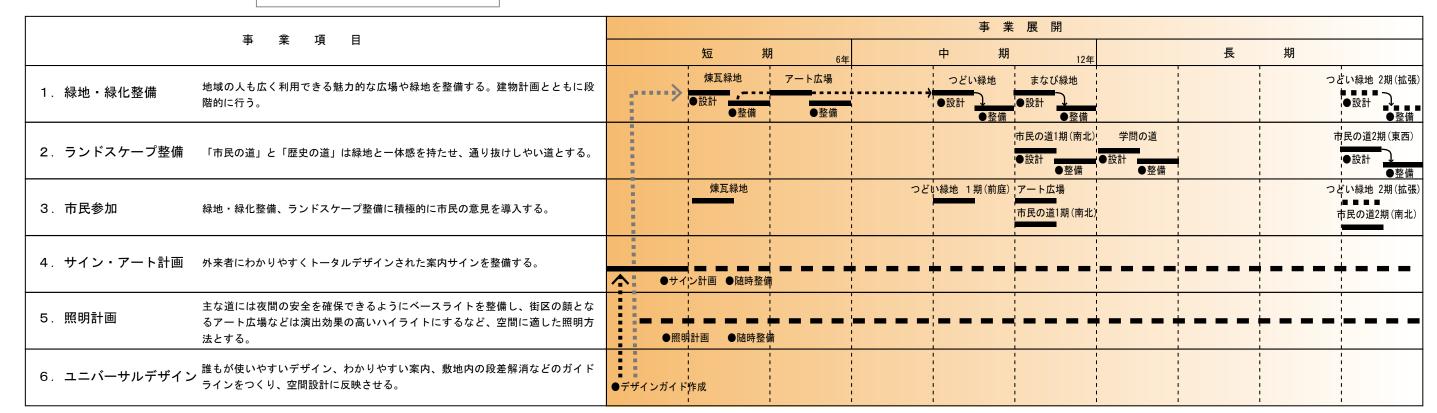
#### ■方針

学生や教職員だけではなく地域の人にも広く利用される魅力的な広場を目指し、アクセスしやすい快適な道やわかりやすいゲートを整備する。既存の緑地や歴史的文化的遺産も活用し、塀や石垣などで閉じている敷地境界は、アート広場など沿道に開かれた圧迫感のない空間とする。

外来者も気持ちよく利用できるようにベンチや照明、わかりやすい 案内を整備すると共に、キャンパス内の「死角」を減らし、不審者が 入り込むリスクを低下させていく。







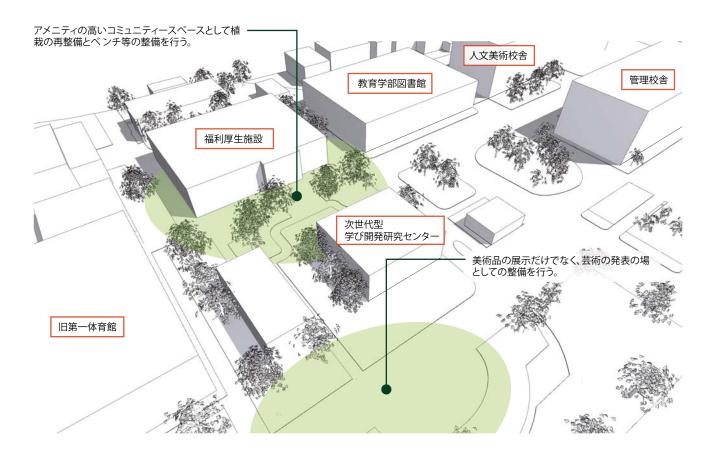
#### 緑地•緑化整備

3. 長野(教育)キャンパスマスタープラン

-パブリックスペースの計画ディテール-

#### ■方針

旭山の眺望や夜間の照明演出等の工夫をし、地域の人も広く利用できる緑豊かな空間を整備する。また、 教育学部らしく、音やアートなど五感で感じる空間づくりとする。



#### ●まなび緑地整備

図書館及び食堂前の保存緑地帯をアメニティの高いコミュニティースペースとして植栽の再整備とべ ンチ等の整備を行う。



#### ●アート広場整備

まなび緑地と連動し、美術品の展示だけでなく、芸術の発表の場としての整備を行う。





現状

整備イメージ

### 2 ランドスケープ整備

-パブリックスペースの計画ディテール-

#### ■方針

各門から伸びる東西、南北に通る道をキャンパスの軸として位置づけ、周辺の建物や広場とを結ぶ回遊ネットワ 一クとして整備する。また、アメニティの高い憩いのスペースとしてベンチや植栽を整備していく。

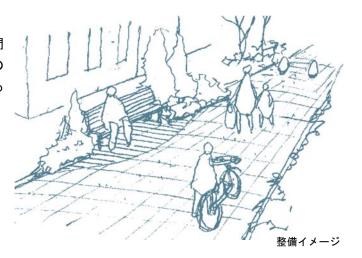
#### ●歴史の道

ベンチや植栽を適切な位置に配置し、東門からの アプローチを整備する。



#### ●市民の道

東西に長い本キャンパスにおいては北門から正門 へ抜ける市民が多い。その通り抜けの道を「市民の 道」として舗装を高質化したり、ベンチを設置する など景観整備を行う。



・石碑の安全対策、アプローチ対策

# 3-3-4 交通・動線の計画

3. 長野(教育)キャンパスマスタープラン

#### ■現状と課題

現在、国道406号線沿いに85台、第1体育館周辺には40台の駐車スペー スがあり、正門・北門・西門より、構内へ車両の乗り入れが可能である。 特に、正門のスロープは勾配がきつく、冬季のスリップ対策が必要であ る。また、正門付近に背の高い石碑が2基あるが、車両の動線に接して おり、アプローチも未整備のため、見学しづらく、かつ地震による倒壊 時に危険が大きい。

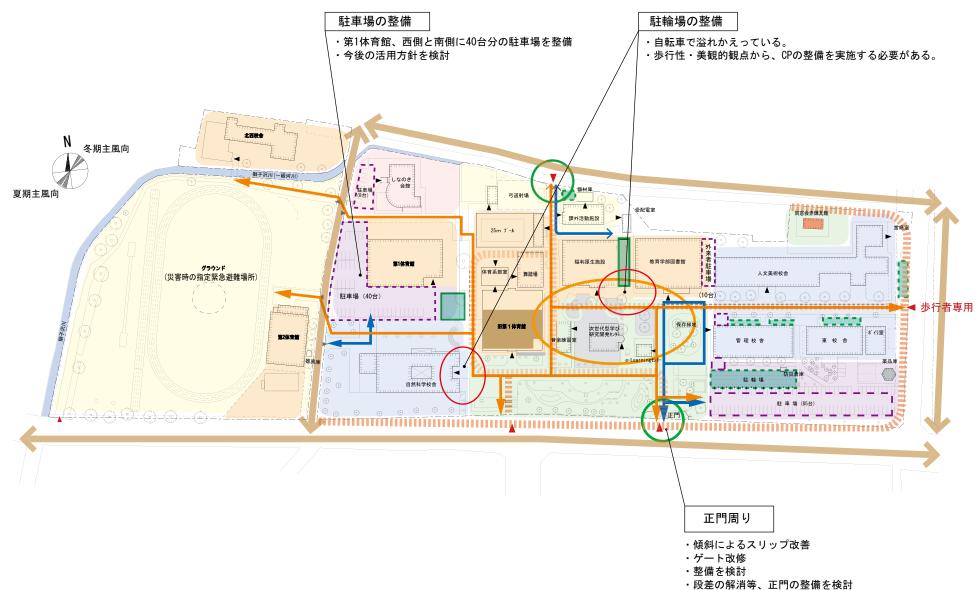
また、自転車置き場は各所にまとまった規模で設置しているが、校舎 前に放置されている自転車が多くエントランスをふさいでいるほか美観 も損なっているため、その対策が課題である。

#### ■方針

安全な歩行空間を確保するため歩車分離とする。原則として車両はゲ 一ト近くの駐車場、自転車は建物の周辺に整備する駐輪場にとめさせる。 バイク置き場については、横内走行をさせないようゲート付近に整備す

また、正門付近の石碑は、車両や人の動線に近く、地震等で倒壊する と危険である他、見学者がアプローチしづらいため移設を検討する。





事業項目		事業展開									
			短 期	6年		中 期	12年		長	期	
1 駐車場整備	正門周りの整備・車路の変更も含め、景観を考慮した改修を検討する。			●検討			●整備				
2. ゲートの整備	道の整備と合わせて大学の門構えや塀の改修を行う。						「市民の道」 ゲートなどの整備	●「学問の道」 門構えの改修			
3. 駐輪場整備	不正駐輪の場所や状況を見ながら、適切な場所に駐輪場の整備を行う。また、不 正駐輪を予防するため利用者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数 を維持する。			●駐輪場割	*             						

駐車場整備

一交通・動線の計画ディテールー

#### ■方針

安全な歩行空間を確保するため歩車分離とする。車両はゲート近くの駐車場に駐車し、原則としてキャン パス内への乗り入れを制限する。また、正門周りは傾斜になっており、冬季のスリップがすることから舗装 を改善する。加えて、正門付近の石碑は、車両や人の動線に近く、地震等で倒壊すると危険である他、見学 者がアプローチしづらいため移設を検討する。



キャンパス内への乗り入れを制限する



石碑の移設の検討



正門周りは傾斜になっている



正門前の舗装の改善

#### 3 駐輪場整備

一交通・動線の計画ディテールー

#### ■方針

自転車については学生の動線を考慮し、福利厚生施設や自然科学校舎のエントランス横に駐輪場の整備 を行う。バイクについては、構内走行をさせないようゲート付近にバイク置き場を整備する。 また、放置自転車対策としてエリアペイント式の駐輪場とする。





放置自転車は歩行者の障害となっている



ロータリー付近は車両の通行もあり危険である

現状





人文美術校舎前駐輪場の例

工夫

□ 受水槽

······· 共同溝

----- 高圧幹線

■■■ 処理車経路

### 3-3-5 設備・インフラストラクチャーの計画

#### ■現状と課題

[電 気 設 備] 1回線高圧受電方式で、2系統受電し共同溝を介して 各棟へ配電。

[給 水 設 備] 市水本管より供給を受け、低層建物は直結給水方式、 高層建物は高架水槽方式により各建物に給水。高置水 槽の衛生面が課題。

「排 水 設 備」 雨水系・生活系・実験系の3系統分流式。雨水系は、 地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は公共 下水道へ放流。尚、実験排水の一部はPH濃度をモニタ リングしている。樹木の根が管路に侵入し閉塞するト ラブルが多発している。

[ガ ス 設 備] 都市ガス(13A)を3箇所より引き込み、土中埋設配管 にて各建物に供給。

[空 調 設 備] 建物についてはガスヒートポンプによる個別空調が主 体であり、各施設に適したシステムへの更新が必要で ある。

棄物] 資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイクル 化を推進。それ以外の一般廃物及び実験系廃棄物は業 者に委託して処理している。実験系の部屋が多々ある 自然科学校舎と薬品庫の距離が長く、安全性に不安が あるため、薬品庫の移転を検討する。

#### ■方針

#### 1. 省エネルギー化

カーボンニュートラルに向けた取り組みとして、新築・大規模改修に関わらず、原則 ZEB Oriented相当以上の省エネルギー消費性能の実現可能性を検討する。

#### 2. 地球環境への配慮

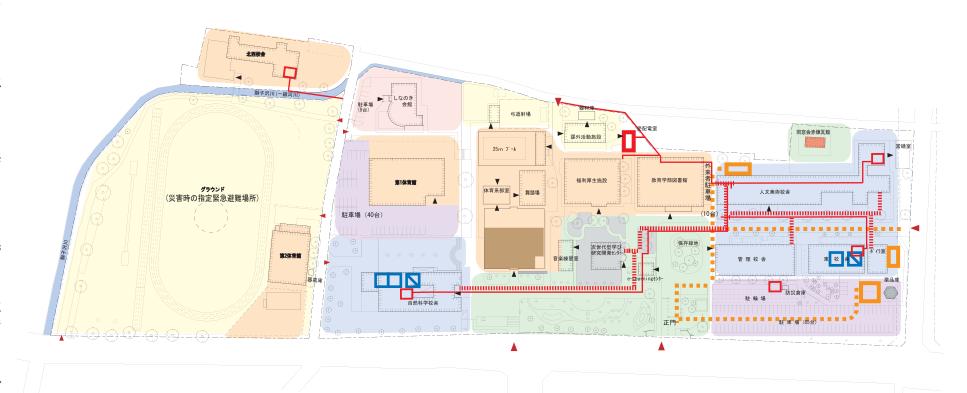
CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作 成する。省エネだけでなく低公害の太陽エネルギーなどの創エネ(新エネルギーの供 給) も組み合わせて目標達成に努める。

#### 3. 循環型社会への取り組み

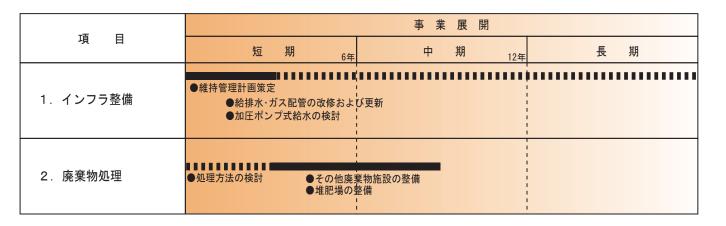
ゴミの分別収集の徹底による再資源化に加え、学生や地域と協力した落ち葉の堆肥 化といった取り組みを進めていく。また、附属学校園と連携し、キャンパスで排出さ れる資源物を児童・生徒の活動に利用する取り組みを進める。

#### 4. 衛生管理上の問題への配慮

高置水槽による低層建物への給水からポンプ圧送方式への移行を検討する。







# 3-3-6 コミュニティ(地域・学生・教職員の交流)の計画

#### ■現状と課題

地域との連携は今後の大学に求められる重要な責務のひとつである。 現在、地域の人が利用できる施設は図書館、福利厚生施設、グラウンド などであるが、積極的に宣伝開放しているわけではないので外来者利用 率は低い。本学部の教員が学校等の地域の教育関係機関の求めに応じ、 出向して講義等を行なう「出前講座」を実施したり、公開講座の開催や 心理教育相談室など地域へのサービス提供も行われている。

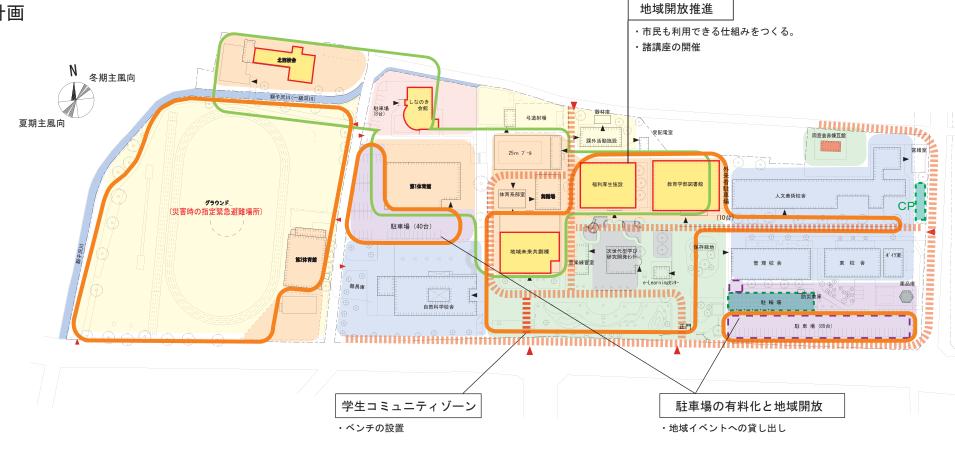
中心市街地に隣接した当立地においてさらに地域連携を強化し、大学 施設、教員、学生を地域の財産として活用してもらえる仕組みをつくる と同時に、我々も地域の施設を利用したり大学の枠を越え学生の社会参 加を促すべきである。

#### ■方針

現在実施されている出前講座や公開講座などをさらに発展させ、地域 との結びつきをより深くする。また、キャンパス内の施設を積極的に市 民に開放するために利用できる範囲を明確にし周知宣伝し、構内にて諸 講座を柔軟に展開できるような環境整備もあわせて行う。具体的には、 北西校舎によるFabラボやカウンセリング、しなのき会館による宿泊・ 研究会などをより推進していく。







事業項目		事業展開						
事業項	短 期 <sub>6年</sub>	中期 <sub>12年</sub> 長期						
1. 駐車場の有料化と地域開放 ま	牧職員の利用は有料化を検討する。 また、この善光寺御開帳をはじめとする地域 Dイベントで一般開放を行っている。		●検討·実施					
2. 施設の地域開放推進 はままれる ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま	者施設の民間開放を促進する一方、土日祝日といった限定機関において民間へ施設を貸し出す。また、防災教育研究センターの地域支援の一環としての施設の施設活用も検討する。		●検計·実施					

#### 駐車場の有料化と地域開放

ーコミュニティの計画ディテールー

#### ■方針

教職員の利用については、年間維持費として有料化を検討する。 令和3年度に整備した第1体育館周辺の駐車場の地域開放を検討する。



#### 施設の地域開放推進

ーコミュニティの計画ディテールー

#### ■方針

図書館、体育館、グラウンド、福利厚生施設(学生食堂、生協)等の大学所有施設の地域開放を促進する。

#### ●体育館、グラウンド

地域スポーツの振興、健康づくりのため、土日に限り申込みのあった団体や個人の使用を認める。また、 防災教育研究センターの地域支援の一環としての活用も検討する。

#### ●図書館

一般市民の利用は受付カウンターにて申込み、閲覧、貸し出しが可能である。

#### ●福利厚生施設(学生食堂、生協)

一般市民の利用は、可能である。



# 信州大学キャンパスマスタープラン Shinshu University Campus Master Plan 2023

B-at. 長野附属キャンパス ~ こどもたちの感性と未来を育む学びの場~





**目 次** B-at. 長野附属キャンパス

# キャンパスマスタープランについて

(1)駐(停)車場の整備

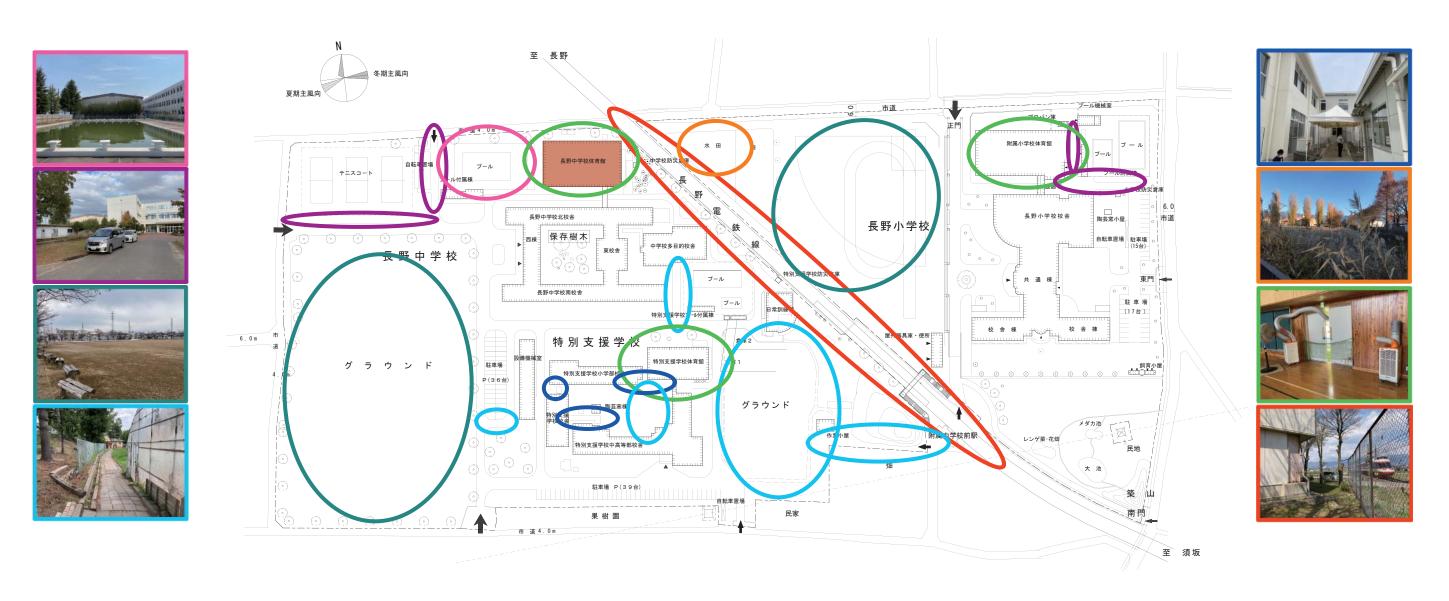
	1-2. 基本方針	1
	1-3. 位置付け	2
	1-4. キャンパスの全体像	3
	1-5. 各キャンパス共通事項	4
3-at.	長野附属キャンパス	
2.	現状分析	
	2-1. 配置図・現状写真・問題点	B-at-1
	2-2. ディベロップメントプラン	B-at-1
3.	長野附属キャンパスマスタープラン	
	3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針	B-at-2
	3-2. 整備方針と戦略	B-at-3
	3-3. カテゴリー別計画	
	3-3-1. 全体骨格・フレームワーク	B-at-4
	3-3-2. 施設配置・計画	B-at-5
	(1) 施設環境マネジメント (2) キャンパス資源の整備	
	(3) デザインガイドライン (4) 環境・サステイナビリティ	
	3-3-3. パブリックスペースの計画	B-at-7
	(1) ランドスケープ整備 (2) 緑地・緑化整備	
	(3) グランド整備 (4) ユニバーサルデザイン	
	3-3-4. 交通・動線の計画	B-at - 9

3-3-5. 設備・インフラストラクチャーの計画…… B-at-10 (1) インフラ整備 (2) 廃棄物処理 3-3-6. コミュニティ (地域・児童・生徒・学生・教職員の交流)の計画 …… B-at-11 (1) 交流施設の計画・運営への学生や市民の参加

(2)施設の地域開放促進

2. 現状分析 B-at. 長野附属キャンパス

# 2-1. 配置図・現状写真・問題点



#### 問題点凡例

グラウンドの排水性及び砂塵による近隣住民への影響があり、芝張り等の対策が必要である。

敷地を分断している長野電鉄線による騒音等は長年の課題となっている。 また大木の枝が架線に接触し、2年に1回程度の剪定等が必要である。

夏の暑さ対策等の機能改修が必要である。(夏場の運動量の確保、長野市指定避難所)

雨水が排出されず雨天時の歩行に支障をきたしている。

プールの利用を停止しており、他機能への整備が必要である。

渡り廊下等が整備されておらず、降雨・降雪時の校舎間の移動に支障をきたしている。

低利用の角地であり、他機能への整備が必要である。

駐車場が足りず、歩道に車を駐車している状況である。

# 2-2. ディベロップメントプラン(改修及び建替が必要な建物一覧)

ディベロップメント対象建物

ディベロップメントプラン

長野中学校体育館改修 1980(昭55)

S1 998 m²

3.長野附属キャンパスマスタープラン

# 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学長野附属キャンパスは、大学の理念及び附属学校(長野小・長野中・特別支援学校)の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたってはそれらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず整備方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、設備・インフラ、コミュニティーというカテゴリーに分類し、全体骨格を除くカテゴリーについては、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

#### ■教育学部附属長野学校の理念・目標

#### (理 念)

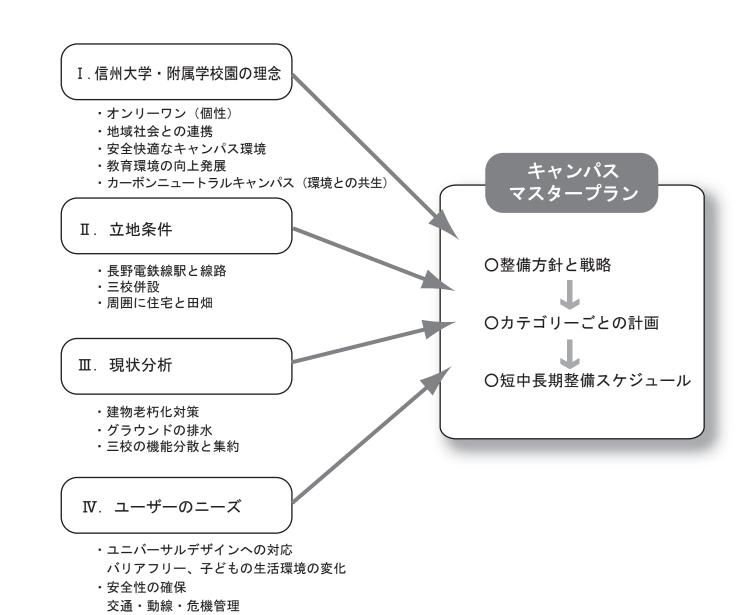
- ~附属学校の三つの使命~
- ・教育学部学生の教育実習を指導し、次代をになう教育者の育成につとめる。
- ・小・中・特支学校の諸般の教育活動について、その実際や理論について研究する。
- ・授業や活動を通して研究を公開し、県内外の各学校や地域の教育の向上発展に寄与する。

#### (目 標)

【長野小】共に在る

【長野中】ともに学び 一人となる

【特別支援】自らの力をじゅうぶん発揮し、主体的に取り組む生活を今と将来にわたって実現する児童生徒の育成



# 3-2. 整備方針と戦略 ~こどもたちの感性と未来を育む学びの場~

キャンパスの整備方針とその戦略を下表にまとめる。

	-	整 備 方 針		戦 略 ———	カテゴリー
1	キャンパス アイデンティティー	【教育現場の向上・発展】 ・教育学部実習生・地域・子ども間の交流活動 【広い敷地・三校隣接を生かしたフィールド学習】 ・三校をつなぐ豊かな自然環境 ・小・中・特支の教育連携と交流	H	・三校一体型の外部空間利用と交流拠点整備 ・子どもの感性を刺激する空間づくり ・学校の枠・地域の枠を超えたモデル的活動	施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備  パブリックスペース(1)ランドスケープ整備  パブリックスペース(2)緑地・緑化整備  パブリックスペース(3)グラウンド整備  コミュニティ(1)地域交流の企画・運営への学生・市民参加
2	アメニティを高める 現状資産の活用	【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 ・地域に開かれた広場や通り抜けの道 ・子どもの成長に合わせた多様な空間 【ニーズに対応した施設利用】 ・教育研究環境の充実 【老朽化対策】 ・建物の安全性の確保		・グラウンド整備(芝生化・雑木林整備等) ・道の整備(舗装、緑化交流スペース) ・自然体験園の整備 ・施設整備(交流施設等) ・機能改善(ネットワーク、空調、照明設備)、老朽改善・インフラストラクチャーの見直し	・施設配置・計画(1)環境施設マネジメント ・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備 ・施設配置・計画(3)デザインガイドライン ・パブリックスペース(1)ランドスケープ整備 ・パブリックスペース(2)緑地・緑化整備 ・パブリックスペース(3)グラウンド整備
3	地域社会との連携	【「知財・人財・資財」の共有、発展】 ・地域教育の発展 ・施設開放(グラウンド、体育館等) 【地域住民との共生】 ・パブリックスペースの協同管理、整備	H	・教育現場、家庭、地域との連携交流 ・グラウンド、体育館等の地域開放 ・社会体育の受け入れ窓口の検討 ・自然体験園や花壇、避難施設の協同管理	・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備 ・パブリックスペース(2)緑地・緑化整備 ・パブリックスペース(3)グラウンド整備 ・コミュニティ(1)地域交流の企画・運営への学生・市民参加 ・コミュニティ(2)施設の地域開放推進
4	参加型キャンパス	【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 ・教育学部学生、教職員が参加した点検評価 ・児童・生徒の意識向上		・教育学部教員と学生の授業参加・共同活動促進 ・定期的な点検評価のシステム、組織づくり ・キャンパスづくりへの参加活動	施設配置・計画(3) デザインガイドラインパブリックスペース(4) ユニバースデザイン・コミュニティ(1) 地域交流の企画・運営への学生・市民参加
5	サスティナビリティ	【地域の風土を教育に生かす】 ・地場産材の使用や地域産業との連携 【カーボンニュートラルキャンパスとエコ教育の推進】 ・省エネ、CO2削減 【循環型社会への取り組み】 ・ゴミ削減、リサイクル、リユース		・県産材を使用した木工授業や環境整備 ・維持管理計画の策定 ・自然体験園や雑木林の維持・活用	<ul> <li>施設配置・計画 (4) 環境・サステイナビリティ</li> <li>・パブリックスペース (2) 緑地・緑化整備</li> <li>・インフラ (1) インフラ整備</li> </ul>
6	ユニバーサルデザイン	【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 ・長野電鉄線を挟んだ往来 ・誰もが使いやすく、迷わない案内	H	・バリアフリー化計画 ・ユニバーサルデザイン(デザインガイドラインの策定) - ・サイン計画	・施設配置・計画(3) デザインガイドライン ・パブリックスペース(4) ユニバースデザイン ・コミュニティ(1) 地域交流の企画・運営への学生・市民参加
7	安全・安心なキャンパス	【安全な歩行空間】 ・人と車の動線、駐車場の確保 【防犯、危機管理】 ・不審者対策や夜間の安全性 ・三校の連絡体制強化	H	・駐(停)車場の整備計画 ・照明計画 ・三校が連携した警備システムの構築	・施設配置・計画(1)環境施設マネジメント ・パブリックスペース(1)ランドスケープ整備 ・交通・動線(1)駐(停)車場の整備

# 3-3 カテゴリー別計画 3-3-1 全体骨格・フレームワーク

3. 長野附属キャンパスマスタープラン





## 3-3-2 施設配置・計画

3. 長野附属キャンパスマスタープラン

#### ■現状と課題

#### [長野中]

老朽化が著しい体育館の改修と利用頻度が低下しているプール周辺 の新たな活用方法を検討する必要がある。

#### [長野小]

生活様式の変化により、洋式トイレの設置が望まれる。

#### [特別支援]

改修等は行われておらず、老朽化が進んでいるため機能改修が必要 である。中高等部校舎中庭に遊具を設置し、環境整備を行う。

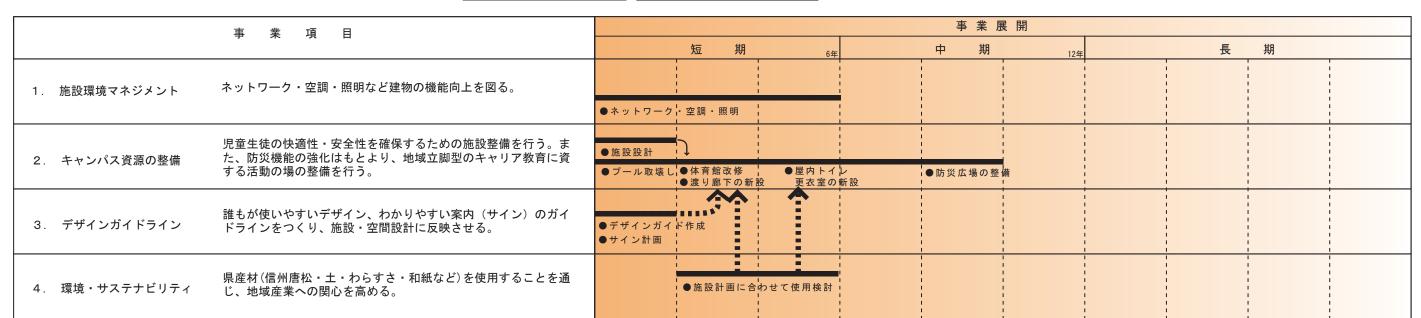
#### [共诵]

各校とも個別学習等のスペースが不十分であるためレイアウトの見 直しが必要である。

#### ■方針

建物内の改修においては、洋式トイレ化、高所窓の手すり設置、快 適性と安全性を確保するとともに、内外装は地元の材料等の使用を積 極的に検討する。また、誰もが使いやすいユニバーサルデザインのガ イドラインを作成し、順次整備する。





# キャンパス資源の整備

一施設配置・計画のディテールー

#### ■方針

既存のストックを活用しながら、児童・生徒・学生・教職員・地域が集える場の整備を推進する。

#### ●長野中学校体育館

老朽改善を実施し、日常の授業に加えて、現教職員の研修、社会体育運動、地域の多様な事業や活動を行 える施設にする。また、体育館西側に出入口を設け避難所と防災広場を一体利用できるようにするなど、防 災機能の強化も合わせて実施する。





#### ●防災広場

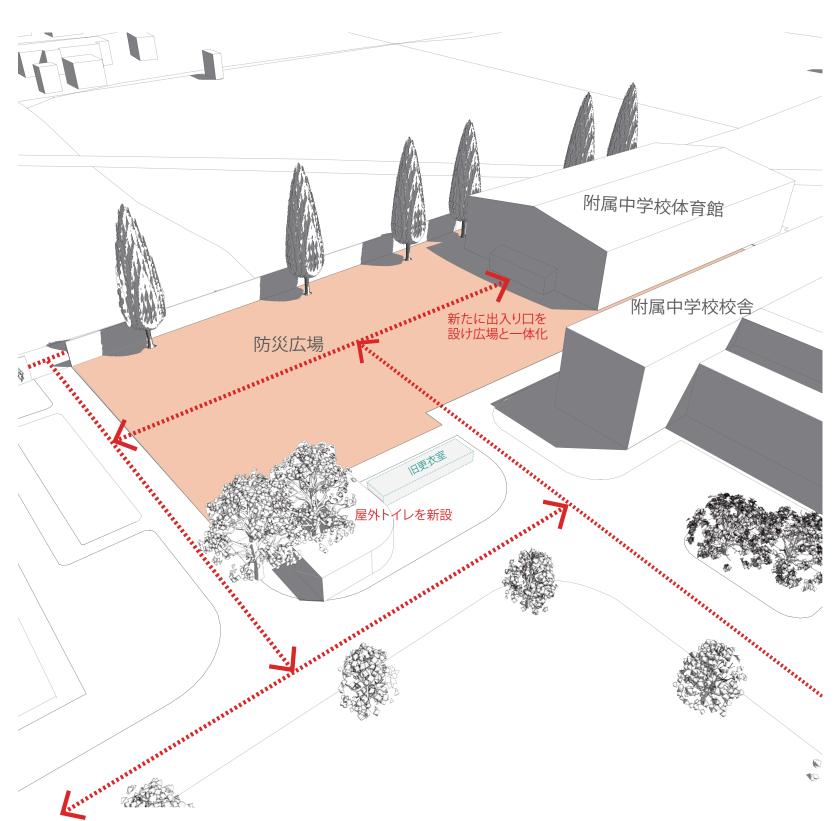
「総合的な学習の時間」で行っている防災教育を地域を含めたものに発展させ、地域防災を牽引す る人材はもとより、防災情報ネットワークの構築運用や災害時の相互協力の拡充を推進する。

そのため、利用しなくなったプール及びプール附属等を取壊し、災害時の避難所運営活動等に資す る場の整備を行う。





現状 現状



防災広場と体育館の一体化

# 3-3-3 パブリックスペースの計画

3. 長野附属キャンパスマスタープラン

#### ■現状と課題

#### [長野中·特別支援]

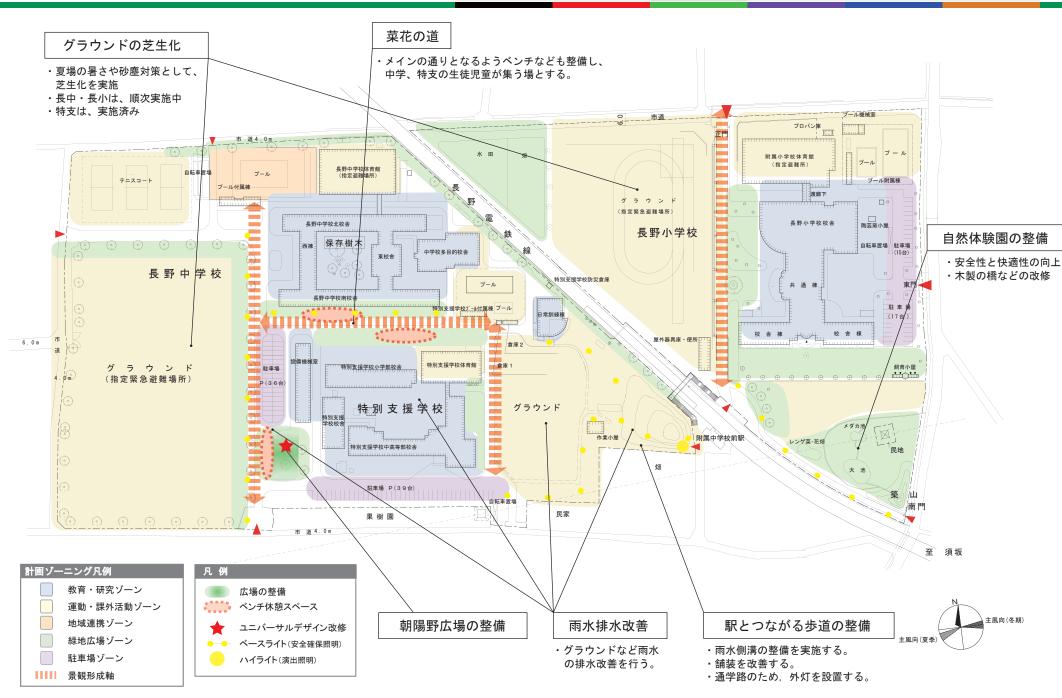
グラウンド周囲や線路沿いの立ち木のほか、玄関前など緑の手入 れは行き届いている。特支のグラウンドの排水が悪く、大雨時に敷 地外へ接続する枡から雨水があふれる。

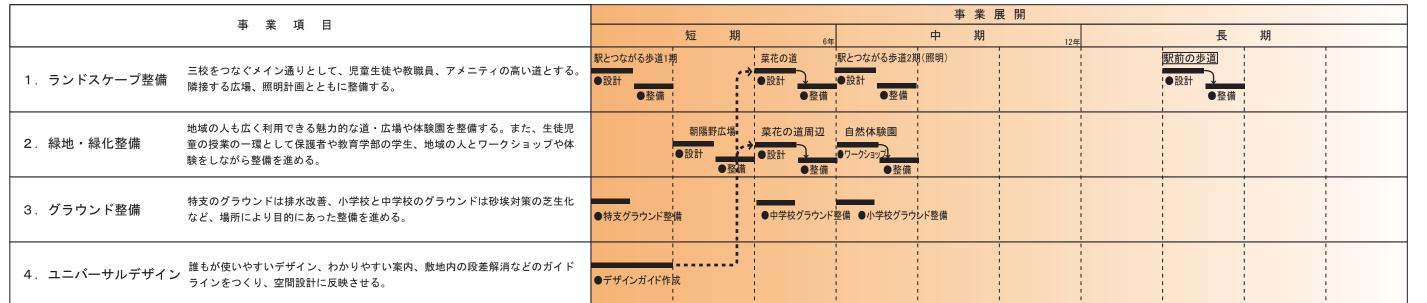
また、駅へ通ずる通路が狭く段差もあるなど、整備する必要がある。 「長野小」

メダカ池などのビオトープ(自然体験園)は、児童だけでなく地 域の利用もあるが、木製の橋や繁茂した植物など手入れが必要な箇 所もある。グラウンドは砂埃対策が必要である。

#### ■方針

オープンスペースは三校をつなぐ重要な要素であり、地域の人も 利用する場でもある。それぞれの通りや広場の性格を考慮し、安全 性・快適性の向上をはかる景観整備をする。特支のグラウンドは排 水改善、小学のグラウンドは砂埃対策と景観整備、自然体験園は安 全性と快適性の向上を図る。





# ランドスケープ整備

ーパブリックスペースの計画ディテールー

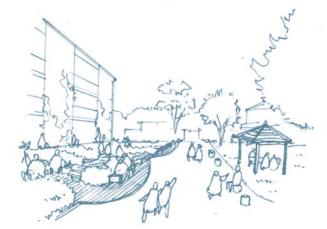
#### ■方針

各校舎の配置や各門からのアクセスを考慮し、各道の役割を明確にしながら景観に配慮した快適な道路空間を整備する。また、整備に際しては長小や特支の活動と連携を推進する。

#### ●菜花の道

中学の菜園を活かして菜花の中を散策するような道とする。中学・特支の憩いの場としてベンチなども設置する。





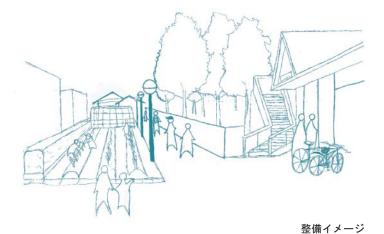
現状

整備イメージ

#### ●駅前とつながる歩道の整備

中学校や特別支援学校の児童・生徒が、駅からの通学路として利用する道は、雨水側溝が整備されておらず降雨時には歩行が困難であり、外灯もなく暗く危険である。また、道沿いには特別支援学校の畑が整備されおり、課外活動での利用も多い。そのため、舗装や雨水側溝、外灯の整備をおこない、明るく安心安全な歩道の整備を実施する。





#### 3 グラウンド整備

ーパブリックスペースの計画ディテールー

#### ■方針

長野附属学校では、以下に掲げる目標達成のため校庭の芝生化を進める。

- ・地域の自治体主催の運動会や近隣の幼稚園児の散歩等の場として貢献【SDGs3】
- ・児童、生徒の運動時の怪我の防止及び熱中症対策等の授業環境改善【SDGs4】
- ・ユネスコスクールとしてESD活動の更なる充実【SDGs4】
- ・廃芝の再利用による環境負荷の軽減【SDGs12】
- ・雨水による急激な土砂の流失及び砂塵の発生の防止【SDGs13】
- ・ヒートアイランド抑制による環境配慮【SDGs13】

なお、特支は平成23年に校庭全面芝生化、小学校・中学校は平成24年に校庭の一部芝生化を 実現しており、場所により目的にあった整備を進める。

#### ●小学校のグラウンド

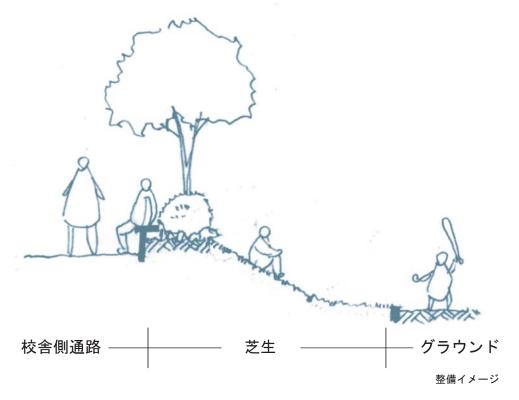
グラウンドの砂埃が校舎側に舞うのを緩和するため、グラウンド周辺部を芝生化する。校舎側はグラウンドより少し盛土してベンチ花壇と高木を配置し、グラウンド側は芝生の法面とするなど景観に配慮し砂埃対策をする。





現状 (長野中学校)

現状 (特別支援学校)



# 3-3-4 交通・動線の計画

3. 長野附属キャンパスマスタープラン

#### ■現状と課題

#### 「長野小」

車両動線と通学路は、分離されており安全である。しかし、駐 車場が足りておらず路肩駐車が数台ある。

#### [長野中]

車両動線と通学路は、分離されておらず危険である。中学校 という特性上、課外活動も多くあり、車両の構内走行には注意 が必要である。また、駐車場が足りておらず路肩駐車が多数あ

#### [特別支援]

ほとんどの生徒は、保護者の車での送迎で通学しているが、 駐停車するスペースが狭いため、通路やグラウンドに駐停車せ ざるを得ない。当該通路は、中学校の生徒が通学に利用するた め、交通事故の危険もある。

また、附属学校では、現職教員の授業づくりの拠点として、 日常的にワークショップや体験参加型の教材研究会等を企画・ 開催しており、その際は県内をはじめ全国から教員が参加する ため、駐車場が足りず、グラウンド等に駐車せざるを得ない状 況である。

#### ■方針

低利用の角地を駐車場に整備し、路肩駐車をなくす。 また、朝陽野広場の整備とともに、一角を児童・生徒を送迎す る保護者が駐停車できるスペースとして整備する。





# 3-3-5 設備・インフラストラクチャーの計画

#### ■現状と課題

[電 気 設 備] 長野電鉄線を挟んで、小学校側と中学校・特別支援学校側の2系統で高 圧受電し、各施設に低圧で配電している。

[給 水 設 備] 小学校は市水本管より供給を受け、加圧ポンプ方式で給水。 中学校は市水本管より供給を受け、高置水槽方式で給水。屋上に設置された高置水槽の衛生面が課題。 特別支援学校は市水本管より供給を受け、直結方式で給水。

[排 水 設 備] 雨水系・生活系の2系統分流式。雨水系は、地下浸透及び公共側溝へ放流。 生活系は公共下水道へ放流。(3校共通)

[ガ ス 設 備] 小学校は、LPガスボンベ庫を設置し、供給。 中学校・特別支援学校は、共同のLPガスボンベ庫を設置し、必要施設へ 供給。施設間の土中埋設配管の老朽化が進んでおり、漏洩等の対策が必 要となっている。

[空 調 設 備] 暖房設備については、灯油の集中配管型FF式ファンヒーターは廃止予定。 また、中学校は年次計画により個別空調化を行った。 特別支援学校体育館は、温水式床暖房を採用し、小学校体育館は、ガス 遠赤外線輻射式暖房機を採用している。

[廃 棄 物] 資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイクル化を推進。

#### ■方針

1. 省エネルギー化への配慮

設備機器 (ボイラー)の耐用年数を鑑みGHP (ガスヒートポンプ)、EHP (電気ヒートポンプ)の比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。ZEBについても検討していく。また、カーボンニュートラルに向けた取り組みとして、新築・大規模改修に関わらず、原則ZEB Oriented相当以上の省エネルギー消費性能の実現可能性を検討する。

- ・電気使用量の見える化、デマンドシステムの導入を行う
- ・照明設備のLED化を順次進める
- 2. 地球環境への配慮

CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作成する。

3. 循環型社会への取り組み

ゴミの分別収集の徹底による再資源化、落ち葉の堆肥化を図るなど各校の課題として研究し取り組んでいく。

4. 衛生管理上の問題への対応

高置水槽による低層建物への給水からポンプ圧送方式への移行を検討する。

5. 災害・安全衛生への取り組み

三校が連携した警備システム(情報伝達システム)を検討する。



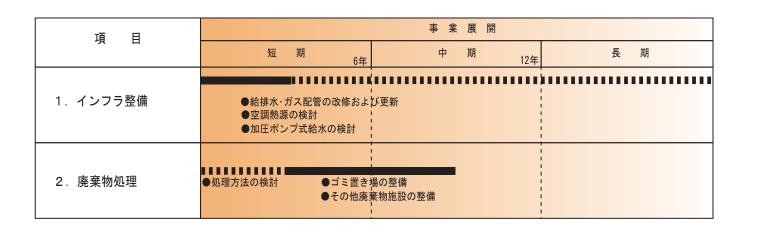
教育・研究ゾーン

地域連携ゾーン

緑地広場ゾーン

駐車場ゾーン

運動・課外活動ゾーン



高置水槽

電気施設

廃棄物施設

受水槽

----- 高圧幹線

# 3-3-6 コミュニティ(地域・児童・学生・教職員の交流)の計画

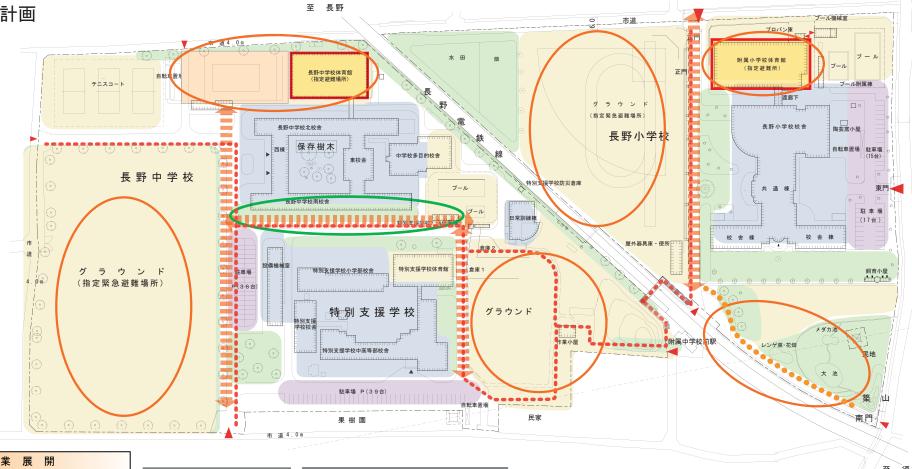
#### ■現状と課題

長野電鉄の駅があり、敷地周辺通行する地域住民が多い。一方、児童・生徒の安全 を確保する必要上から、自由な敷地開放は困難である。

#### ■方針

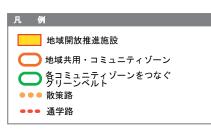
敷地内のオープンスペース及び、生徒児童のみならず学校の枠を越え積極的に交流 できる学習プログラムやイベントを開催し、それらの施設運営管理についても保護者 やNPOとの協働など連携体制を構築し、安全に地域に開放する方法を検討する。

体育館などの地域開放は現在でも行っているが、社会体育や地域の活動発表の場と しての受付窓口の設置などにより、安全に快適に市民利用できるシステムも検討す る。また、陶芸釜や木工室など、学校施設をつかった地域の趣味学習活動支援など、 休日の積極的な校舎利用も検討する。



_	NI	事業展開		
事 	事業項目			
1. 交流施設の計画・運営への				
学生や市民の参加	企画など広く市民にも呼びかけ、学生や教職員、保 護者や地域の人も交流できる場として活用する。	●企画・実施		
2. 施設の地域開放促進	諸施設の地域開放を促進する。安全で快適に利用で きるシステムづくりを検討する。	●検討・実施		

## 計画ゾーニング凡例 教育・研究ゾーン 運動・課外活動ゾーン 地域連携ゾーン 緑地広場ゾーン 駐車場ゾーン ▋▋▋▋ 景観形成軸



# 至須坂

### 計画・運営への学生や市民の参加

-コミュニティの計画ディテール-

#### ■方針

ハードからソフトまで学校づくりに積極的に児童生徒、学生や市民の参加を促し、地域に開かれた愛着ある学校とする。 学部や地域連携機能は、「防災広場」にその役割を付加することとする。

学校の運営について外部の人と意見交換を行う学校評議会に諮り、バザーや作品展などのイベントの企画をおこない、 限定的ではあるが地域や企業といった社会との交流の場として、開かれた学校とする。

#### ●体育館と防災広場

児童・生徒・学生・教職員・地域が共に学び研究し集い活動するスペースであり、その計画や運営は地域と連携しワー クショップ等を開催しながら協働で管理していくことが望ましい。

#### 2 施設の地域開放促進

-コミュニティの計画ディテール-

#### ■方針

体育館、グラウンド、校舎の地域開放を促進する。 児童・生徒の地域向けの課外発表の場として活用する。

#### ●体育館、グラウンドの地域開放

地域のスポーツサークル等への貸出や、プロチームを招いた児童 生徒向けのスポーツ教室や地域との合同の防災訓練を開催する。

#### ●校舎の地域開放

校舎内の教室の利用促進は、安全性を考慮しながら地域の生涯学 習プログラムなど、ある程度利用者が限定される形で実験的に行い ながら、施設の有効利用と地域貢献につとめる。



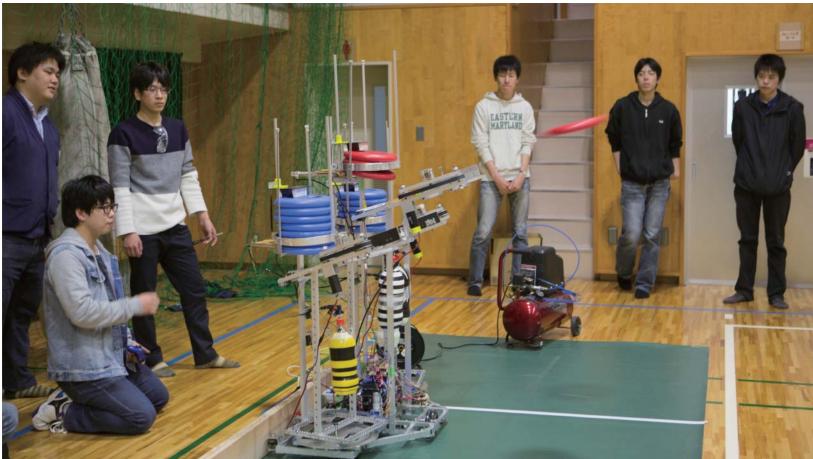
\_\_\_\_ 特別支援学校のグラウンドでの地域開放



# 信州大学キャンパスマスタープラン Shinshu University Campus Master Plan 2023

C. 長野(工学) キャンパス ~豊かな未来を創造するものづくりの場~





**目 次** C. 長野(エ学) キャンパス

# キャンパスマスタープランについて

(4) 環境・サステナビリティ

(1) 駐輪場整備 (2) 歩車分離 (3) ゲート整備

		1 – 2.	基本方針		•••••			•••••		1	
		1 — 3.	位置づけ							2	2
		1 — 4 .	キャンパス	スの全体像・						3	}
		1 — 5 .	各キャンパ	パス共通事項						4	1
C.	長	野(工	学)キャ	ンパス							
	2.	現状	分析								
		2 – 1	. 配置図・	現状写真・問	題点						C-1
		2-2	. ディベロ	ップメントフ	゚゚ラン						C-1
	3.	長野	(工学)キー	ャンパスマ	スター	-プラン					
		3 — 1	. キャンパ	スマスターフ	プランの	目標と作	成方針 …				C-2
		3 – 2	.整備方針	と戦略							C-3
		3 – 3	. カテゴリ	一別計画							
			3-3-	1. 全体骨格	・フレ-	ームワーク				[	C-4
			3-3-2	2. 施設配置	• 計画					[	C-5
			(1)施設	環境マネジメ	ント	(2)キャン	パス資源の	整備 (3	3) デザイン	ガイドラ	ライン

3-3-3. パブリックスペースの計画 ……………………… C-7

(1) 緑地・緑化計画 (2) ランドスケープ計画 (3) サイン・アート・照明計画

3-3-5. 設備・インフラストラクチャーの計画 C-11
(1)インフラ整備
3-3-6. コミュニティ (地域・学生・教職員の交流) の計画 C-12
(1) 交流施設の計画・運営への学生や市民の参加 (2) 施設の地域開放促進

2.現状分析

# 2-1. 配置図・現状写真・問題点

#### 問題点凡例

学生食堂・福利厚生施設が保健室・ボイラ室で分断されているため、一体感が損なわれている。

キャンパス中央部の景観整備と学生の居場所づくりが不足している。

図書館は蔵書スペース、アクティブ・ラーニングスペースが不足している。

学生食堂・福利厚生施設は経年劣化により老朽化が進んでいる。

若里寮は経年劣化により老朽化が進んでいる。

# 2-2. ディベロップメントプラン(改修及び建替が必要な建物一覧)

#### ディベロップメントプラン

ディベロップメント対象建物

若里寮改修 1979 (昭45) R4 1,355㎡

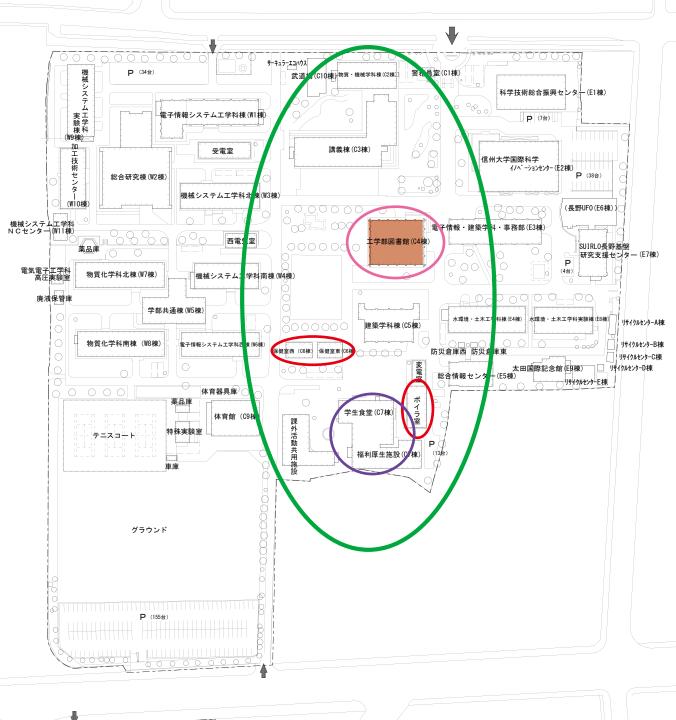
図書館増築 1971(昭45) R2 1,470㎡

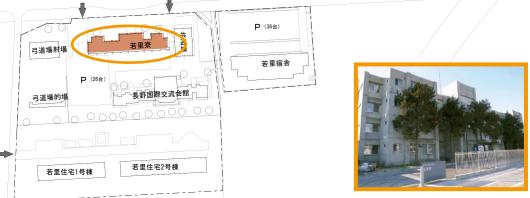












3. 長野(工学) キャンパスマスタープラン

## 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学長野(工学)キャンパスは、大学の理念及び工学部の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず整備方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、環境・インフラ、コミュニティというカテゴリーに分類整理し、全体骨格を除くカテゴリーについては、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

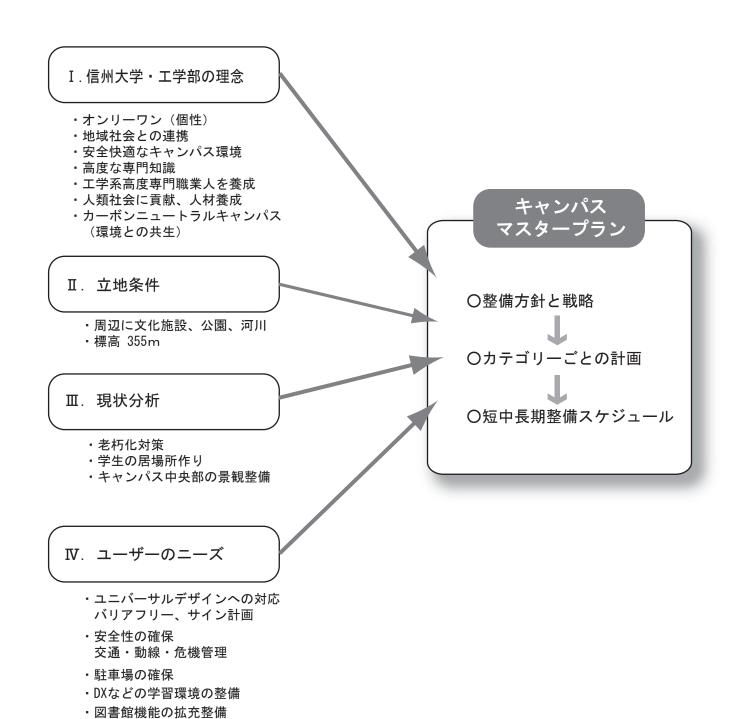
#### ■工学部の理念・目標

#### (理 念)

- ・恵まれた自然環境の中で個性を生かし、基礎的学力の素養のもとに、工学の幅広い専門的知識を持ち、 社会の様々な課題を発見・解決できる工学系高度専門職業人を養成します。
- ・科学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的 技術の研究開発や国際化に対応できる人材を養成します。

#### (目 標)

- ・基礎学力の向上を重視しつつ専門知識並びに学際分野の修得を基盤にし、創造力の育成と課題探求能力を開発する教育を行います。
- ・工学全体を俯瞰する力、専門基礎力、豊かな一般教養により、イノベーションの核となる人材を養成します。
- ・地球環境保全などに対する技術者倫理をそなえ国際的視野に立ってさまざまな分野、地域及び社会に おいて貢献できる行動力や自立心を有する人材を育成します。



3. 長野(工学) キャンパスマスタープラン

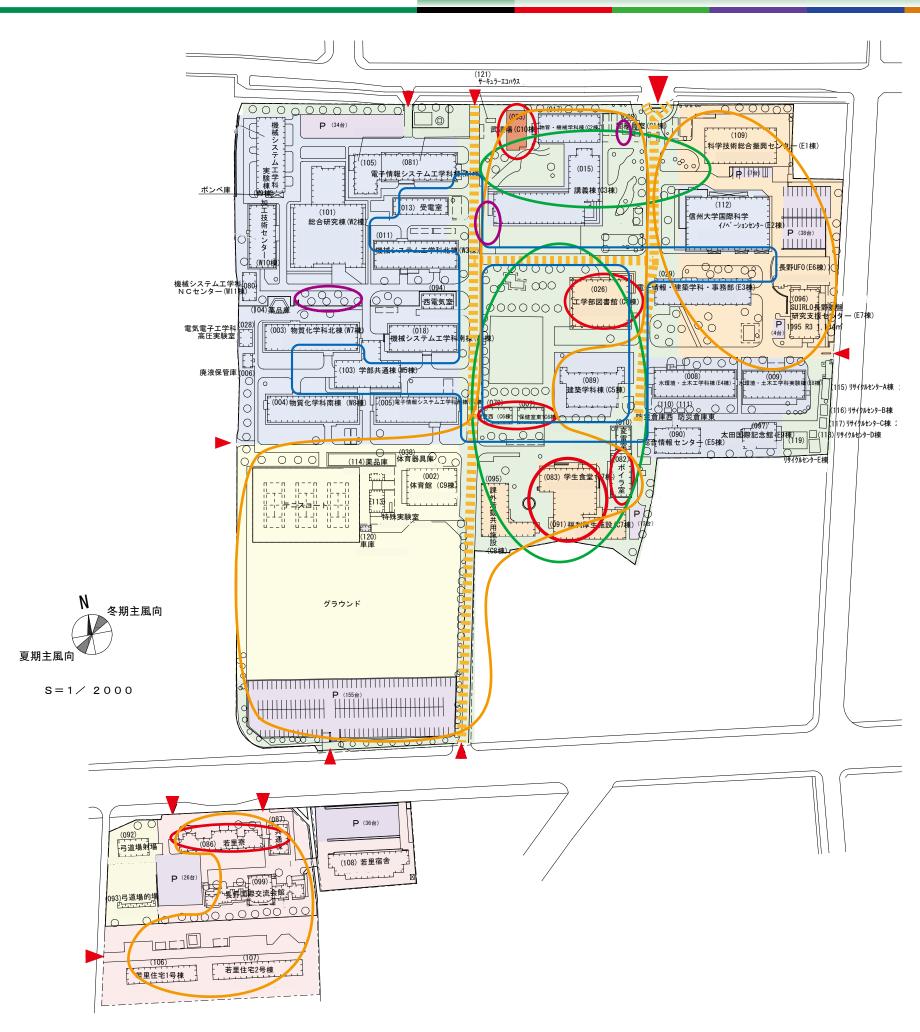
# 3-2. 整備方針と戦略 ~豊かな未来を創造するものづくりの場~

キャンパスの整備方針とその戦略を下表にまとめる。

	整 備 方 針			カテゴリー
1 キャンパス アイデンティティー	【最先端技術の開発・公開】  ・産学官の連携強化、地域への公開  ・ナノマテリアル、データサイエンス  【周辺の緑地環境の連続性】  ・若里公園のケヤキ並木から犀川河川敷まで	+	・交流の場の整備 ・シンボル並木(通り抜けの散策道)の整備 ・ゲート整備	施設(2)キャンパス資源の整備 パブリックスペース(1)緑地・緑化計画 交通(3)ゲート整備 コミュニティ(1)交流施設への学生・市民参加
2 アメニティを高める 現状資産の活用	【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 ・学生研究施設と地域開放エリア ・キャンパスの軸と建物のネットワーク化 【ニーズに対応した施設利用】 ・学生、教職員の交流スペース ・教育研究環境の充実 ・駐車場、駐輪場動線の見直し 【老朽化対策】 ・建物の安全性の確保	H	<ul> <li>・シンボル並木の整備</li> <li>・駐車場の有料化</li> <li>・施設整備(図書館増築、飲食施設等)</li> <li>・広場整備(学生食堂前等)</li> <li>・施設の機能拡充、老朽化改善</li> <li>・インフラストラクチャーの見直し</li> </ul>	施設(1)施設環境マネージメント 施設(2)キャンパス資源の整備 パブリックスペース(1)緑地・緑化計画 パブリックスペース(2)ランドスケープ整備 交通(2)歩車分離 インフラ(1)インフラ整備 コミュニティ(2)施設の地域開放
3 地域社会との連携	【「知財・人財・資財」の共有、発展】 ・産学官連携施設の利用促進、地域交流施設 【地域住民との共生】 ・自然資源、施設の地域開放	+	・企業と連携した研究、地域サービス・地域文化、大学文化の発表・交流・図書館、福利施設等の地域開放・防災拠点としての機能向上・イノベーションコモンズ(共創拠点)の整備	コミュニティ(1)交流施設への学生・市民参加コミュニティ(2)施設の地域開放
4 参加型キャンパス	【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 ・学生、教職員が参加した点検評価 ・ソフト事業への学生参加	+	・定期的な点検評価のシステム、組織づくり ・学生の企画参加 ・施設整備等の計画及び施工への学生参加	が設(2)キャンパス資源の整備 パブリックスペース(3)サイン・アート コミュニティ(1)交流施設への学生・市民参加
5 サスティナビリティ	【地域の風土の反映】	+	・県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)の使用 ・維持管理計画の策定	<ul><li>施設(4)環境・サステイナビリティ</li><li>パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</li><li>インフラ(1)インフラ整備</li></ul>
6 ユニバーサルデザイン	【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 ・誰もが使いやすい 【わかりやすいキャンパス】 ・迷わない案内	+	・バリアフリー化計画 ・ユニバーサルデザイン (デザインガイドラインの策定) ・サイン計画	施設(3) デザインガイドライン パブリックスペース(2) ランドスケープ整備 パブリックスペース(3) サイン・アート
7 安全・安心なキャンパス	【安全な歩行空間】 ・人と車と自転車の動線の分離 【防犯、危機管理】 ・夜間の安全性	+	・交通計画(歩車分離) ・駐車場計画、駐輪場計画 ・照明計画	パブリックスペース (3) 照明計画 交通 (1) 駐輪場整備 交通 (2) 歩車分離

# 3-3 カテゴリー別計画 3-3-1 全体骨格・フレームワーク





## 3-3-2 施設配置・計画

3. 長野(工学)キャンパスマスタープラン

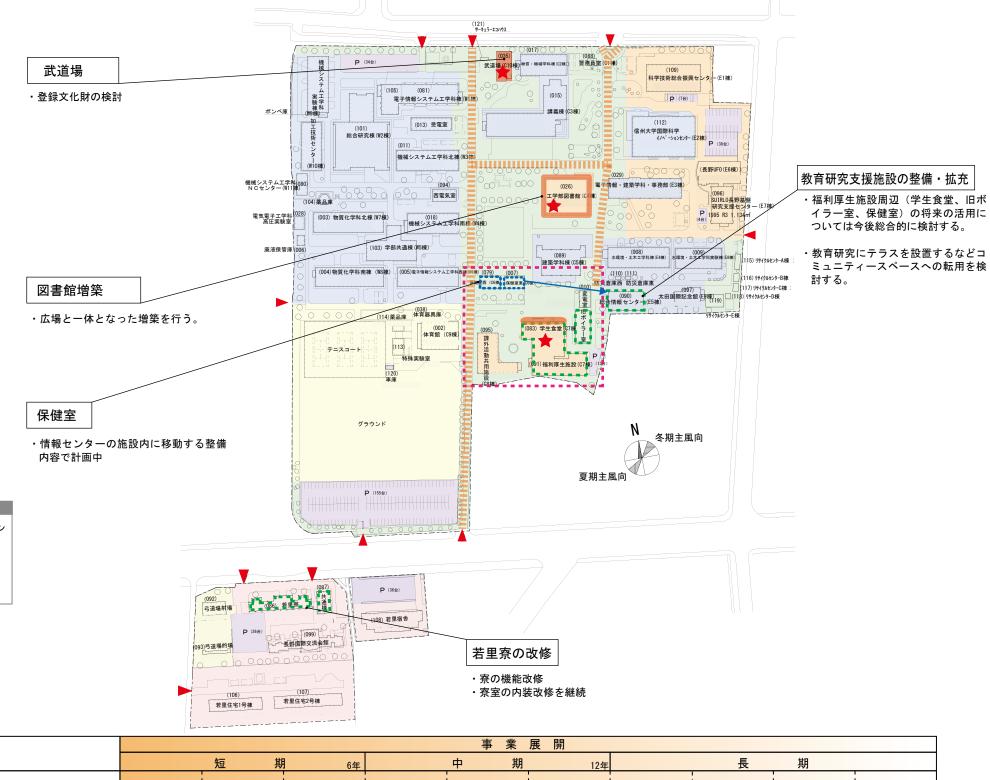
#### ■現状と課題

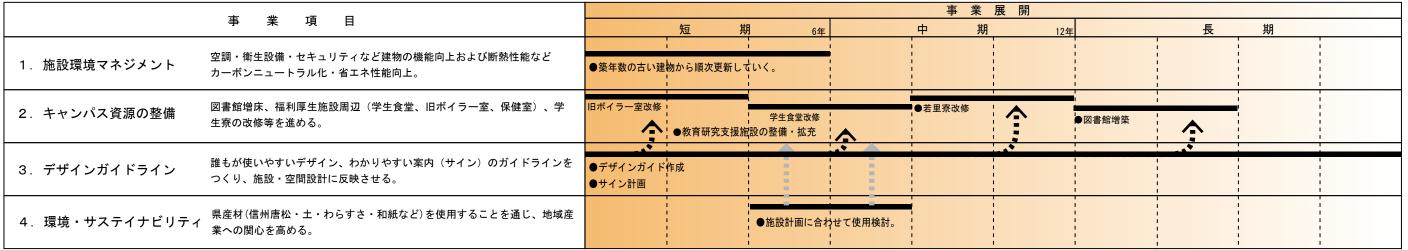
正門が敷地の北側に位置しているため、軸線となる通り からの景観は各建物の北面のファサードが重要なポイント になっており、景観に配慮したファサードの改修が引き続 き必要である。耐震改修を終え、学生食堂、旧ボイラー室、 学生寮などの教育研究支援施設の整備・拡充が課題となっ ている。特に、図書館の書架スペースの拡充や、福利厚生 施設周辺建物の有効利用など、現状の施設を最大限に活か しつつ、構造的な安全性の確保とニーズに対応した空間の 整備が必要である。併せて整備費用の確保も必要であり、 外部資金など様々な手法の導入を検討する。

#### ■方針

学生が安全かつ快適にキャンパスライフを送れるよう、教 育研究施設の整備・拡充を行う。また、エネルギーロスの 少ない建物建材や設備を取り入れた計画段階から建築や土 木を専攻する学生を参加させ、各専門を活かした工学部ら しい空間及びシステムづくりとする。さらに、誰もが使い やすいユニバーサルデザインを推進する。







キャンパス資源の整備

一建物の計画ディテールー

#### ■方針

豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設(メンタルヘルス・キャリアサポート関連含む)、地域の人も利用できる交流施設など、既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

#### ●教育研究支援施設の整備・拡充

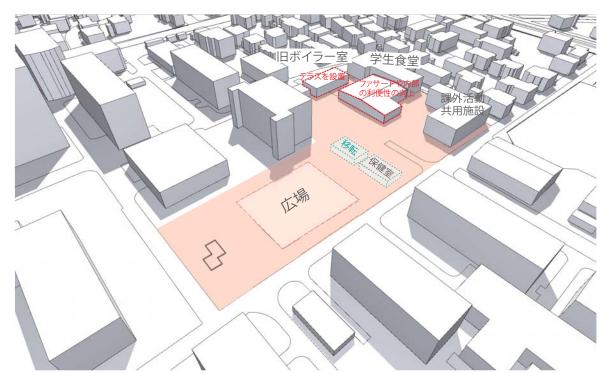
- ・広場から学生食堂の一体感に重点を置きながら、ファサードや内部の利便性の向上を図る。
- ・学生食堂調理スペースは利便性に加えて衛生面での向上も図る。
- ・学部・大学院定員増や外国人研究員の増加に対応するため、既存施設をできるだけ活用するが、足りない スペースについては増築も視野に入れる。
- ・旧ボイラー室等の既存施設にテラスを設置して活用するなどコミュニティースペースへの転用を検討する。
- ・整備予算は外部資金など様々な手法の導入を検討する。







現状 (旧ボイラー室)



広場から学生食堂の一体化

#### ●図書館の増築

専門書のための蔵書スペース、アクティブ・ラーニングスペースが不足しており増床を行うと共に、図書館横の広場とのつながりを考慮する。また、広場に面するところに出入り口を設け、雑誌などのスペースを充実させることで、地域住民も気軽に利用できるようにする。



現状



整備イメージ

#### ●若里寮の改修

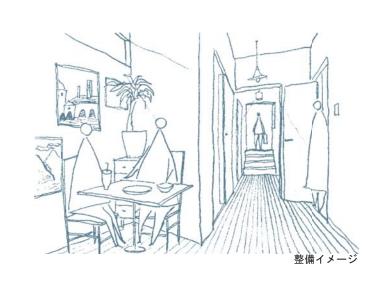
老朽化した若里寮・共通棟のインフラの更新をおこなう。また、女子フロア運用開始にあたり寮室内を 改修した。併せて男子フロアの寮室内のリニューアルをおこなう。



現状 (未改修寮室)



現状(改修後)



# 3-3-3 パブリックスペースの計画

#### ■現状と課題

3. 長野(工学)キャンパスマスタープラン

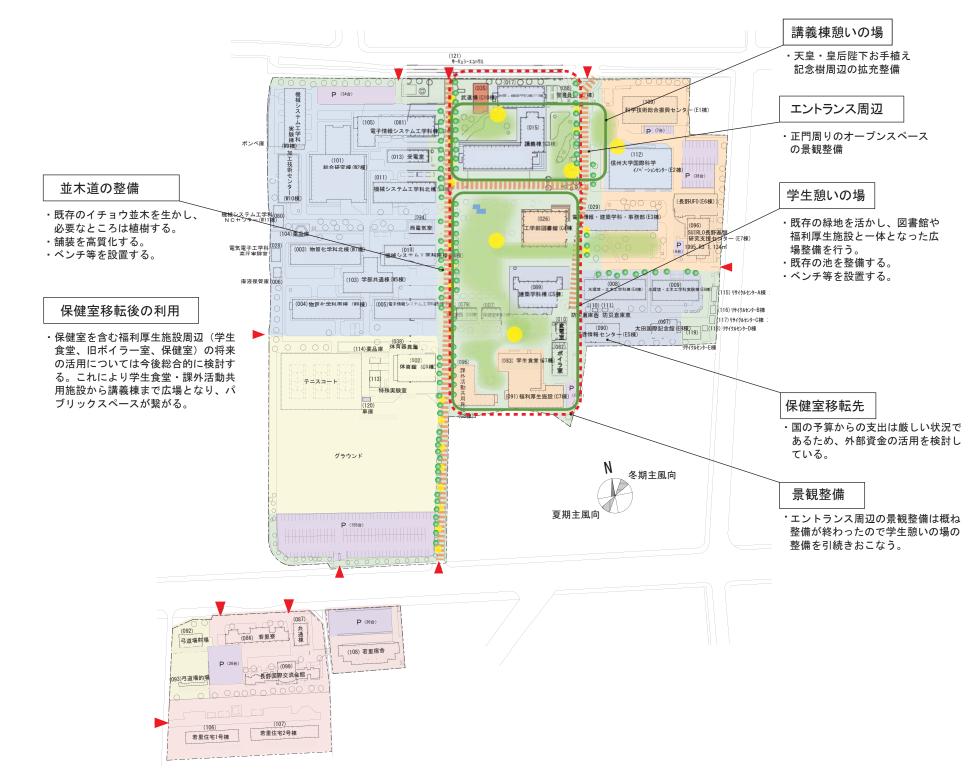
個々の建物が一定の間隔を保ち敷地全体に広がって建っており、そ の間を埋めるように緑化しているが学生の憩いの場は十分でない。一 方、イチョウ並木や桜や藤棚など季節ごとに楽しめる樹木や広場もあ るが、若里公園からつづくケヤキ並木との連続性や、正門からメイン となる広場への誘導が不十分である。よって地域住民にも親しまれる 豊かな外部空間とするには外部からのアクセスのしやすさ、わかりや すさが必要である。

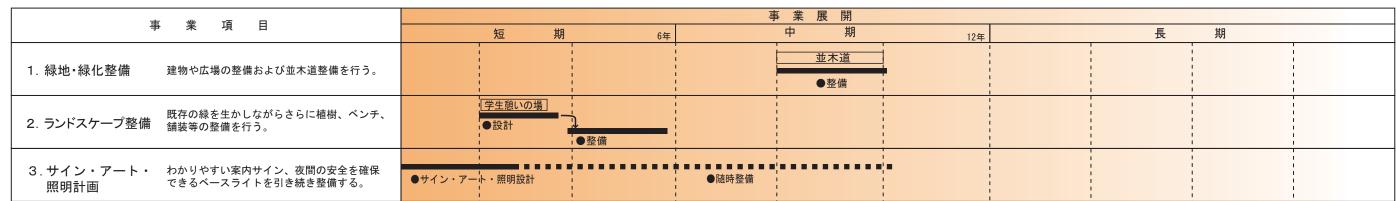
#### ■方針

地域とキャンパスとの視覚的繋がりを考慮し、若里公園からのケヤ キ並木から続く散策路としてイチョウ並木を整備する。そして、学生 が憩い安らげる空間として、講義棟憩いの場から福利厚生施設周辺の キャンパス中央部を「学生憩いの場」とし、潤いある充実したオープ ンスペースを確保する。また、引き続き正面ゲートからのメインファ サードをキャンパス中央部へ向かって整備する。









3. 長野(工学)キャンパスマスタープラン

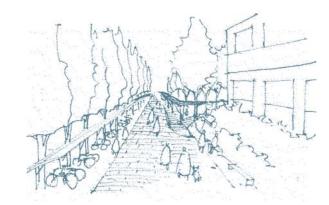
### 緑地•緑化整備

-パブリックスペースの計画ディテール-

#### ■方針

既存のイチョウ並木を生かして必要なところに植樹し、キャンパスのシンボルとして整備する。また、地 域の人も通り抜けられる気持ちの良い散策路として景観に適した舗装を整備し、アメニティの高い歩行空間 とする。





現状

整備イメージ

# ランドスケープ整備

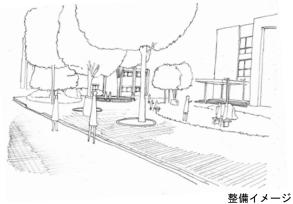
-パブリックスペースの計画ディテール-

#### ■方針

既存の植栽(緑)を活かし周辺の建物が安らぎの景観として、正門からキャンパス中央部にかけて一体と なった広場として整備する。

#### ●エントランスとしての広場





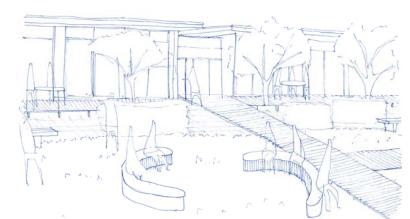
# ランドスケープ整備

-パブリックスペースの計画ディテール-

#### ●学生憩いの中庭

中庭を整備し学生、教職員、地域の方々の憩いの場として開放する。





整備イメージ

#### 〇広域的な緑のネットワーク



#### 5 設備・インフラ 6 コミュニティ

# 3-3-4 交通・動線の計画

#### ■現状と課題

学部運営に必要な車両を優先して駐車可能な計画を検討する。ま た、学生・教職員に対して駐輪スペースが不足している為、建物周 辺に放置する自転車が多く、景観悪化の原因となっているため対策 が必要である。

外来からの車が多く駐車場は余裕が無いがスペースも確保できない ので、運用で対応する方針が必要である。

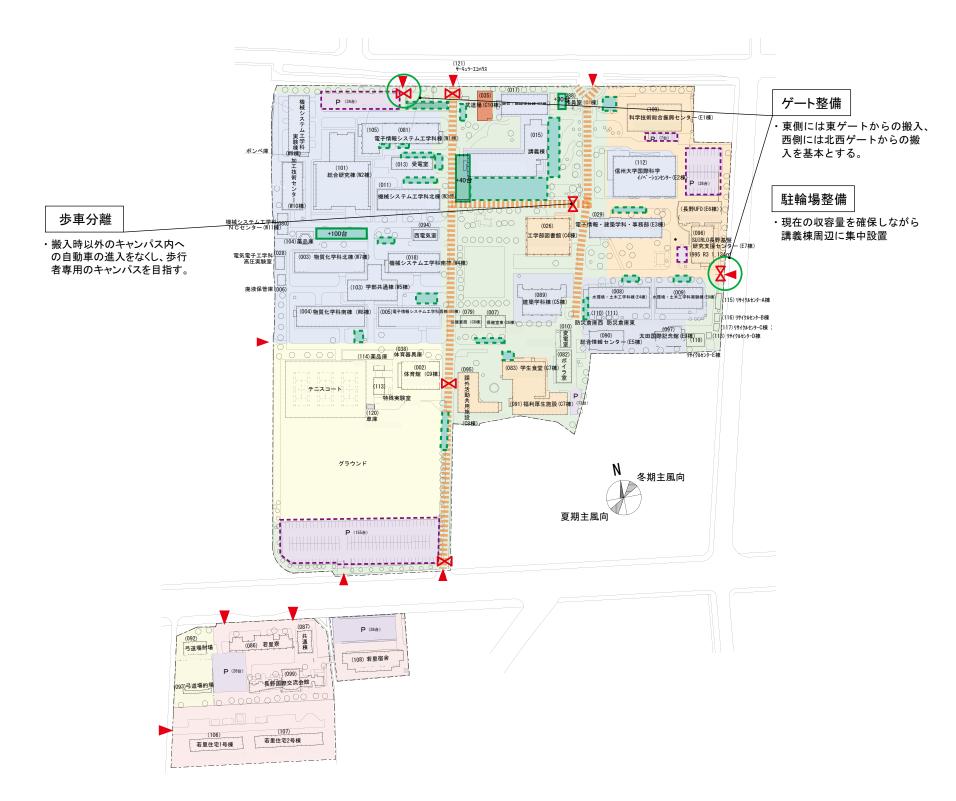
#### ■方針

原則としてキャンパス内は、車・自転車利用者のマナー向上と景 観的配慮をしながら、歩行者の安全性と快適性を確保する。また、 自転車は駐輪場を増設し、学生が歩いて楽しめるウォーカブルなキャ ンパスを構想していく。

	整備前	整備後	
駐車場	238 台	238 台	
駐輪場	1030 台	1200 台	







声 ** 15 P		事業展開										
	事業項目		短	期	6年		中	期	12年	長	期	
1. 駐輪場整備	現在の収容量を確保しながら、講義棟周辺に駐輪場を集中設置する。 また、不正駐輪を予防するため利用者登録制とし有料シールの導入 などを検討し、適正数を維持する。	●駐輪場整備		1			1					
2. 歩車分離 (車侵入ゾーンの明確化)	搬入時以外のキャンパス内への自動車の進入をなくし、歩行者専用の キャンパスを目指す。	●検討·実施	 					• • • •				
3. ゲート整備	大型車両の進入に配慮しつつ北側のゲート門構えを整備する。全体で 徐々にゲートバー、車止めの機械化を進めていく。	●東側ゲート整備	1		●ゲートバー、車山	めの機械化整備						

# 駐輪場整備

3. 長野(工学) キャンパスマスタープラン

一交通・動線の計画ディテールー

#### ■方針

現在の収容量を確保しながら、講義棟周辺に駐輪場を集中設置する。また、放置自転車を減らすため利用 者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数を維持する。



駐輪場

# 2 車歩分離(車進入ゾーンの明確化)

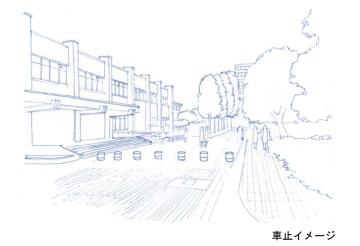
一交通・動線の計画ディテールー

#### ■方針

歩車分離のキャンパスを目指す。車止によって車の進入ゾーンと歩行者専用ゾーンを明確化し、利用者に とって安全な計画を行う。



現状 (図書館前)



# 3 ゲート整備

一交通の計画ディテールー

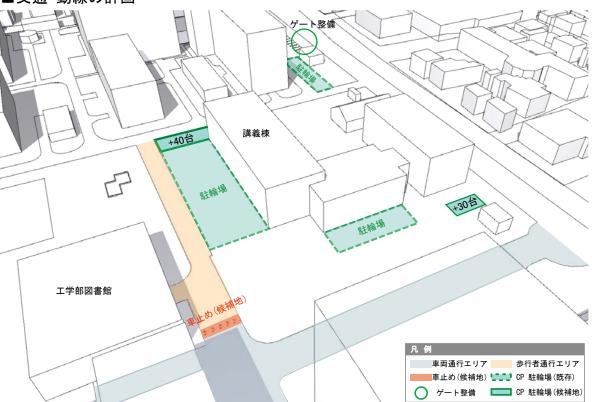
#### ■方針

歩行者専用のキャンパス作り促進のため、北側駐車場への車両導線を最短にする。



ゲート整備のイメージ

# ■交通・動線の計画



#### 1 全体骨格 2 施設配置・計画 3 パブリックスペース 4 交通・動線 5 設備・インフラ 6 コミュニティ

## 3-3-5 設備・インフラストラクチャーの計画

#### ■現状と課題

学部・大学院定員増や外国人研究員の増により既存の設備では足りない設備を確認・検討しながら教育研究活動に支 障をきたさない整備・維持管理が必要である。

- [電 気 設 備] 1回線高圧受電方式で、北西にある受配電室に引き込み、幹線溝を利用して各棟へ配電してい る。信州大学国際科学イノベーションセンターが新築され、工学部の研究活動がさらに活発に なっていることから電気設備の重要性が増し、さらなる安定供給が求められている。
- 市水本管より供給を受け、低層建物は直結給水方式、高層建物では高置水槽方式により各建物 「給水設備] に給水される。地下水を利用した設備や雨水を中水として利用出来る建物も整備され持続的発 展ができるキャンパス整備がすすんでいるが、幹線は災害に強いとは言えない。
- [排 水 設 備] 雨水系・生活系・実験系の3系統分流式。雨水系は地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実 験系は公共下水道へ放流。尚、実験排水は建物単位でPH濃度をモニタリングしている。更新の 際は利用者の影響が少ないライニング工法の検討も視野に入れる。生活系と実験系が混在して いる為、改善を検討する
- [ガ ス 設 備] 都市ガス(13A)を3箇所より引き込み、土中埋設配管にて各建物に供給している。
- 「空調設備] GHPやEHPの整備がすすみボイラー運転の効率が落ちてきたことからボイラーを廃止した。建物 についてはガスヒートポンプによる個別空調が主体だが、信州大学国際科学イノベーションセ ンターは地下水を利用した空調システムとなっている。耐用運転時間を超えた空調設備が増え 故障も多くなってきた。
- 「廃棄物」 リサイクルセンター移動にともない分別を見直し、リサイクル化を推進した。実験系廃棄物は 容器に分別回収し、業者に委託して処理している。
- [通信・情報設備] DX(デジタルトランスフォーメーション)化社会へ向けてますます重要性や信頼性が必要にな り対応しているものの、加速度的に進む情報化社会へのさらなる対応が必要になっている。

#### ■方針

#### 1. 省エネルギー化・カーボンニュートラル推進

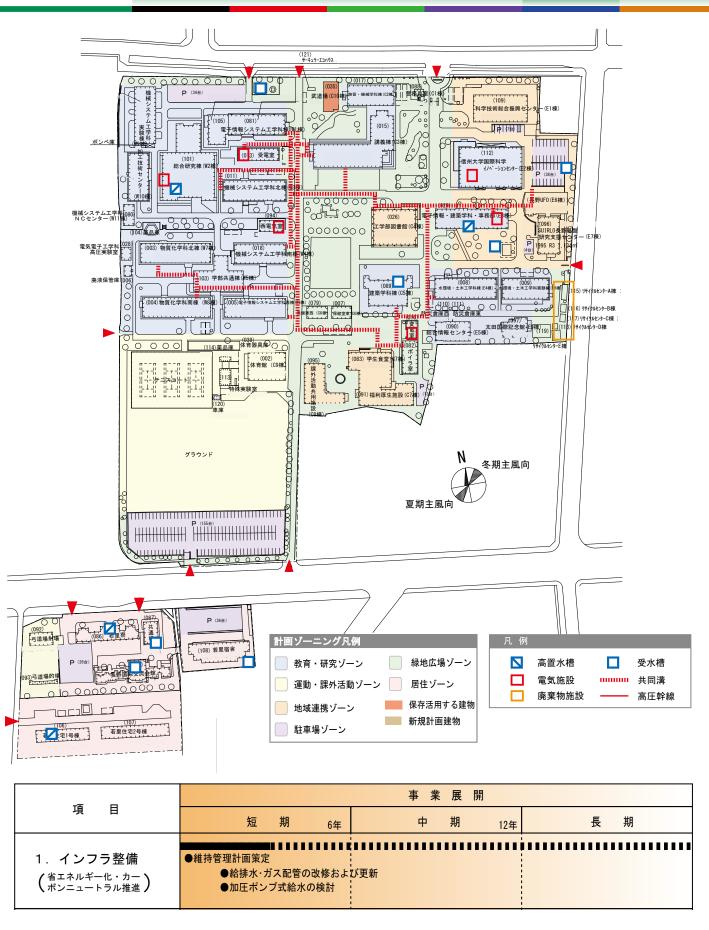
教育研究活動や地域連携を進めていく上でエネルギー消費が増大する傾向にあるが、設備機器の耐用年数を鑑 み先進的な設備の導入も比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理 計画の策定を進めていく。また寒冷地であることを考慮し、年間の一次エネルギー消費量の少ない設備の導入を 進めていく。また、カーボンニュートラルに向けた取り組みとして、新築・大規模改修に関わらず、原則ZEB Oriented相当以上の省エネルギー消費性能の実現可能性を検討する。

#### 2. 既存設備の有効活用

既存施設の有効活用を積極的におこなうため、アクティブ・ラーニングスペースのような活用方法を検討する。 併せて維持管理費用を圧迫しないよう予防保全に努める。

#### 3. 循環型社会への取り組み

長寿命化を念頭に環境負荷の低い持続的発展が期待できるキャンパス整備を計画する。その際に地域の避難場 所としての性格も併せ持つ為、安心安全な防災機能にも配慮したものとする。



#### 6 コミュニティ

# 3-3-6 コミュニティ(地域・学生・教職員の交流)の計画

#### ■現状と課題

産学官及び地域連携施設がキャンパスの東側にあり、大学の枠を越えた研究活動の場であ り、キャンパスの南北を貫通する道路は近隣住民の生活路としても往来は多く、様々なステー クホルダーが交流するエリアとなっている。長野国際交流会館は、留学生や日本人学生の交流 の場として活用され、外国人留学生や短期滞在研究者も多く交流スペースが不足している為、 職員宿舎を国際交流専用の短期宿泊施設として改修、既存施設を活用している。図書館は学生 の利便性のために24時間開館の対応を行っているが、安全面など十分な対応が出来ていない。

#### ■方針

既存の施設を活用しつつ、交流を促進するような運用方法を今後も継続して検討していく。 併せて学生の社会活動への参画を促すような地域交流を図る。福利厚生施設再開発と連動した 改修計画とし、既存の資産を活用する。



	_	業 項 目	事業展開						
	<del>事</del>	<del>短期<sub>6年</sub>中期<sub>12年</sub> 長期</del>							
1. 交流施設の計画・運営への 教育研究支援施設の整備・拡充または、3 の改修は計画段階から各学科の学生が教 キャンパスを学生主体で作っていく。		の改修は計画段階から各学科の学生が参加し、 キャンパスを学生主体で作っていく。	●検討・実施						
		地域交流ゾーンを主とし図書館、福利施設、運動							
2.	施設の地域開放促進	地域交流プープを主とし図書館、福利施設、運動施設の利用を促進をする。	●検討・実施						

#### 施設の地域開放促進

-コミュニティの計画ディテール-

#### ■方針

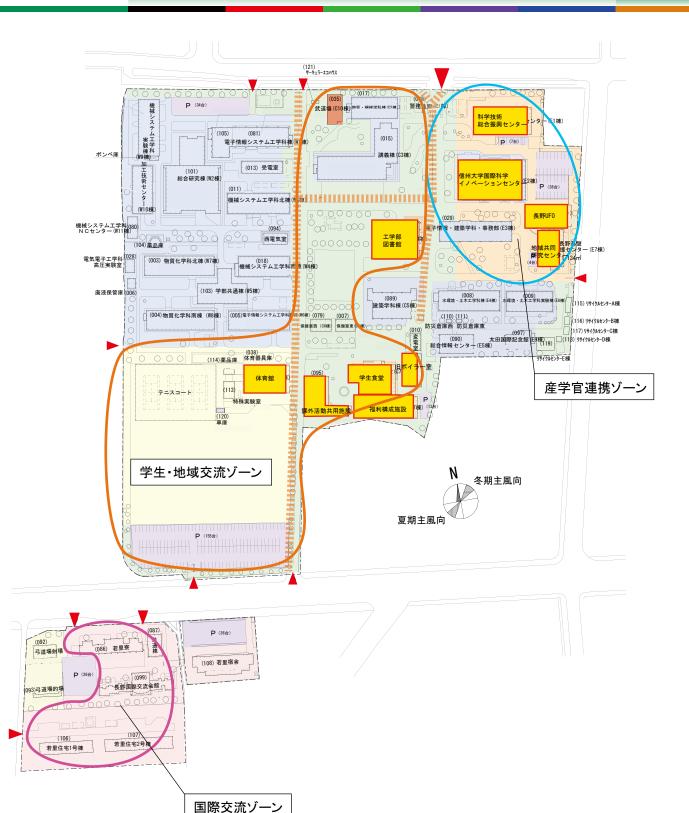
キャンパス内の施設を地域に開放し、多くの人が利用できるようにする。

#### ●既存施設(運動施設·図書館·福利施設)

教職学協働に配慮しながら、トータル的な施設運営管理や柔軟なソフト 展開も検討する。



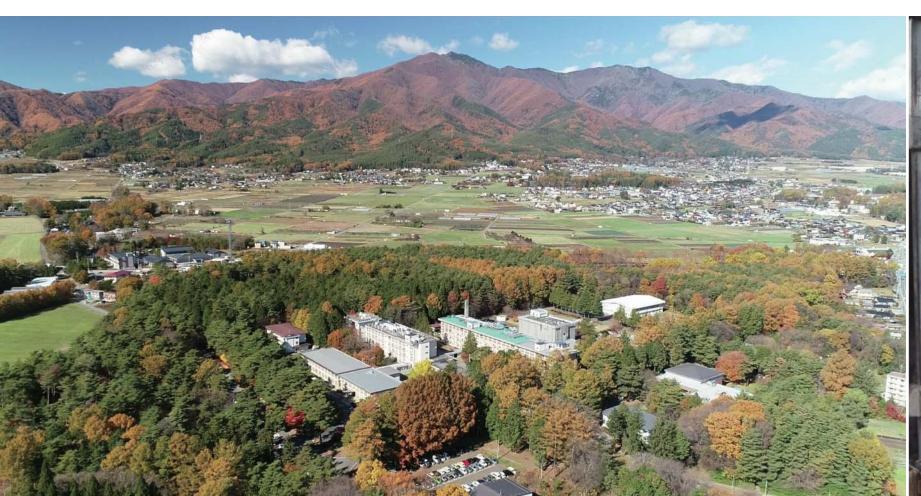
体育館





# 信州大学キャンパスマスタープラン Shinshu University Campus Master Plan 2023

D. 伊那キャンパス ~自然と共に食と緑を創造する場~





目 次

# キャンパスマスタープランについて

	1 一 1.目的	
	1 一 2 . 基本方針	
	1-3. 位置づけ	
	1-4. キャンパスの全体像	
	1-5. 各キャンパス共通事項 4	
D.	伊那キャンパス	
	2. 現状分析	
	2-1. 配置図・現状写真・問題点 D-	1
	2-2. ディベロップメントプラン D-	1
	3. 伊那キャンパスマスタープラン	
	3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針 D-	2
	3 - 2. 整備方針と戦略 ····· D-	3
	3-3.カテゴリー別計画	
	3-3-1. 全体骨格・フレームワーク D-	4
	3-3-2. 施設配置・計画	5
	(1) 施設環境マネジメント (2) キャンパス資源の整備 (3) デザインガイドライ	ン
	(4) 環境・サステイナビリティ	
	3-3-3. パブリックスペースの計画 ······ D-	7
	(1)緑地・緑化整備 (2)ランドスケープ (3)サイン・アート・照明計画	
	(4) 災害・安全衛生 (5) ユニバーサルデザイン	
	3-3-4. 交通・動線の計画 ····· D-	9
	(1)歩行者優先の整備 (2)駐車場整備 (3)駐輪場計画 (4)動線計画	

	3-3-5. 設備・インフラストラクチャーの計画	D-11
	(1)インフラ整備 (2)廃棄物処理	
	3-3-6.コミュニティ(地域・学生・教職員の交流)の計画	D-12
	(1) 交流施設の計画・運営 (2) 施設の地域開放促進	
3 – 4.	附属施設の計画	D-13

2.現状分析



計画道路を含む周辺自治体の広域計画との整合性を検討する必要がある。

3. 伊那キャンパスマスタープラン D. 伊那キャンパス

### 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学伊那キャンパスは、大学の理念及び農学部の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず整備方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、環境・インフラ、コミュニティというカテゴリーに分類整理する。全体骨格を除いたカテゴリーについては、地域連携自治体や共同研究企業等の協力を得つつ、産学官の共働のもと、検討・実施することを視野に、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

#### ■農学部の理念・目標

#### (理 念)

信州の豊かな自然と風土のもとで、食料・環境・生命を支える学問を展開し、科学性、実践性、倫理性の高い教育と研究を行う。自然と人が共生する持続的社会の創造を目指し、広い視野と課題探求能力を備えた人材を養成する。

#### (目標)

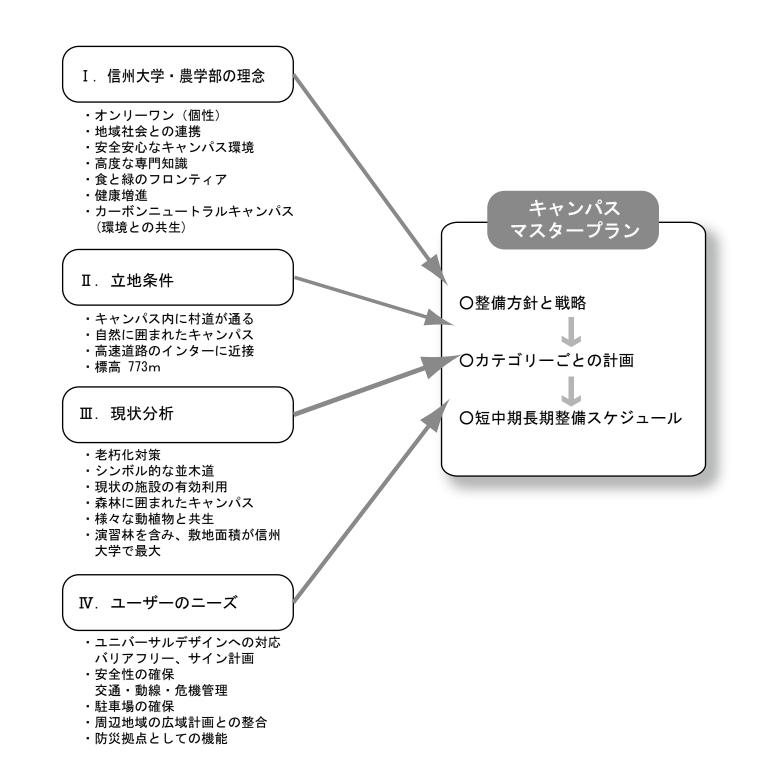
- 1. 変化する社会に適応した知的創造に貢献する
- 2. 食と緑のフロンティアを切り拓き、人間生活の質的向上と健康で豊かな社会の創造に貢献する
- 3. 人間性あふれた創造力豊かな人材を養成する
- 4. 開かれた大学として幅広い連携を進め、社会に貢献する

#### (教育理念)

自然豊かな環境のもとで、豊かな人間性と幅広い教養を築き、農学に関する広い知識・技術を涵養して、専門的な知識や研究能力を養成する。さらに、地球的な広い視野と現実的な視点に立って問題をとらえ解決する能力を持つ人材を育成する。

#### (教育目標)

- 1. 持続的社会の創造に貢献する人間性豊かな人材の育成
- 2. 社会の一員としての問題意識の醸成と実践性、倫理性、 国際性を備えた人材の育成
- 3. 農学分野の基礎能力と応用能力を持つ人材の養成
- 4. フィールド研究と実験研究が連携する教育の実践



3-2. 整備方針と戦略 ~自然と共に食と緑を創造する場~ <恵まれた自然環境での安全・安心な活力ある教育・研究拠点の整備・創出>キャンパスの整備方針とその戦略を下表にまとめる。

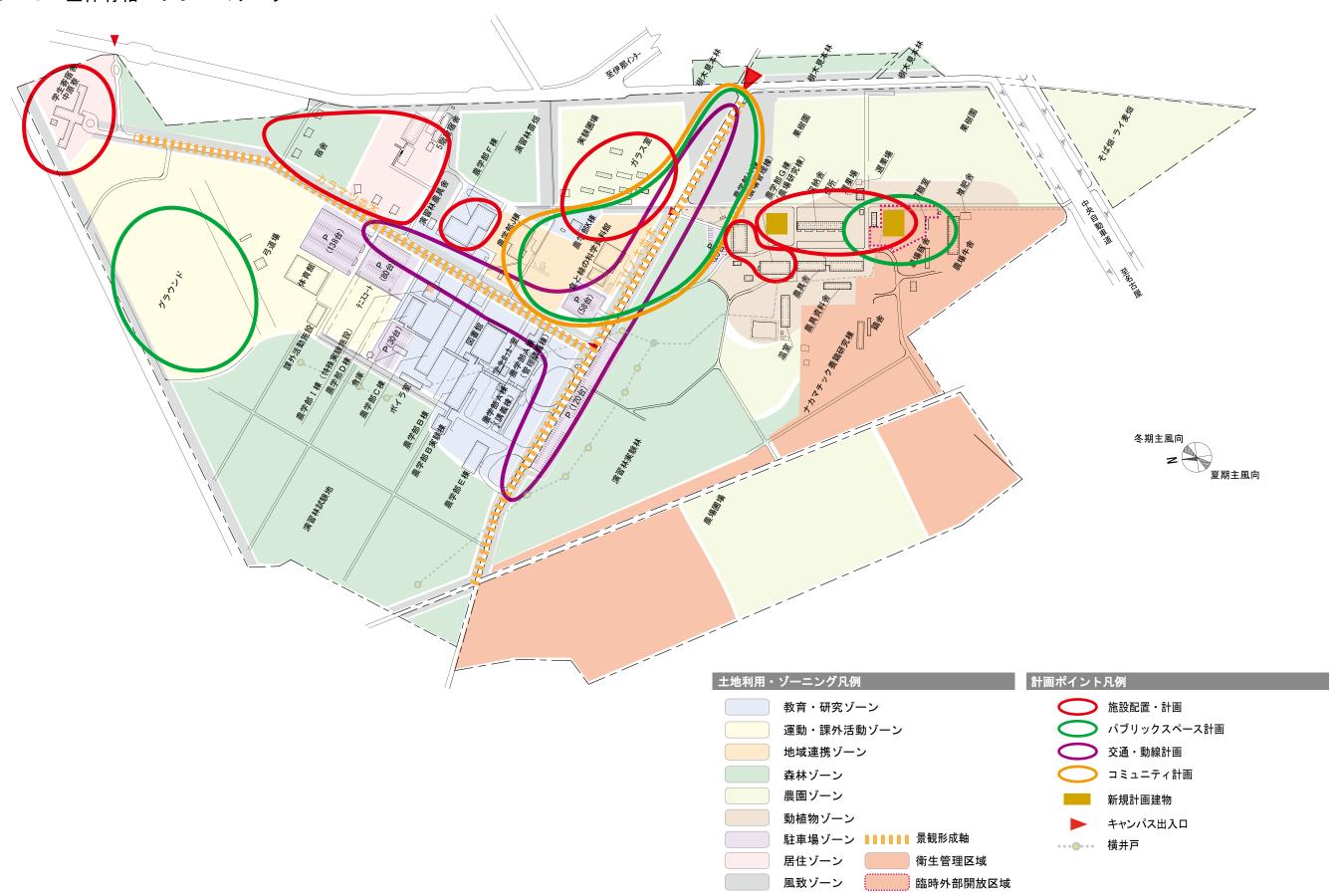
	整 備 方 針	戦略	カテゴリー
<b>1</b> キャンパス アイデンティティー	【豊かな自然を生かす】 ・良好な実験・観察フィールドの持続と生態系の保全・農場、演習林の適切な利用 【教育研究が育む農林産物の利活用】 ・農林産物の販売	・実験・観察フィールド資料の公開・施設の充実 ・実験・観察フィールドの解説案内整備 ・農林産物産品の開発研究・販売	施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備 施設配置・計画(3)デザインガイドライン パブリックスペース(3)サイン・アート コミュニティ(1)交流施設の計画・運営 コミュニティ(2)施設の地域開放
アメニティを高める 現状資産の活用	【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 ・農学部のシンボル「ユリノキ並木」と「カラマツ並木」 ・学生研究施設と地域開放エリア 【ニーズに対応した施設利用】 ・学生、教職員の交流スペース ・教育研究環境の充実 ・駐車場、駐輪場動線の見直し 【老朽化対策】・正門位置の見直し ・建物の安全性の確保 【森林資源・運動施設の活用】 ・学生及び地域の自然・農林学習空間、運動施設の市民開放	- 機能功差 老打功差	施設配置・計画(1)施設環境マネジメント 施設配置・計画(3)デザインガイドライン パブリックスペース(1)緑地・緑化整備 パブリックスペース(2)ランドスケープ整備 交通・動線(1)歩行者優先の整備 交通・動線(2)駐車場整備 インフラ(1)インフラ整備 コミュニティ(1)交流施設の計画・運営 コミュニティ(2)施設の地域開放
3 地域社会との連携	【「知財・人財・資財」の共有、発展】 ・産学官連携施設(資料館、研修空間の提供) 【地域住民との共生】 ・自然資源、施設の地域開放 ・広域地域との整合	・企業と連携した農林産物の研究、販売 ・図書館、福利施設等の地域開放 ・アクセス機能の向上 ・防災拠点としての機能向上 ・伊那市産学官連携拠点施設の利用 ・イノベーションコモンズ(共創拠点)の整備	<ul> <li>施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備 パブリックスペース(1)緑地・緑化整備 パブリックスペース(4)災害・安全衛生 交通・動線(4)動線計画 コミュニティ(1)交流施設の計画・運営 コミュニティ(2)施設の地域開放</li> </ul>
4 参加型キャンパス	【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 ・学生、教職員が参加した点検評価 ・ソフト事業への学生参加	・定期的な点検評価のシステム、組織づくり・農産物加工販売所の計画運営への学生の参加	<ul><li>─ 施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li><li>─ コミュニティ(1)交流施設の計画・運営</li></ul>
5 サスティナビリティ	【地域の風土の反映】 ・地場産材の使用や地域産業との連携 【カーボンニュートラルキャンパス】 ・省エネ、CO2削減 【循環型社会への取り組み】 ・ゴミ削減、リサイクル、リユース	・県産材(信州から松・土・わらすさ・和紙など)の使用 ・維持管理計画の策定 ・景観に配慮したゴミ置き場の整備	施設配置・計画(3)デザインガイドライン 施設配置・計画(4)環境・サステイナビリティ パブリックスペース(2)ランドスケープ整備 インフラ(2)廃棄物処理
6 ユニバーサルデザイン	【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 ・誰もが使いやすい 【わかりやすいキャンパス】 ・迷わない案内	・バリアフリー化計画 ・ユニバーサルデザイン(デザインガイドラインの策定) ・サイン計画	施設配置・計画 (3) デザインガイドライン パブリックスペース (3) サイン・アート パブリックスペース (5) ユニバーサルデザイン
<b>ア</b> 安全・安心なキャンパス	【安全な歩行空間】 ・人と車と自転車の動線の分離 【防犯、危機管理】 ・夜間の安全性	・交通計画、駐車場計画、駐輪場計画 ・照明計画 ・廃棄物計画	<ul><li> パブリックスペース(3)照明計画</li><li> 交通(3)駐輪場整備</li><li> 交通(2)駐車場整備</li><li> インフラ(1)インフラ整備</li><li> インフラ(2)廃棄物処理</li></ul>

3. 伊那キャンパスマスタープラン

1 全体骨格 2 施設配置・計画 3 パブリックスペース 4 交通・動線 5 設備・インフラ 6 コミュニティ

# 3-3 カテゴリー別計画

# 3-3-1 全体骨格・フレームワーク



# 3-3-2 施設配置・計画

#### ■現状と課題

3. 伊那キャンパスマスタープラン

伊那キャンパスは広大な敷地を有し、緩やかな起伏をもつ地形 に沿って施設が建てられており、各棟が渡り廊下で繋がれてい る。農場を含むキャンパス内には学生寄宿舎、職員宿舎、温室 群、農場関連施設群などの老朽化が進んでおり、改修等の対応 が必要である。

#### ■方針

土地利用・ゾーニング凡例

教育・研究ゾーン

地域連携ゾーン

森林ゾーン

農園ゾーン

動植物ゾーン

運動・課外活動ゾーン

学生が安全快適に学校生活を送れるように内外装のリニューア ルを行い、老朽化を改善する。全体として自然環境に配慮したデ ザインとし、ユニバーサルデザインを推進する。建物改修・新設 の際は、一部にレンガまたは自然に調和する木、レンガのような ナチュラルな色合いを採用し、キャンパス全体として調和のとれ た景観を形成する。

駐車場ゾーン

風致ゾーン

外部開放区域

▋▋▋景観形成軸

居住ゾーン

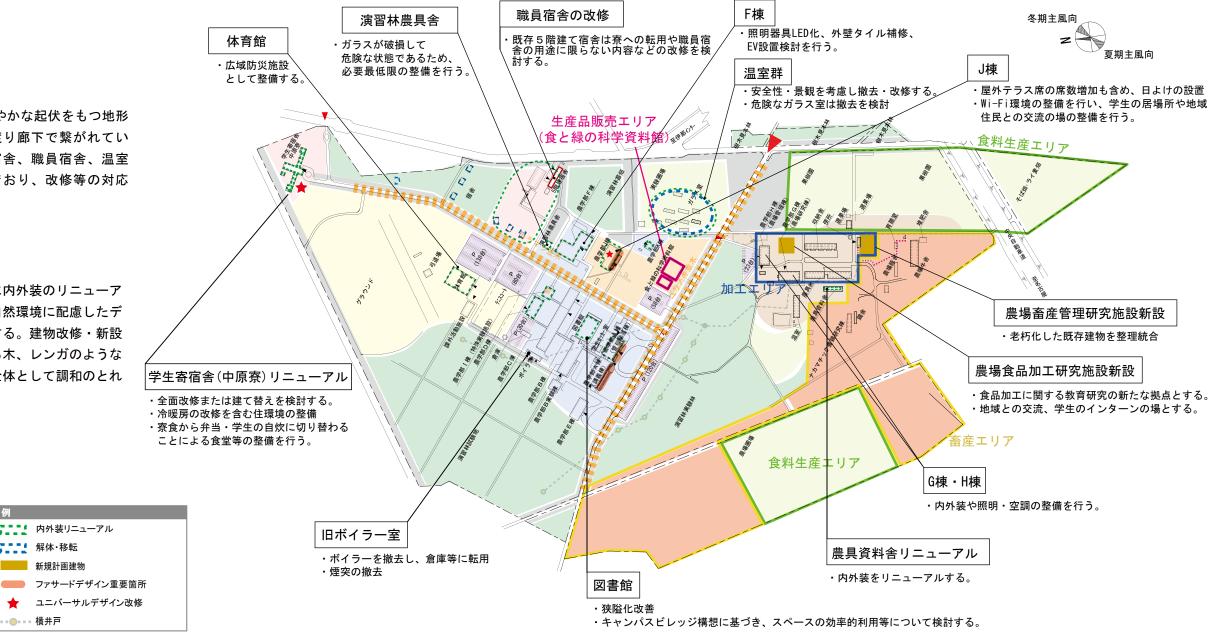
衛生管理区域

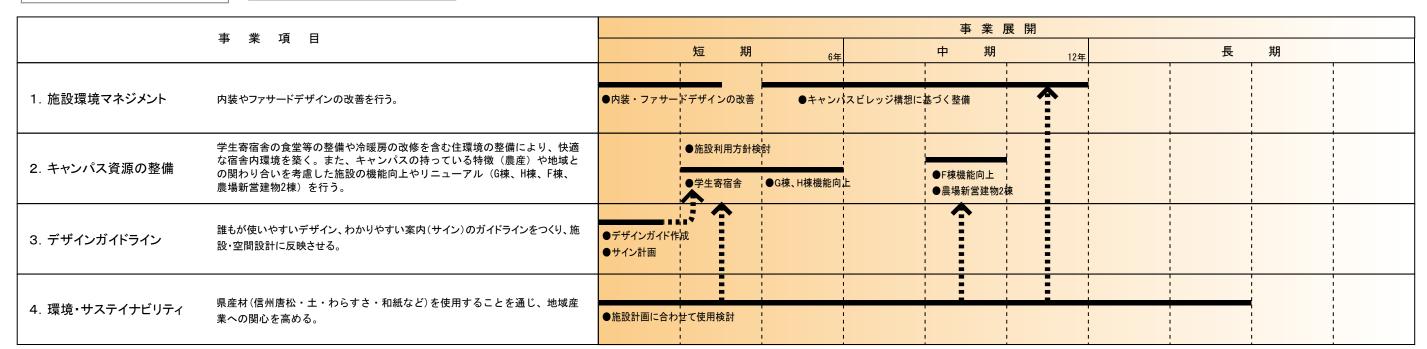
内外装リニューアル

解体·移転

---@--- 横井戸

新規計画建物





#### Ⅰ |施設環境マネジメント

一施設配置・計画ディテールー

#### ■方針

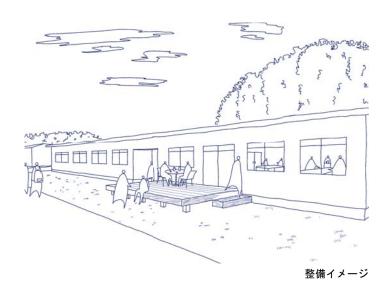
教員・学生が安全快適に教育研究活動を送れるように、内外装のリニューアルを行う。また、単純な老朽 化改善に終わらせることなくデザイン性を兼ね備えた整備を行う。

#### ●G・H棟

老朽化建物として、改修を行う。HACCP (ハサップ)対応を実施し、食品加工教育研究における地域との共創の場として整備を実施する。







#### SUIN (WIA)

#### ●学生寄宿舎(中原寮)

寮食の提供終了に伴い、弁当と学生の自炊に切り替わるため、変更に合わせた食堂・厨房の整備を行う。 空調設備や給湯設備の改修を合わせて行うことで、住環境のリニューアル・整備を進める。



現状 (中原寮)



## キャンパス資源の整備

一施設配置・計画ディテールー

#### ■方針

豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設、地域の人も利用できる交流施設など、 既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。建物改修・新設の際は、一部 にレンガまたはレンガ色を採用し、キャンパス全体として調和のとれた景観を形成する。

#### ●J棟(福利施設)屋外テラス

屋外テラス席の席数増加も含め、日よけの設置を検討する。キャンパスビレッジ構想に基づき、Wi-Fi環境の整備も行い、学生の居場所や地域住民との交流の場の整備を目的とする。



現状(J棟屋外テラス)

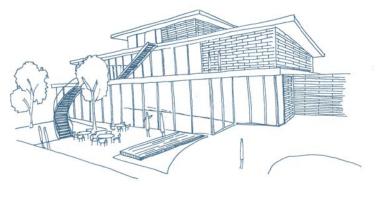


#### ●農場食品加工研究施設

食品加工に関する教育研究の新たな拠点とし、地域との交流・学生のインターン実習の現場として活用する。



現状



整備イメージ

#### 3. 伊那キャンパスマスタープラン

# 3-3-3 パブリックスペースの計画

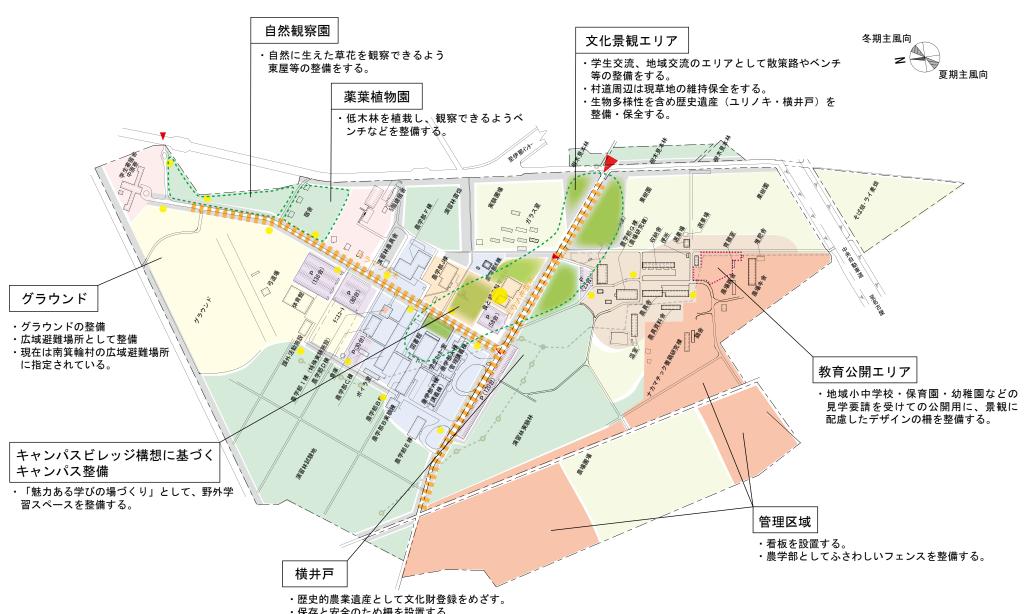
#### ■現状と課題

本キャンパスは豊かな自然環境を有している。その一方、福利 施設(学食)前および食と緑の科学資料館を含むカラマツ並木の 東側は、充分な整備が行われておらず、平屋の宿舎の整備を含め 両施設をつなぎスムーズな往来ができるような空間整備を実施す る必要がある。村道脇に隣接されている農場は、数種類の家畜が 飼育され地域への公開も行われているが、外灯やサインは充分に 整備されておらず、夜間の安全性にも問題がある。

#### ■方針

カラマツ並木東側のゾーンとさらに村道周辺をつなぐよう散策 路整備等を行うことで、学生や周辺住民がゆっくりとくつろげる 外部空間とする。また、衛生管理に配慮しながら地域の児童等へ の見学のための施設を整備する。照明については、動植物の生育 に問題ないよう計画する。





			・保仔と	安全のため柵を設	<b>対直りる。</b>							
	- * * - D		事業展開									
事 業 項 目 		短期		6年		中 期	12年	12年		長期		
1. 緑地・緑化整備	文化景観エリアを学生交流・地域交流のエリアとして開放できるよう整備する。		<b>│</b> ●環境整備									
2. ランドスケープ	ユリノキ並木やカラマツ並木をキャンパスのシンボルロードとして 整備し、他の沿道の風致ゾーンも自然景観の保全に努める。		風致ゾーン及びコ	ロリノキ並木等保全 ロリノキ・ボー								
3. ・照明計画	外来者にわかりやすくトータルデザインされた広場案内サインを整備する。 主な道には夜間の安全を確保できるようにベースライトを整備する。 照明については、動植物の生育に問題ないよう計画する。	●サイン計画		●随時整備								
		●照明設割	+	●随時整備	i			į	i			
4.災害・安全衛生	グラウンドを近隣地域のための広域避難場所として整備する。 管理区域内のサインの充実(安全衛生)、フェンスの設置を行う。	●近隣市町村と調	b b 定	●随時整備(看	版、フェンスの設置)							
5. ユニバーサルデザイン	誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内、敷地内の段差解消などのガイド ラインをつくり、空間設計に反映させる。また、並木の案内板を整備する。	●デザインガイド作	成									

# 緑地•緑化整備

-パブリックスペースの計画ディテール-

#### ■方針

豊かな自然環境を維持しながら地域に開放し、自然学習やレクリエーションなど、多くの人が訪れる場となるよう計画する。広域避難場所としてグランドを整備し、文化景観エリアの整備、横井戸およびカラマツ並木、ユリノキ並木、メタセコイヤ並木の保全や整備を行う必要がある。



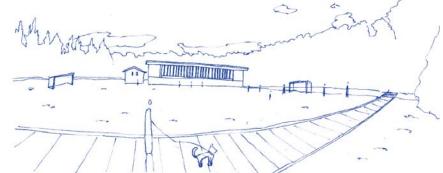
ユリノキ並木

整備イメージ

# ●グラウンド

グラウンドを整備(段差の解消など)し、広域避難場所としての機能を持たせる。





# ●文化景観エリア — 横井戸

歴史的農業遺産として登録有形文化財を目指す。また、保全や学生や地域住民の安全のために柵を設置 し、侵入者への注意喚起を行う。

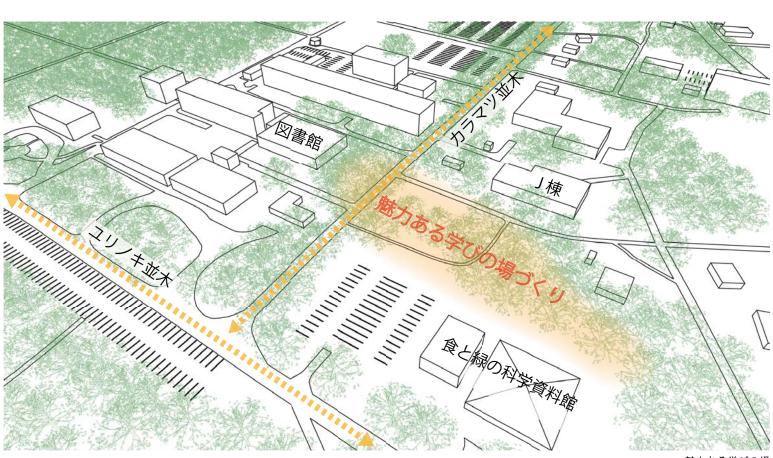


●J棟(福利施設)前の広場

「魅力ある学びの場づくり」として野外学習スペースを整備し、学生の学習の場だけではなく地域住民や小中学生も活用できるキャンパスづくりを目指す。



現状(J棟前の広場)



魅力ある学びの場

整備イメージ

D. 伊那キャンパス

# 3-3-4 交通・動線の計画

#### ■現状と課題

3. 伊那キャンパスマスタープラン

現在、敷地中央に村道(ユリノキ並木)が走り一般車両の交通量も多く、 歩行者の安全性と快適性の弊害となっている。カラマツ並木でも車の通行に より危険性が高い。安全設備とゆとりある歩行空間が必要である。また、キ ャンパス内のゴミの投棄は景観悪化の原因となっている。

更に、計画道路を含む周辺地域の広域計画との整合も必要とされている。

#### ■方針

歩行者の安全性と快適性を確保するため、集約的に整備するとともに、 カラマツ並木とキャンパス内西側道路に車止めを設ける。また、東門を現 在の宿舎付近に設け、周辺の広域計画との整合を図るとともに、体育館・ グラウンドの防災施設としての機能を高めるため、北側道路とグラウンド をつなぐ北門・通路を設置する。

	整備前	整備後	
駐車場	450 台	500 台	
駐輪場	380 台	約400 台	

計画ゾーニング凡例

地域連携ゾーン

森林ゾーン

農園ゾーン

動植物ゾーン

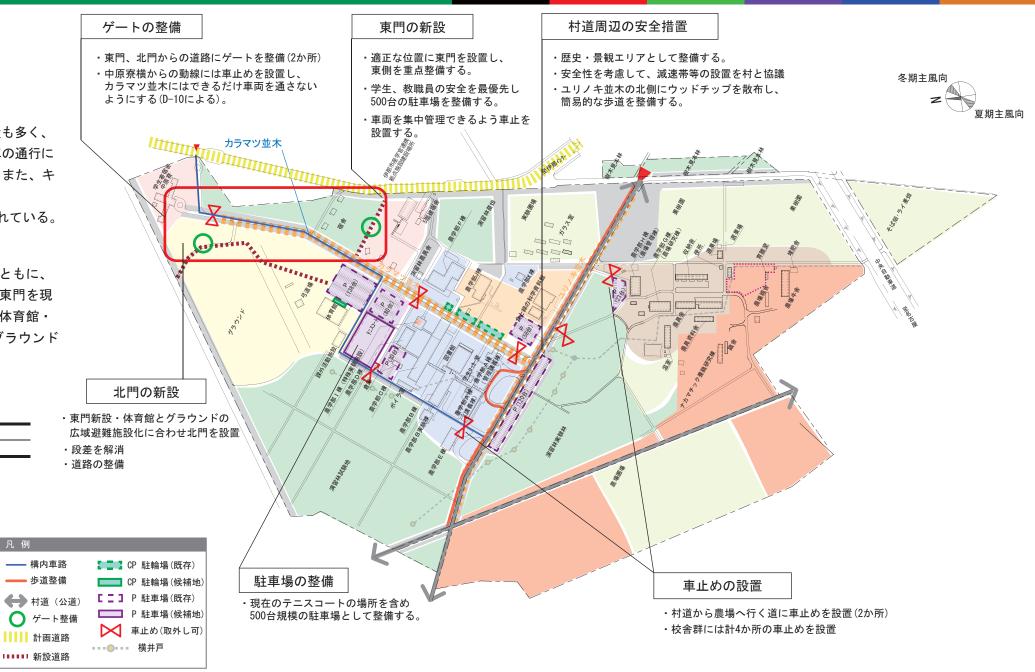
教育・研究ゾーン 駐車場ゾーン

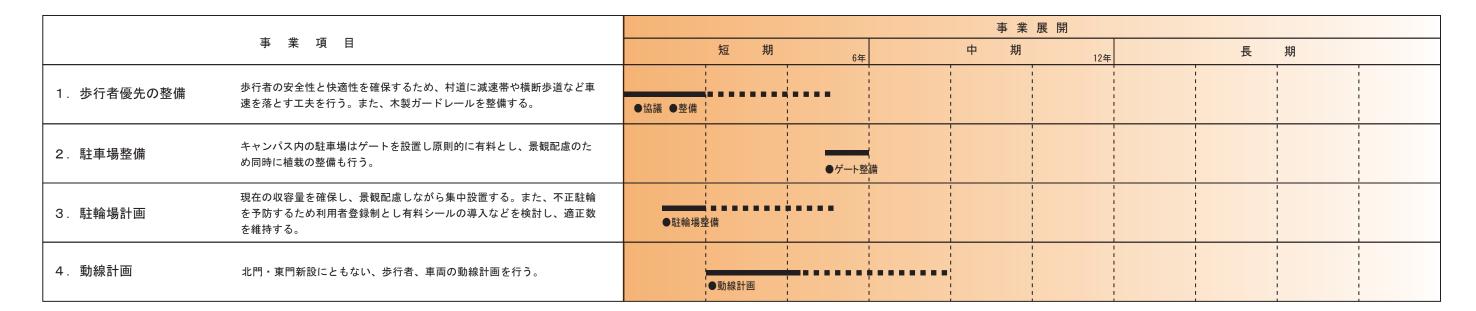
風致ゾーン

衛生管理区域

臨時外部開放区域

運動・課外活動ゾーン 🛑 居住ゾーン





# 歩行者優先の整備

一交通・動線の計画ディテールー

#### ■方針

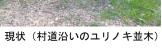
歩行者の安全確保のため、村道(ユリノキ並木)の30km/h制限を生かした車両減速措置、カラマツ並木の 一部の歩行者優先道路整備を行う。

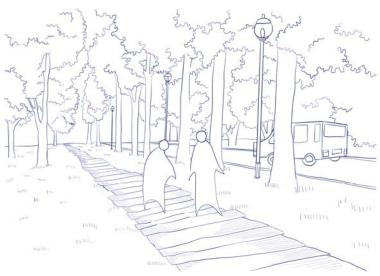
車はキャンパス内の既存の駐車場に駐車することを原則とし、有料化する。カラマツ並木は原則車両通行 禁止とし、テニスコート西側へ迂回させ、緊急自動車及び身障者対応に限るものとする。

#### ●村道沿いの安全対策

歩行者の安全性と快適性を確保するため、村道にハンプ設置やガードレールなどの整備、車速を落す工夫 を行う。これは村役場と協議し検討が必要である。歩道や街灯路の整備も並行して実施する。







整備イメージ

#### ●カラマツ並木の一部歩行者専用道路整備

カラマツ並木の一部は緊急車両等を除き車両通行禁止とする。



カラマツ並木

# 動線計画

一交通・動線の計画ディテールー

#### ■方針

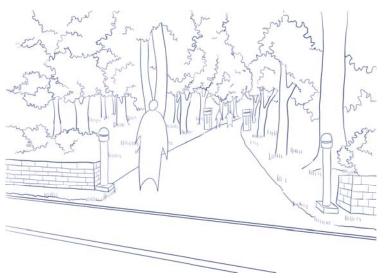
新正門を現在の宿舎付近に設け、周辺の広域計画との整合を図るとともに、体育館・グラウンドの防災施 設としての機能を高めるため、北側道路とグラウンドをつなぐ新裏門・通路を設置する。

#### ●北門

広域避難所に指定されているグラウンドの防災機能を高めるため、北門の整備及び通路の設置を検討する。



現状(グラウンド横の裏門)



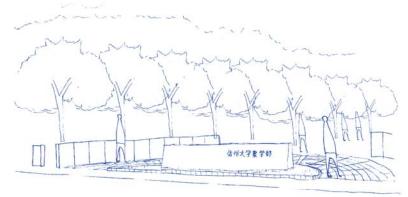
整備イメージ

#### ●東門

伊那市の産学官連携拠点施設との往来をしやすくし、利便性を高める。

北側駐車場へのアクセスをスムーズにすることでカラマツ並木の道路の車両通行量を減らし、安全性を向 上させる。





整備イメージ

# 3-3-5 設備・インフラストラクチャーの計画

#### ■現状と課題

[電 気 設 備] 1回線高圧受電方式で、共同溝及び地中埋設管路を利 用して各棟へ配電。又、農場等の地区は架空配電。

[給水設備] 市水本管より供給を受け、直結給水方式、または高 置水槽方式により各建物に給水。尚、5階建て宿舎で は、地下式水槽を利用。

雨水系・生活系・実験系の3系統分流式で地下浸透 「排 水 設 備] 及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は公共下水道 に流される。尚、実験排水は最終調整槽にてPH濃度 をモニタリングしている。

[ガ ス 設 備] 都市ガスが未整備なため、液化石油ガスのバルクタ ンクで管理し各棟へ供給。

[空調設備] GHP(ガスヒートポンプ)、EHP(電気ヒートポンプ)が 混在している。

資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイク 棄 物] ル化を推進。それ以外の一般廃物及び実験系廃棄物 は業者に委託して処理している。

#### ■方針

#### 1. 省エネルギー化

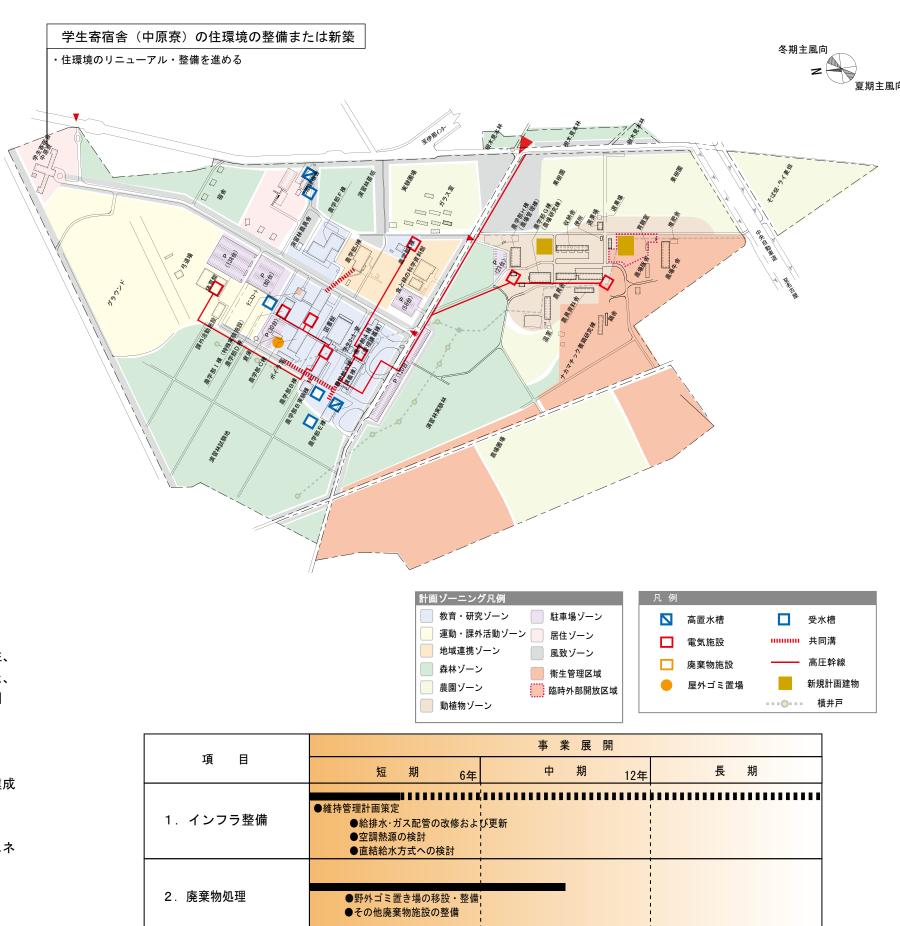
設備機器(ボイラー)の耐用年数を鑑みGHP、EHPの比較検討の上で将来性、経済性、 快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。また、 カーボンニュートラルに向けた取り組みとして、新築・大規模改修に関わらず、原則 ZEBO riented相当以上の省エネルギー消費性能の実現可能性を検討する。

# 2. 地球環境への配慮

CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、実現を目指す。省エネだけでなく 低公害の太陽エネルギーなどの創エネ(新エネルギーの供給)も組み合わせて目標達成 に努める。

#### 3. 循環型社会への取り組み

ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物(水、空気、物質)処理におけるエネ ルギー利用化を図るなどを検討し取り組んでいく。



冬期主風向

# 3-3-6 コミュニティ(地域・学生・教職員の交流)の計画

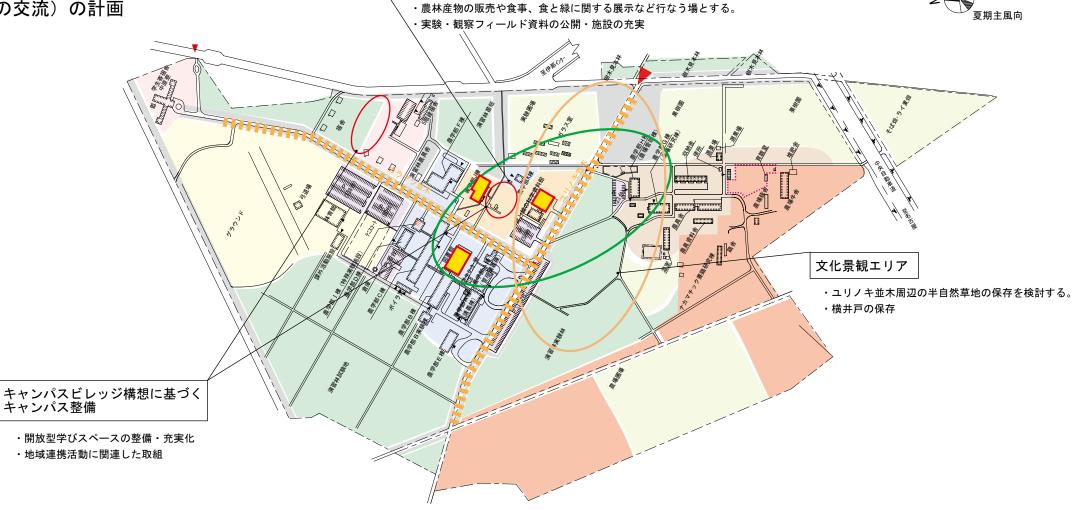
#### ■現状と課題

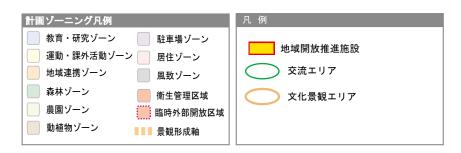
3. 伊那キャンパスマスタープラン

学生・教職員の交流の場としては福利施設が中心であり、食と 緑の科学資料館は地域交流の場としても有効であるが、施設周辺 の整備が不十分であり、文化景観エリアとの連携も望まれる。な お、資料館のソフト展開も課題として挙げられる。

#### ■方針

文化景観エリアをキャンパスと地域の接点として、緑地整備お よびベンチ、案内板などの整備を行うことにより、キャンパスの 顔としてふさわしい景観を形成する。さらにこのエリアと食と緑 の科学資料館を連携させることにより、様々な文化活動を展開で きる充実した地域交流の場となるようにする。





事業項目		事業展開
_	短期 6年 中期 12年 長期	
1. 交流施設の計画・運営	各ゾーンにおいて学生参加型の運営やNPO団体等 との連携を推進し学生や地域に積極的に開放す	
	るなど、施設・サービス等の充実を図る。	●検討·実施
	図書館・福利施設など、施設の地域開放を促進	
2. 施設の地域開放促進	図書館・備利加設なと、加設の地域用放を促進 する。	●検討·実施

# 施設の地域開放促進

-コミュニティの計画ディテール-

#### ■方針

交流エリア

農学部の施設、自然環境、研究成果など地域に積極的に開放し、その 計画運営においては学生参加型の運営やNPO団体等と連携し充実したもの にしていく。

●学生交流ゾーン・ゆとりエリア・エントランスゾーン 学生やNPO団体等の企画運営により、農学部ブランドの農産加工物を 開発販売するなどの幅広い活動を支援する。

# ●既存施設(体育館·図書館·福利施設等)

教職学協働の推進や民間企業への委託により、トータル的な施設運営 管理や柔軟なソフト展開を検討し、土日や祝日の運営等で利用者の利便 性向上をはかる。



農産物の販売



図書館

3.伊那キャンパスマスタープラン

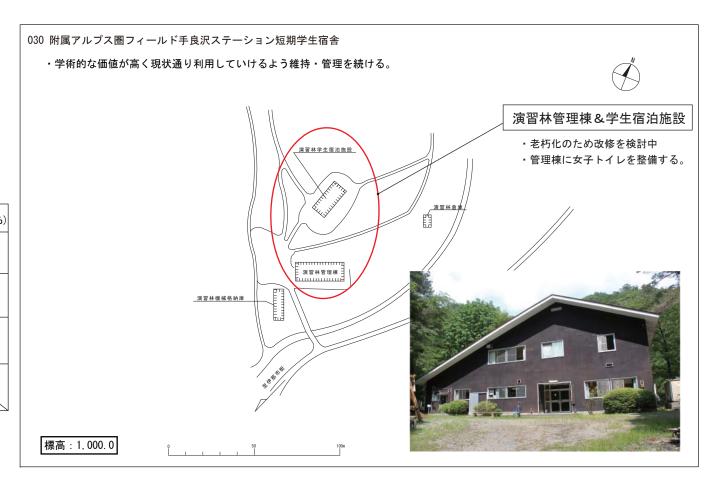
# 3-4 附属施設の計画

#### ■方針

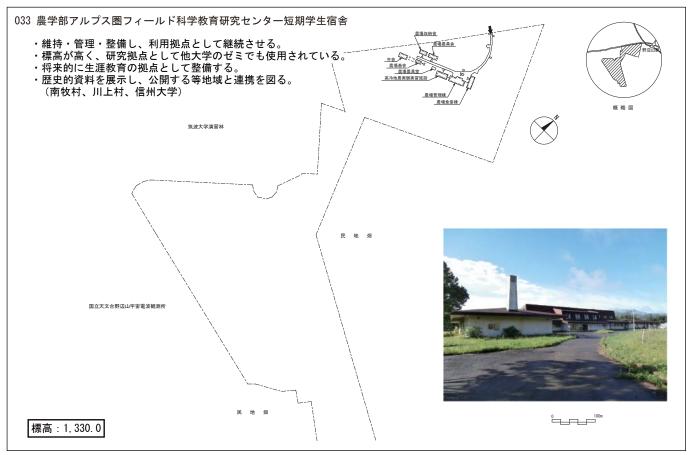
- ・施設や所在地の特性をふまえた整備、活用を進める
- ・土地の利活用を検討する

#### ■用地リスト

学部等名	団地番号	団地名	所在地	敷地面積(㎡)	建築面積(㎡)	  延べ面積(㎡)	建ぺい率 (%)	容積率(%)
附属アルプス圏フィールド 西駒ステーション短期学生宿舎	029	小黒日向	伊那市大字伊那 字小黒日向	16, 857	120	166	0. 7	1.0
附属アルプス圏フィールド 手良沢ステーション短期学生宿舎	030	手良沢山	伊那市大字手良野口字沢山 2202番12	2, 288, 356	629	745	0. 03	0. 03
農学部アルプス圏フィールド 科学教育研究センター短期学生宿舎	033	野辺山	南佐久郡南牧村大字 野辺山字ニツ山 462-1	287, 847	2, 105	2, 480	0. 7	0.9
農学部アルプス圏フィールド 科学教育研究センター	045	小黒日向 2	伊那市伊那小黒日向					









# 信州大学キャンパスマスタープラン Shinshu University Campus Master Plan 2023

E. 上田キャンパス ~ 歴史の糸で最先端を紡ぐ 創造と継承の場 ~





目 次

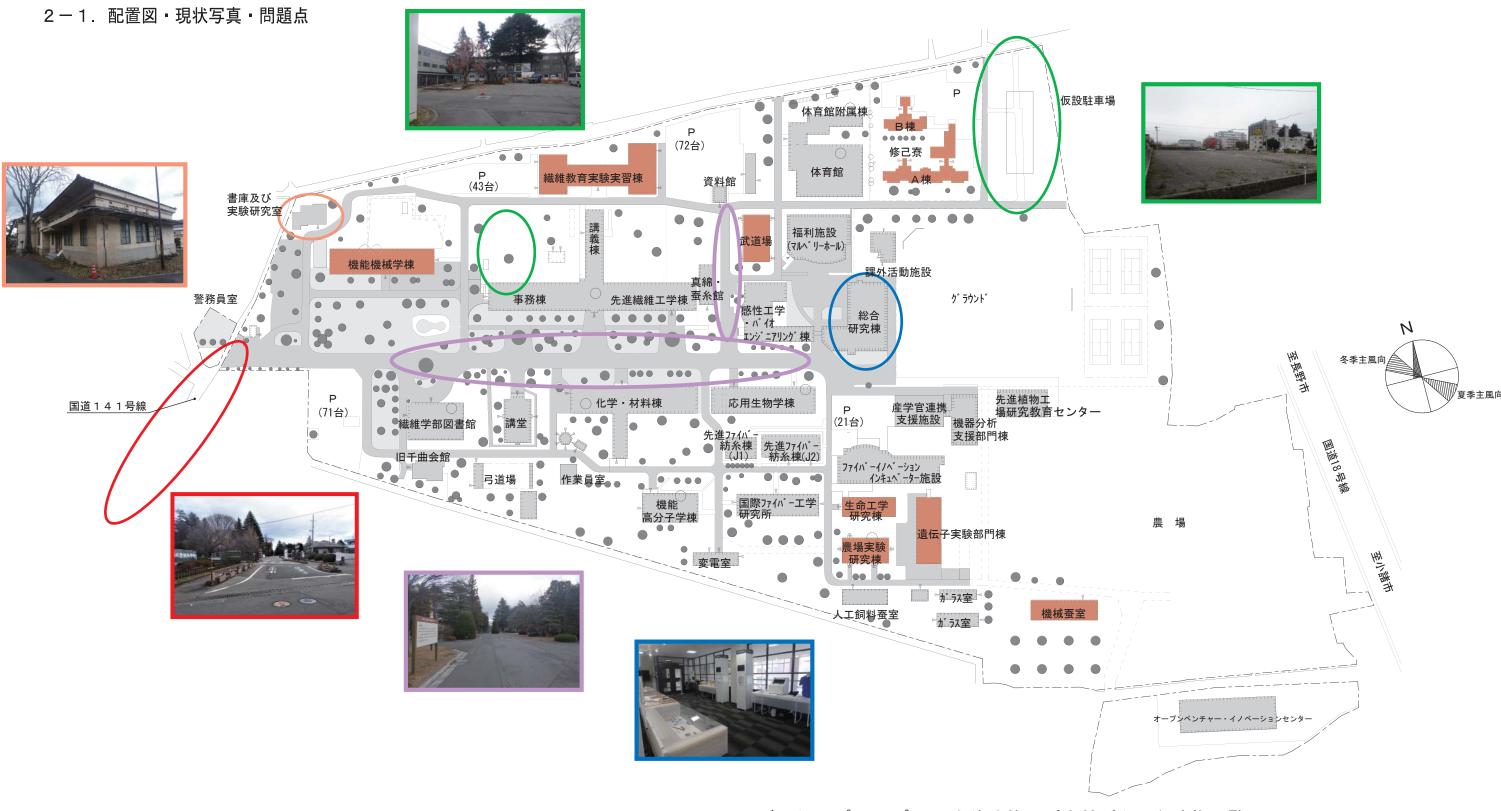
# キャンパスマスタープランについて

	1 — 1. 目的1
	1 - 2 . 基本方針 ······ 1
	1-3. 位置づけ
	1-4. キャンパスの全体像
	1-5. 各キャンパス共通事項4
Ξ.	上田キャンパス
	2. 現状分析
	2-1. 配置図・現状写真・問題点 ······ E-1
	2-2. ディベロップメントプラン E-1
	3. 上田キャンパスマスタープラン
	3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針 E-2
	3-2. 整備方針と戦略 ····· E-3
	3-3. カテゴリー別計画
	3-3-1. 全体骨格・フレームワーク E-4
	3-3-2. 施設配置·計画 ····· E-5
	(1)施設環境マネジメント (2)キャンパス資源の整備
	(3) デザインガイドライン (4) 環境・サステイナビリティ
	3-3-3. パブリックスペースの計画 E-7
	(1) 緑地・緑化計画 (2) ランドスケープ整備
	(3)サイン・アート計画 (4)ユニバーサルデザイン
	3-3-4. 交通・動線の計画 E-9
	(1)駐車場有料化 (2)車両通行路整備
	3-3-5. 設備・インフラストラクチャーの計画 E-11
	(1)インフラ整備

3-3-6. コミュニティ(地域	域・学生・教職員の交流)	の計画	E-12
(1)施設の地域開放促進			

3-4. 附属施設の計画

2. 現状分析



#### 問題点凡例

国道141号線からのアクセスが分かりにくく、正門の整備を含め検討が必要である。

書庫はデザイン及び歴史的に興味を引く建物であり、存廃及び改修の検討が必要である。

最先端繊維の資料展示の拡充を検討する。

国際交流会館及び講義棟建設を検討する。

車両通行禁止エリアを検討する。

# 2-2. ディベロップメントプラン(今後改修及び立替が必要な建物一覧)

ディベロップメントプラン							
機能機械学科棟改修	1962 (昭37)	R3	2, 344 m²	繊維教育実験実習棟改修	1988 (昭63)	R2	1, 555 m <sup>2</sup>
遺伝子実験支援部門棟改修	1999(平11)	R4	1, 530 m²	武道場改修	1913(大2)	W1	370 m <sup>2</sup>
農場実験研究棟改修・機械蚕室建替	1978 (昭53)	R2	680 m²	修己寮建替	1976(昭51)	R4	1, 846 m <sup>2</sup>
生命工学研究棟改修	1986 (昭61)	R2	605 m²				

ディベロップメント対象建物

3.上田キャンパスマスタープラン

# 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学上田キャンパスは、大学の理念及び繊維学部の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する 舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマス タープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分 析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず整備方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨 格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、環境・インフラ、コミュニティというカテゴ リーに分類整理し、全体骨格を除くカテゴリーについては、項目ごとに短・中・長期整備スケジュール を立案する。

#### ■繊維学部の理念・目標

#### (理 念)

豊かな自然に抱かれた本学部・大学院は、衣・食・住の要である"繊維"に根ざした伝統的な科学技術を背景として、学際的先端科学技術のさらなる展開を図り、21世紀における文化創造科学技術を開拓する。さらに、優れた人格と国際性を有し、未来を創造しうる、広い視野と高い能力を持つ技術者、高度専門職業人、研究者を養成する。そして、地球環境と共生し、人類社会の発展と平和、福祉の向上に資することを理念とする。

#### (目標)

### ○教育の目標

優れた人格の形成、進展する科学技術と社会の変化に対応しうる能力・未来創造能力、基礎学力に裏付けされた専門性、国際性、情報処理能力を涵養し、技術者、将来の研究者として十分な基礎的素養を身につけ、総合的視野と高い能力を備えた人材を養成する。

#### ○研究の目標

- ・国際的・学際的工学系新領域の開拓
- ・新ライフスタイルを生み出す文化創造科学技術の創成
- ・フロンティア繊維総合技術科学の国際的中核研究拠点(COE)の形成
- ・産学官連携協力による新産業の創出
- 地域産業の振興への貢献

# I.信州大学・繊維学部の理念

- ・カーボンニュートラルキャンパス(環境との共生)
- 日本で唯一の繊維学部(個性)
- ・ファイバー工学の国際的拠点
- ・地域社会との連携、産学官連携
- ・安全快適なキャンパス環境
- ・21世紀の文化を創造する科学技術
- ・高度な専門知識、先端技術開拓

# Ⅱ.立地条件

- · 千曲川近傍
- ・かつての蚕糸産業地
- ・北陸新幹線上田駅及び上信越自動車道上田菅平IC
- ・日本最大の繊維産地(北陸)と日本最大の消費地 (東京)の中間に位置する
- ·標高 467m

#### Ⅲ. 現状分析

- ・老朽化対策(経年劣化、社会的劣化への対応)
- ・歴史的建造物の保存・活用
- ・シンボル的な緑地
- 現状施設の有効利用

# Ⅳ. ユーザーのニーズ

- ・ユニバーサルデザインへの対応 バリアフリー、サイン計画
- ・安全性の確保 交通・動線・危機管理
- 駐車場の確保
- 学習環境の整備、図書館機能の拡充整備

# キャンパス マスタープラン

〇整備方針と戦略

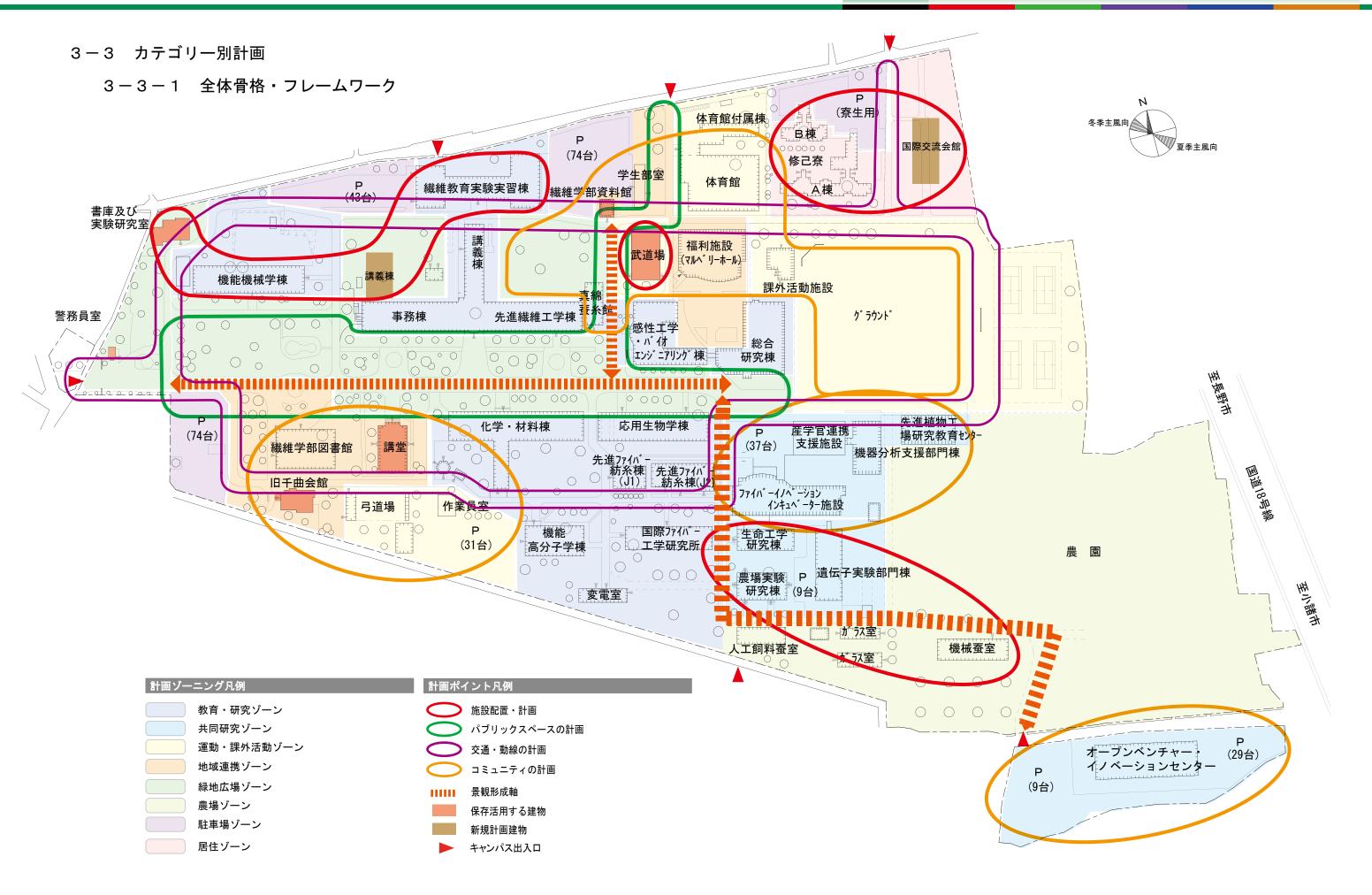
〇カテゴリーごとの計画

〇短中長期整備スケジュール

# 3-2.整備方針と戦略 ~歴史の糸で最先端を紡ぐ 創造と継承の場~

キャンパスの整備方針とその戦略を下表にまとめる。

	整 備 方 針 —————————————————————————————————	₩ 略 ——	カテゴリー
1 キャンパス アイデンティティー	【最先端技術を生かす】  ・先進繊維・感性工学科、機械・ロボット学科、化学・材料学科、応用生物科学科、全国に1つしかない学部 【歴史を生かす】  ・養蚕業の地域的歴史	・歴史的情緒の感じられる空間づくり ・外来者がアクセスしやすい動線整備 ・最先端繊維の資料展示や製品の販売	<ul> <li>一 施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li> <li>一 施設配置・計画(3)デザインガイドライン</li> <li>ー パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</li> <li>ー パブリックスペース(3)サイン・アート計画</li> <li>ー コミュニティ(1)施設の地域開放促進</li> </ul>
	【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 ・中央の目抜き通りと環状道路 ・アクセスのしやすさ 【二一ズに対応した施設利用】 ・学生、教職員の交流スペース ・教育研究環境の充実 ・駐車場、駐輪場動線の見直し及び整備 【老朽化対策】 ・建物の安全性の確保 【歴史資産の活用】 ・現代ニーズに合わせた利用 ・既存遊休施設の再生利用	・歩行者の回遊を誘導する緑地・広場の整備 ・中央の目抜き通りの景観整備 ・ゲートの整備と歩車分離の整備 ・駐車場の有料化 ・施設整備(歴史的建物の保存・リニューアル) ・機能改善、老朽改善 ・インフラストラクチャーの見直し	・施設配置・計画(1)施設環境マネジメント ・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備 ・パブリックスペース(1) 緑地・緑化整備 ・パブリックスペース(2)ランドスケープ整備 ・交通・動線(1)駐車場有料化 ・交通・動線(2)車両交通路整備 ・設備・インフラ(1)インフラ整備 ・コミュニティ(1)施設の地域開放促進
3 地域社会との連携	【「知財・人財・資財」の共有、発展】 ・産学官連携支援施設 ・知的クラスター、企業との共同研究 【地域住民との共生】 ・パブリックスペースの地域開放	・企業との連携、共同研究推進 ・外来者用駐車場の適所配置 ・地域に開放した緑地の整備 ・図書館、体育館、講堂等の地域開放 ・イノベーションコモンズ(共創拠点)の整備	施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備 パブリックスペース(1) 緑地・緑化整備 交通・動線(2)車両交通路整備 コミュニティ(1)施設の地域開放促進
4 参加型キャンパス	【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 ・学生、教職員が参加した点検評価 ・参画意識向上	<ul><li>・定期的な点検評価のシステム、組織づくり</li><li>・キャンパスづくりへの参加活動</li></ul>	施設配置・計画(3) デザインガイドライン パブリックスペース(3) サイン・アート計画 コミュニティ(1) 施設の地域開放促進
5 サスティナビリティ	【地域の風土の反映】・地場産材の使用や地域産業との連携【カーボンニュートラルキャンパス】・省エネ、CO2削減、エネルギー使用の合理化【循環型社会への取り組み】・3Rの推進(リサイクル、リユース、リデュース) 再資源化	・県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)の使用 ・維持管理計画の策定 ・高効率機器への更新、導入 ・太陽光発電の導入、拡大	施設配置・計画(1)施設環境マネジメント 施設配置・計画(4)環境・サステイナビリティ 設備・インフラ(1)インフラ整備
6 ユニバーサルデザイン	【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 ・誰もが使いやすい 【わかりやすいキャンパス】 ・迷わない案内	・バリアフリー化計画 ・ユニバーサルデザイン(デザインガイドラインの策定及び実施) ・サイン計画	施設配置・計画(3) デザインガイドライン パブリックスペース(3) サイン・アート計画 パブリックスペース(4) ユニバーサルデザイン
<b>7</b> 安全・安心なキャンパス	【安全な歩行空間】 ・人と車と自転車の動線の分離 【防犯、危機管理】 ・夜間の安全性	・交通計画(車両通り抜け道路の整備)、駐車場・駐輪場計画 ・照明計画 ・防災設備計画(構内放送等の整備)	・パブリックスペース(3) サイン・アート計画 交通・動線(2)車両交通路整備 ・設備・インフラ(1)インフラ整備



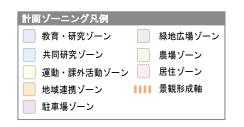
# 3-3-2 施設配置・計画

#### ■現状と課題

登録有形文化財の講堂をはじめ歴史的建物が現存し、上 田キャンパスの顔ともなっている。一方で、内外装の老朽 化が進み、現状の施設を最大限に活かしつつ、構造的な安 全性の確保とニーズに対応した空間の整備が必要である。 また国際研究者や短期交換留学生も年々増加傾向にあり、 国際交流機能の充実が求められる。

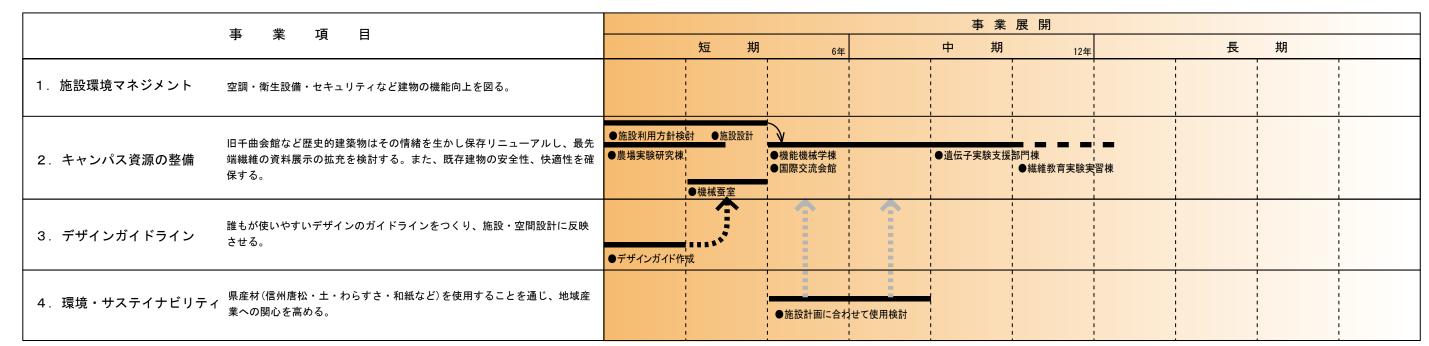
#### ■方針

景観形成軸沿いを中心に、養蚕の歴史・技術の展示と体 験から成るキャンパスミュージアム構想を検討する。歴史 的建物はその情緒を生かし保存リニューアルし、地域に開 放したり学内交流の拠点ともなるよう整備する。また、学 生が安全かつ快適にキャンパスライフを送れるよう、既存 建物の老朽化対策をし、ニーズに対応したリニューアルを 行う。景観形成軸に面するファサードは景観に配慮したデ ザインとする。内外装は地元の材料等の使用を積極的に検 討する。さらに、誰もが使いやすいユニバーサルデザイン のガイドラインを作成し、順次整備する。









# キャンパス資源の整備

3. 上田キャンパスマスタープラン

一施設配置・計画ディテールー

# ■方針

豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設、地域の人も利用できる交流施設など、既 存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

# ●農場実験研究棟の改修

一部、土手状の丘とする等、学生の憩いの場として整備する。



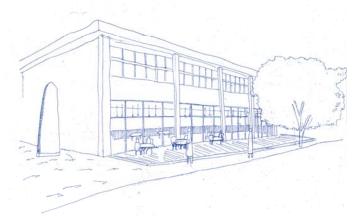


現状

# ●グラウンド緑化

養蚕技術の継承の場として整備する。景観形成軸沿いに位置するため、周囲との連携を踏まえたフ ァサードデザインとする。





現状

整備イメージ

#### ●書庫

エントランスから近いという立地を生かし、資料保管・展示施設として整備する。





#### ●国際交流会館

1階部分に交流スペースを設けて、混住による国内外の学生間の交流を図る。





整備イメージ

3. 上田キャンパスマスタープラン

# 1 全体骨格 2 施設配置・計画 3 パブリックスペース 4 交通・動線 5 設備・インフラ 6 コミュニティ

# 3-3-3 パブリックスペースの計画

#### ■現状と課題

正門から東に向けてまっすぐ伸びる景観形成軸の両脇には手入れの行き届いた多種の庭木が植えられ、キャンパス景観の重要な要素となっている。400種の桑が農場では植えられており、優れた緑地環境を構成している。しかし駐輪場不足によってあふれた自転車が目立ち景観を損ねているので、地域の人も庭木を鑑賞できる歩行空間としての整備が必要である。

#### ■方針

既存の緑地をつなぎ、キャンパス内を回遊できるよう中央の歩道 空間を軸とした植栽整備を行う。中央の緑地は、近隣住民も親しめ る場となるよう整備する。その前庭となる繭庭は、小さな子供も遊 べるよう池及び芝生の整備を行う。

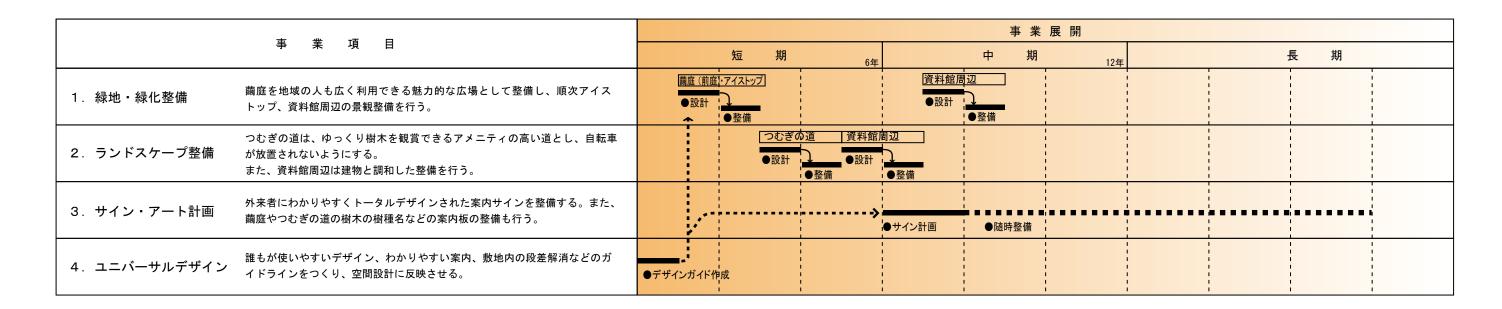
また、資料館周辺の交流施設へ続く絹の道も緑豊かな道とし、 人々を導く軸線として整備する。さらに、夜間の安全が確保できる よう適所に照明を整備する。

定期的なイベントとして桜、しだれ桑等の植樹を行う。









# 緑地•緑化整備

-パブリックスペースの計画ディテール-

#### ■方針

つむぎの道の整備や夜間の照明演出等の工夫をし、広く地域の人も利用できる緑豊かな広場を整備する。

# ●全体計画

- ・つむぎの道を中心に、各所に人々が滞留できる広場を整備する。
- つむぎの道への車両通行禁止を検討する。
- ・構内ベンチの再塗装など、構内空間の上質化を行う。
- 樹木を維持する。
- ・キャンパスの情緒ある景観を損なわないよう植栽や自然素材を使うなどの配慮をする。

### ●つむぎの道

正門からキャンパスに入ると、多くの樹木が立ち並んでいるのがわかる。特に、ヒマラヤスギが立ち並ん でいる様子はここにしかない景観であり、この中央の通りは車が通らないので安心して緑を楽しむことがで きる。緑地化したグラウンドとつなげ、憩いの場とする。



現状

# ●絹の道

植栽やベンチを設置し、放置自転車を抑制する。資料館の建物とあわせて、道というよりも広場のな かに建物が位置しているような景観整備を行う。



現状

整備イメージ

# ●資料館周辺の緑地整備

- ・絹の道と連携して整備を行う。
- ・広場のような空間を目指す。
- ・低木の枝剪定など、空間の上質化を行う。
- ・定期的に桜、しだれ桑等を植樹する。





整備イメージ

# 3-3-4 交通・動線の計画

#### ■現状と課題

現在、車両が景観形成軸を横断し、歩行者の快適性及び安全面の 弊害となっている。また、キャンパス内の放置自転車は景観悪化の 原因となっている。

#### ■方針

歩行者の安全性と快適性を確保するため、正門から資料館手前ま での北ルート沿いの駐車場に加え、ファイバーイノベーションイン キュベーター施設まで通る南ルート沿いに新たに駐車場を確保する ことで中心軸のつむぎの道から完全に自動車を排除する。駐車場及 び駐輪場は、全体計画と必要台数を照らし合わせて再検討を行い、 景観に配慮したものとする。

	整備前	整備後
駐車場	382 台	402 台
駐輪場	545 台	545 台

計画ゾーニング凡例

教育・研究ゾーン

運動・課外活動ゾーン

共同研究ゾーン

地域連携ゾーン

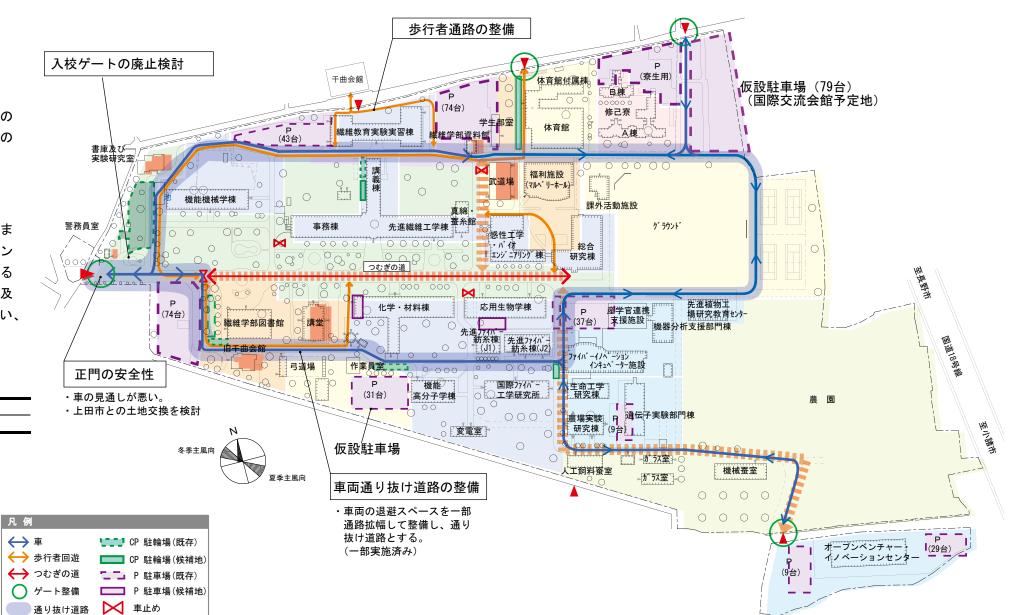
駐車場ゾーン

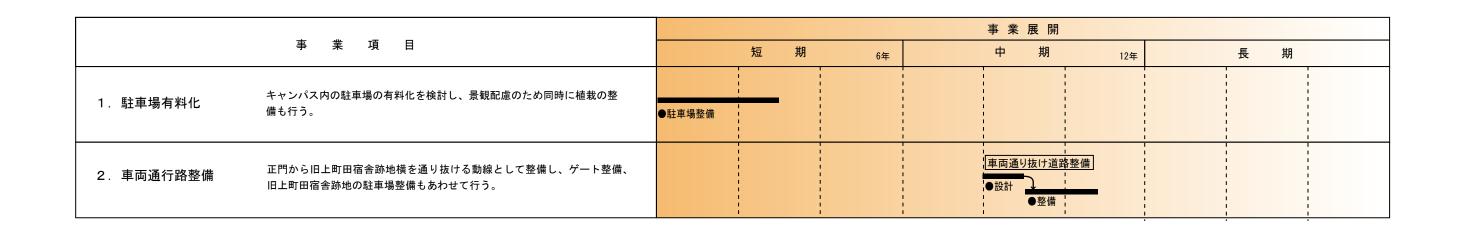
緑地広場ゾーン

農場ゾーン

居住ゾーン

●■▶ 景観形成軸 保存活用する 歴史的建物





# 1 駐車場整備

一交通・動線の計画ディテールー

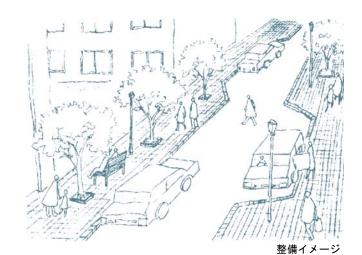
# ■方針

自動車はキャンパスのエントランス部分と通り抜け道路沿線にある駐車場に駐車することを原則とし、キ ャンパス中心軸への乗り入れは、緊急車両及び身障者対応時に限るものとする。

#### ●構内道路整備

車両の退避スペースを一部通路拡幅して整備し、通り抜け道路とする。





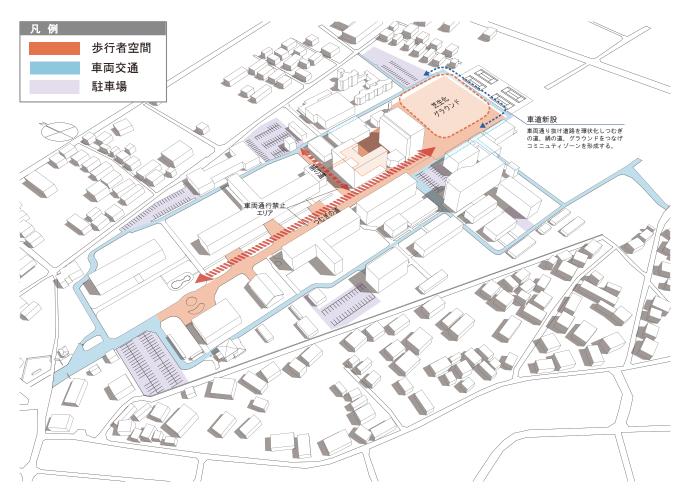
#### ●つむぎの道への車両進入禁止

中央通りであるつむぎの道への車両通行を禁止し車両用に南北の通りを整備する





# ■車両通り抜け道路の環状化



#### ■現状と課題

[電 気 設 備] 1回線高圧受電方式で、共同溝及び地中埋設管路を利用して 各棟へ配電。

[給 水 設 備] 市水本管より供給を受け、低層建物は直結給水方式、高層建物は高置水槽方式により各建物に給水。尚、一部の建物では、雨水を中水として利用。

[排 水 設 備] 雨水系・生活系・実験系の3系統分流式。雨水系は、地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は公共下水道へ放流。尚、実験排水は建物単位でPH濃度をモニタリングしいる。

[ガス設備] 都市ガス(13A)を1箇所より引き込み、土中埋設配管にて各 建物に供給。

[空 調 設 備] 新営建物及び改修整備済建物についてはガスヒートポンプに よる個別空調が主体となっている。それ以外はFFガス暖房機 となっており、交換が必要である。

[廃 棄 物] 資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイクル化を推 進。それ以外の一般廃棄物及び実験系廃棄物は業者に委託し て処分している。

#### ■方針

#### 1. 省エネルギー化

GHP(ガスヒートポンプ)、EHP(電気ヒートポンプ)の比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。また、可能な限り空調・電気・衛生設備等について省エネ型、トップランナー型機器の導入、廊下・トイレ等の公共部におけるLED照明と人感センサー化のさらなる推進、建物の断熱化等、省エネルギーにつながる取り組みを促進する。また、カーボンニュートラルに向けた取り組みとして、新築・大規模改修にかかわらず、原則ZEB Oriented相当以上の省エネルギー消費性能の実現可能性を検討する。

#### 2. 地球環境への配慮

カーボンニュートラルを実現するため定量的な評価手法を導入し、到達するまでのロードマップを作成する。省エネだけでなく低公害の太陽光発電などの創エネ導入(新エネルギーの供給)も組み合わせて目標達成に努める。

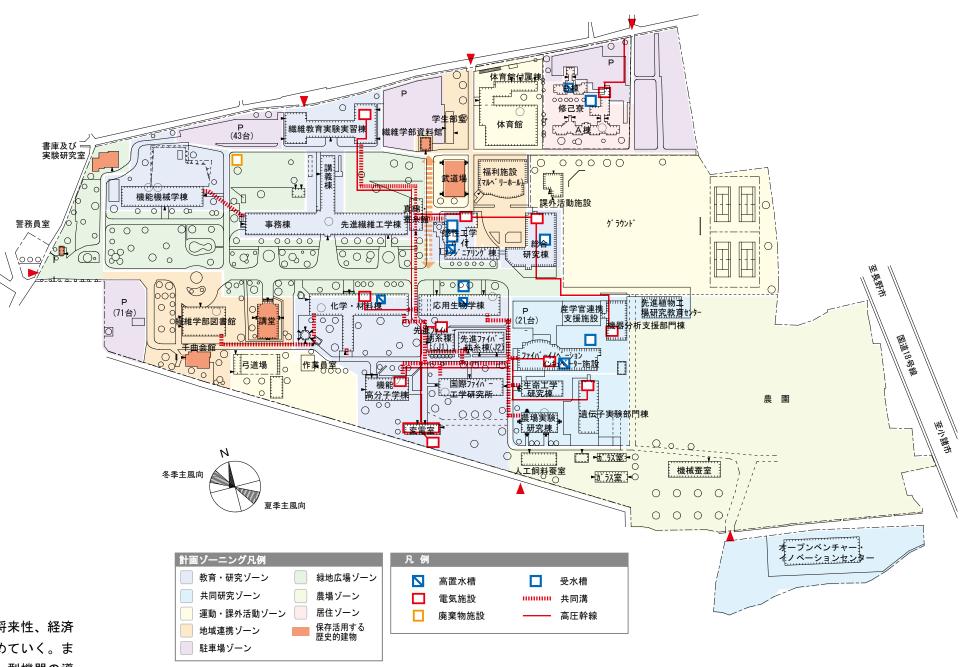
3. 循環型社会への取り組み

ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物(水、空気、物質)処理におけるエネルギー利用化を図るなど研究し取り組んでいく。

4. 衛生管理上の問題への配慮

衛生管理上の問題から、受水槽や高置水槽の回転率が適正になるように、系統、給水 計画を検討する。

5. 耐用年数や劣化度から電気の安全な利用のため、電気設備の計画的な更新を図る。





# 3-3-6 コミュニティ(地域・学牛・教職員の交流)の計画

#### ■現状と課題

上田キャンパスは歴史的建物や手入れの行き届いた樹木などを有する気持ちの良いキャンパスであり、散策する 市民も見受けられる。また、産学官連携施設もあり外来者も多い。講堂や図書館がある静かなゾーン、体育館や福 利施設といった人の動きのあるゾーン、産学官連携施設があるビジネスゾーンの3つのコミュニティゾーンが存在し、 それらがキャンパス内に点在している。

#### ■方針

- 1. 従来、上田キャパスは正門やゲートを通り、各建物にアクセスする閉じた空間であり、地域とは塀などが隔てて おり、「地域に開かれた身近なキャンパス」になるための障害となっていた。2017年度のまちなかキャンパス開 設やオープンベンチャーイノベーションセンター(OVIC)の建設により、キャンパスの外とのつながりが見られ るようになった。今後は、このまちなかキャンパスやOVICが緩衝材となり、上田キャンパス全体が地域との交流 の場となることを目指す。
- 2. 図書館機能の拡充を図り、キャンパスに分散保管している蔵書の集約、学習室(閲覧室)の拡大再整備を行う。

± **	事 業 項 目		事 業 展 開			
<b>事                                    </b>			中期 12年	長 期		
1. 施設の地域開放促進 図書館	棺・福利施設など、施設の地域開放を促進する		▶検討·実施			

#### 施設の地域開放促進

ーコミュニティの計画ディテールー

#### ■方針

真綿・蚕糸館をはじめ、既存の講堂や図書館などを積極的に小学生を含む地域住民へ開放する。

#### ●資料館

繊維の歴史や最先端技術を紹介する。

●既存施設(講堂、体育館、図書館) 教職学協働に配慮しながら、トータル的な施設運営管理や柔軟なソフト展開も検討する。

#### ●旧千曲会館

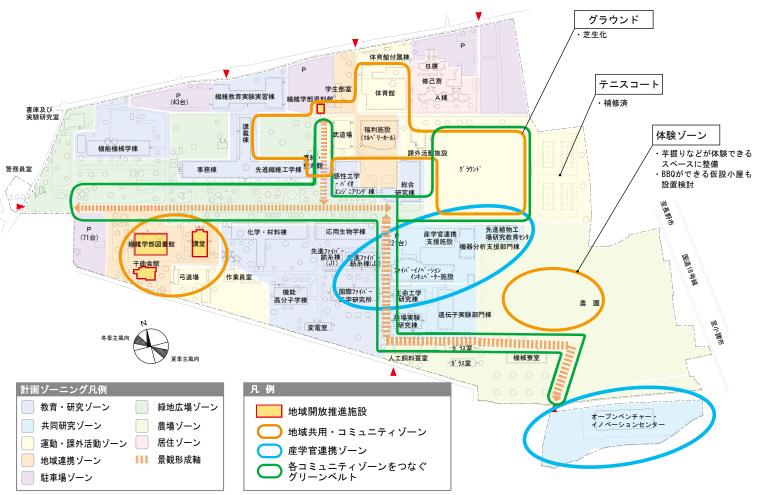
交流会館として利用する。

# 産学官の連携

ーコミュニティの計画ディテールー

#### ■方針

大学における基本的使命である「教育」と「研究」に加え、第三の使命である「社会貢献」に関し、本学の教育、研 究の付加価値を高め、信州大学における知の成果を積極的に社会へ還元する。現在様々な活動を諸機関と連携し行って いるが、それらをさらに発展させる。



#### ●国際ファイバー工学教育研究センター (Fiber-IREC)

次世代ファイバー工学研究の展開、ファイバー工学分野におけるグローバル人材の育成、国内外の大学・研究機関と の連携、産学官連携のための研究シーズの創出を行う国際的教育研究拠点(COE)である。

#### ●ファイバーイノベーション・インキュベーター (Fii)

オープン・イノベーション創出の基盤となる技術開発を企業・大学等が協働して推進し、実用レベルの製品試作から 分析・評価までの一連の研究開発が可能なパイロットラインやレンタルラボを備えた施設である。

#### ●先進植物工場研究教育センター (SU-PLAF)

太陽光利用完全制御型コンテナ植物工場の開発、高付加価値野菜栽培システムの開発、植物工場に関わる人材育成を 行うために、共用施設・機器機器やレンタルラボを備えた植物工場研究開発拠点である。

#### ●オープンベンチャー・イノベーションセンター (OVIC)

信州大学の材料科学の知見やノウハウ及び実証評価体制と、地域産業界が有する屈指の超精密技術という地域の強力 なシーズを融合し、先進的かつ持続可能な新事業を創出するベンチャーエコシステムの確立を目的として、長野県との 共同申請により設立された大規模産学官連携施設である。

#### ●上田市産学官連携支援施設(浅間リサーチエクステンションセンター、AREC)

地域の企業(産)、信州大学等(学)、行政(官)が連携して新技術等の共同研究開発を促進し、産学連携、産産連 携を活性化させて地域産業を振興することを目的として上田市が設置した施設である。

#### ●株式会社 信州TL0

信州大学及び長野工業高等専門学校にある特許権等の知的財産を企業へ技術移転することを支援する目的で設立され、 産学官連携による技術移転の架け橋として新たな共同体制の構築を行っている組織である。

3. 上田キャンパスマスタープラン

# 3-4 附属施設の計画

# ■方針

- ・信州学びの里構想の促進
- ・千曲川ワインバレー構想の促進
- 大室農場実習棟の改修

主に用途の追加や使用機能の強化、通信網整備を行う。

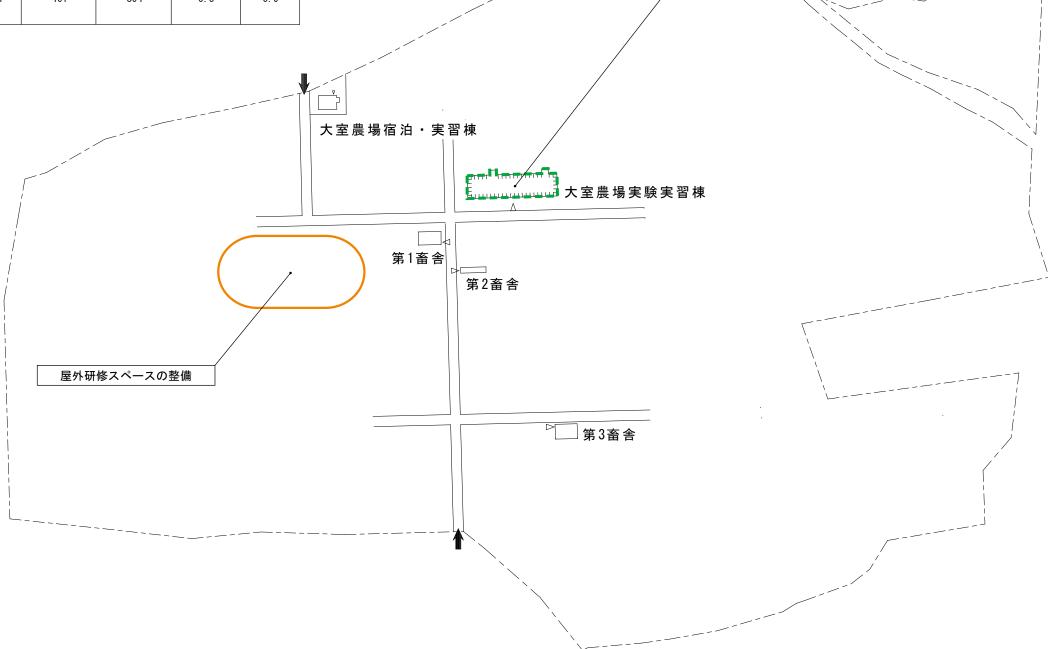
# ■用地リスト



凡 例

「一」内外装リニューアル

地域共用・コミュニティゾーン



大室農場実験実習棟

・小中学生対象の研修・見学会スペースの整備

・長期滞在が可能な研修スペースの整備

アーカイブ

# 【アーカイブ】

学生が主体的に関わるキャンパスマスタープラン作り

#### ■5キャンパスへのヒアリング調査と現地見学

本キャンパスマスタープラン作りでは、教職員だけでなく、信州大学工学部建築学科の学生6名が主体的に作成に関わっている。各キャンパス担当者1名、全キャンパス統括者1名の合計6名が、教職員と共に制作に関わってきた。実際に各キャンパスを訪問し、運営に携わる方々からのお話を伺うと共に現地を見学し、その内容を踏まえた上での提案をしていく作業は、学生らにとっても通常の講義とは異なる有意義な経験となった。

#### ■キャンパスごとの教員と学生の定期的な打ち合わせと全キャンパス担当者合同の綿密な打ち合わせ

キャンパスごとに担当の教員と学生が定期的に打ち合わせの機会を設けて、キャンパスマスタープランのクオリティを高めてきた。またキャンパス間でのレイアウト・デザインの整合性をとるために、2022年12月9日に学生6名と教員・環境施設部の担当者が信州大学工学部キャンパスマスタープラン室に集まり、綿密な打ち合わせを行った。

#### ■キャンパスマスタープランWG中間報告会・WG最終まとめ報告会

2022年11月11日に学生6名と共に環境施設担当理事、総務担当理事、教学担当理事への中間報告会を実施した。また2023年1月6日には同メンバーで最終まとめ報告会も実施した。担当教員からの成果報告だけでなく、各学生から キャンパスマスタープラン作成を通じての気づきや感想を話してもらうことで、非常に充実した会となった。

 2022.4
 2022.6
 2022.7
 2022.9
 2022.10
 2023.2.3 (学長報告)

└─ 2022.11.15(学長報告) - 2022.11.11(中間報告) └ 2023.1.6 (最終まとめ報告)



上田キャンパスでの現地調査



全キャンパス担当者合同の打ち合わせ



キャンパスマスタープラン WG 中間報告会



# 制作

#### ●キャンパスマスタープラン策定プロジェクトチーム

(リーダー) 藤澤 晃 (財務、環境施設担当理事)

(戦略担当) 永松裕希(総務担当(プロボスト)理事)

(学 生 担 当) 平野 吉直 (教学担当理事)

(計画担当・総括) 寺内 美紀子(工学部教授)

(建築計画担当) 羽藤 広輔 (工学部教授)

梅干野 成央(工学部准教授)

佐倉 弘祐 (工学部助教)

(インフラ担当) 高村 秀紀 (工学部教授)

(構造担当) 遠藤洋平 (工学部准教授)

(施 設 担 当) 大江 信浩 (環境施設部長)

環境施設部 / 学務部



# ●キャンパスマスタープラン策定プロジェクトWG

(座 長) 寺内 美紀子 (工学部教授)

(建築計画担当) 羽藤 広輔 (工学部教授)

梅干野 成央 (工学部准教授)

佐倉 弘祐 (工学部助教)

(インフラ担当) 高村 秀紀 (工学部教授)

(構造 担当) 遠藤 洋平 (工学部准教授)

(制作 担当) 工学部建築学科学生

青木 健祐 (寺内研究室)

内藤 雅貴 (寺内研究室)

嶋中 大和 (寺内研究室)

南雲 裕太 (寺内研究室)

福田 凱乃祐 (寺内研究室)

長谷川 暢哉(寺内研究室)

# 【事務職員】

(建築計画担当) 渡邊 保博 (環境施設部環境整備課長)

野村 義継 (環境施設部環境整備課主査)

新川 竜悠 (環境施設部環境整備課主査)

(インフラ担当) 小田 純一 (環境施設部環境管理課長)

櫻井 哲男 (環境施設部環境整備課副課長)

小林 諭 (環境施設部環境管理課副課長)

神原 浩二 (環境施設部環境整備課主査)

瀬川 誠 (環境施設部環境整備課主査)

渡邉 慎 (環境施設部環境整備課係員)

横川 幸一 (環境施設部環境整備課係員)

(学 生 担 当) 村松 崇代 (学務部学生支援課長)

(庶務 担当) 和地勉 (環境施設部環境企画課長)

堀江 和徳 (環境施設部環境企画課参事)

岡本 澄香 (環境施設部環境企画課主任)

本間 久勝 (環境施設部環境企画課係員)

(アドバイザー) 大江 信浩 (環境施設部長)

#### ●撮影

(表 紙 中 央) 若林 武 「白馬」 (裏 表 紙) 本間 久勝 「白鳥」